
三重県
三重の森林づくりに関する県民意識調査
結果報告書

令和4年10月

三重県農林水産部 みどり共生推進課

作成：  株式会社 **東京商互リサーチ**

目次

第1章 調査概要	2
(1)調査目的	2
(2)調査対象	2
(3)調査内容	2
(4)調査方法	2
(5)調査期間	2
(6)回収状況	2
(7)調査実施機関	3
(8)報告書の読み方と留意事項	3
第2章 調査結果	5
1. 回答者属性	5
(1)お住いの市町	5
(2)性別	6
(3)年齢	6
(4)職業	7
2. 森林との関わりについて	8
(1)三重県の森林割合の認知度	8
(2)家族の森林所有有無	11
(3)子どもの頃の森林とふれあった機会の程度	14
(4)森林との現在の関わり	17
(5)森林について感じていること	20
3. 森林の多面的機能について	23
(1)森林のはたらきのうち、重要と考える機能	23
4. みえ森と緑の県民税について	27
(1)「みえ森と緑の県民税」の認知度	27
(2)みえ森と緑の県民税を活用した各種取組の重要性の認識	30
(3)第3期の「みえ森と緑の県民税」継続への賛否	44
(4)取組継続に『賛成』の理由	47
(5)取組継続に『反対』の理由	51
5. 森林づくりに関する情報について	54
(1)森林づくりに関する情報を目にする媒体	54
6. 森林づくりに関するご意見・ご要望	58
(1)県の森林・林業行政についてのご意見・ご要望	58
資料編	63
調査票	63

第 1 章 調査概要

(1) 調査目的

本県では、平成 26 年度より「みえ森と緑の県民税」を導入し、「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」の2つの基本方針に則り、5つの対策に沿った事業を、県と市町で役割分担のうえ実施してきた。

本業務は、県民の皆さんの森林づくりに関する意識を把握して、「みえ森と緑の県民税」を活用した三重の森林づくりの今後の参考とすることを目的とする。

(2) 調査対象

三重県在住の満 18 歳以上の個人 5,000 人

- ・調査対象は、各市町の選挙人名簿から無作為抽出
- ・各市町の対象者数は、選挙人名簿登録者数を基に算出

(3) 調査内容

1. 回答者属性
2. 森林との関わりについて
3. 森林の多面的機能について
4. みえ森と緑の県民税について
5. 森林づくりに関する情報について
6. 森林づくりに関するご意見・ご要望

(4) 調査方法

郵送配付、郵送回答方式・WEB 回答方式併用

(5) 調査期間

令和4年7月8日～8月9日

(6) 回収状況

発送数	回収数	うち郵送回収	うち WEB 回収	回収率
5,000 件	2,278 件	1,738 件	540 件	45.6%

(7)調査実施機関

株式会社東京商工リサーチ 津支店

(8)報告書の読み方と留意事項

- 図表中の「N」(Number of cases の略)は、設問に対する回答者の総数を示しており、回答者の構成比(%)を算出する際の基数である。
- 図表中の構成比は、小数点第 2 位以下を四捨五入している。
- 複数回答の設問は、回答が 2 つ以上ありうるため、合計は 100%を超えることもある。
- 無回答を除いて集計している。
- 統計上の有意性に鑑みて、回答件数が 10 件未満の場合はコメントの対象外としている。
- 自由意見については、森林・林業に関連しない記述、判別不明な文字を含む記述、個人を特定できてしまう記述、「特になし」等は避けて抜粋し、基本的に原文のまま掲載している。
- 本調査の標本誤差については、次ページを参照。

参考資料 ～本調査の標本誤差について～

母集団の一部を標本として抽出し、その回答からもとの母集団全体について推定する標本調査では、“真の値”(全数調査を行えば把握できるであろう値)との差が発生することが避けられない。この“標本誤差”は、次のような手順で見積もることができる。

まず、今回のように大きな母集団から標本を無作為抽出する調査では、ある選択肢が選ばれた比率(回答比率)pの“標準誤差”(回答比率の標準偏差)が次のように求められる。

$$\text{標準誤差} = \sqrt{\frac{p(100-p)}{n}} \quad n: \text{回答者数(人)} \quad p: \text{回答比率(\%)}$$

標本誤差はこの標準誤差と、結果に求める“信頼度”から見積もることができる。例えば、信頼度を、最も広く使われる95%(間違える確率が5%)とすると、標本誤差は次の式のように求めることになる。

$$\text{標本誤差} = 2 \times \text{標準誤差}$$

ここで、右辺第1項の2(厳密には1.96)は、想定する信頼度によって統計学的に決まる値である。回答比率プラスマイナス標本誤差の範囲が信頼区間と呼ばれるもので、信頼度95%の場合、真の値(母集団における比率)が95%の確率で、次の範囲におさまると考えることができる。これが、標本調査の精度である。

$$\text{回答比率} - \text{標本誤差} \sim \text{回答比率} + \text{標本誤差}$$

今回の調査では、5,000人の標本から2,278人の有効回答が得られた。回答者全員を対象とする集計結果の標本誤差を、上の式から具体的に計算すると、例えば回答比率が50%の場合は、2.1%、同20%では1.7%となる。このことから、三重県民(18歳以上)全体の意識を推定するために十分な精度を得ていると考えられる。

次表は、いくつかのn(回答者数)とp(回答比率)の組み合わせについて、信頼度95%の標本誤差を計算した早見表である。

【標本誤差の早見表】

回答者数(n) \ 回答比率(p)	5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%	45%	50%
	95%	90%	85%	80%	75%	70%	65%	60%	55%	
10,000	0.4	0.6	0.7	0.8	0.9	0.9	1.0	1.0	1.0	1.0
5,000	0.6	0.8	1.0	1.1	1.2	1.3	1.3	1.4	1.4	1.4
2,000	1.0	1.3	1.6	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.2	2.2
1,000	1.4	1.9	2.3	2.5	2.7	2.9	3.0	3.1	3.1	3.2
500	1.9	2.7	3.2	3.6	3.9	4.1	4.3	4.4	4.4	4.5
100	4.4	6.0	7.1	8.0	8.7	9.2	9.5	9.8	9.9	10.0

なお、標本誤差の計算は、特定の属性区分(例えば性別が女性など)の回答者n人とその比率pという組み合わせについても同様のため、上の表は、そのような標本誤差の早見表としても参照可能である。

第 2 章 調査結果

1. 回答者属性

(1)お住いの市町

「四日市市」が 16.5%と最も高く、次いで「津市」が 16.2%、「鈴鹿市」が 11.7%となっている。

(上段:件数、下段:%)

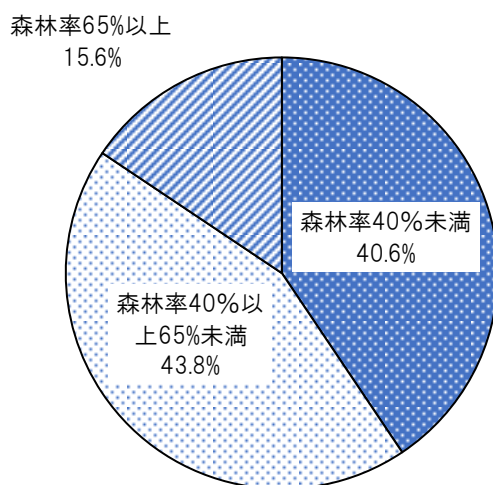
全 体	森林率40%未満									
	木曾岬町	川越町	東員町	明和町	朝日町	四日市市	鈴鹿市	桑名市	玉城町	
2,270	7	15	37	28	8	375	266	170	16	
100.0	0.3	0.7	1.6	1.2	0.4	16.5	11.7	7.5	0.7	

森林率40%以上65%未満									
菰野町	志摩市	伊勢市	名張市	多気町	いなべ市	津市	伊賀市	亀山市	
50	68	149	98	24	51	367	118	69	
2.2	3.0	6.6	4.3	1.1	2.2	16.2	5.2	3.0	

森林率65%以上											
御浜町	松阪市	鳥羽市	紀宝町	度会町	南伊勢町	熊野市	紀北町	大紀町	尾鷲市	大台町	
8	207	18	13	10	20	16	20	9	22	11	
0.4	9.1	0.8	0.6	0.4	0.9	0.7	0.9	0.4	1.0	0.5	

森林率地域区分で見ると、「森林率 40%以上 65%未満」が 43.8%と最も高く、次いで「森林率 40%未満」が 40.6%、「森林率 65%以上」が 15.6%となっている。

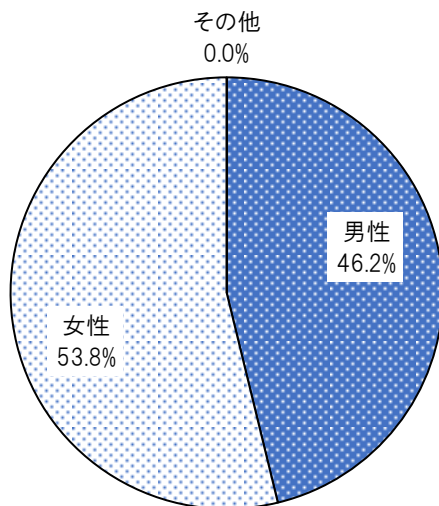
(N = 2,270)



(2)性別

「女性」が 53.8%、「男性」が 46.2%、「その他」が 0.0%となっている。

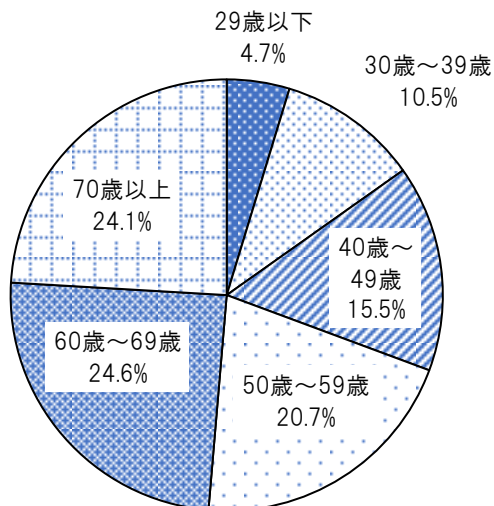
(N = 2,270)



(3)年齢

「60歳～69歳」が 24.6%と最も高く、次いで「70歳以上」が 24.1%、「50歳～59歳」が 20.7%となっている。

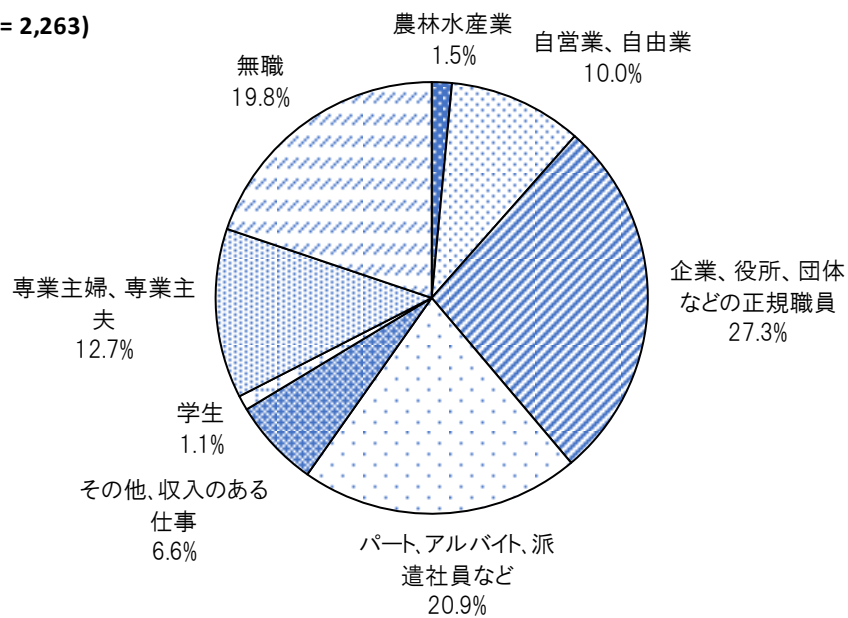
(N = 2,270)



(4) 職業

「企業、役所、団体などの正規職員」が 27.3%と最も高く、次いで「パート、アルバイト、派遣社員など」が 20.9%、「無職」が 19.8%となっている。

(N = 2,263)

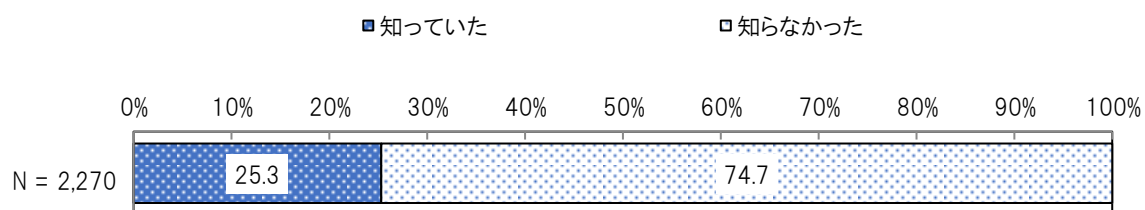


2. 森林との関わりについて

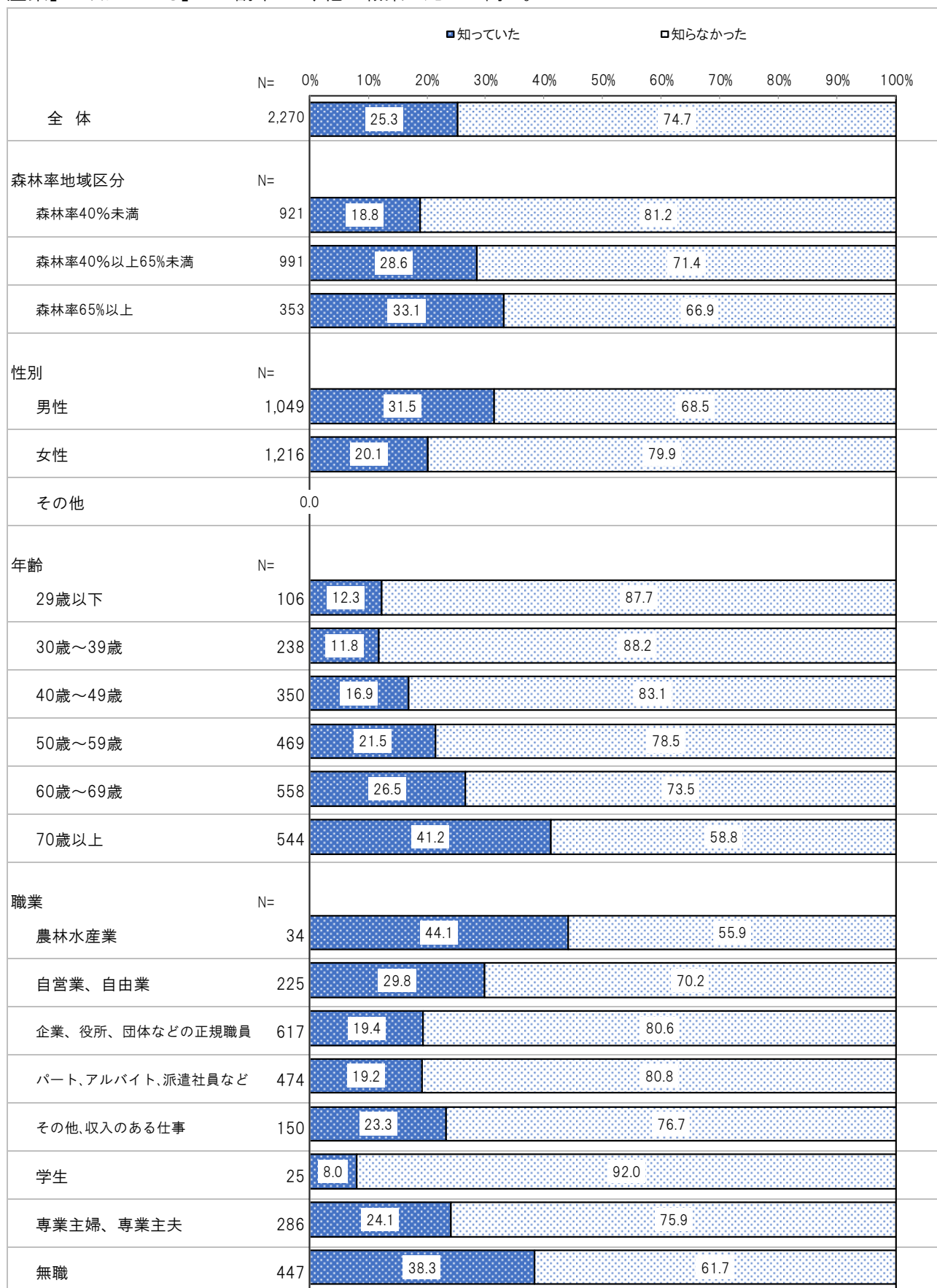
(1) 三重県の森林割合の認知度

問5: 三重県は県土の3分の2が森林です。そのうち、約6割は人が植え、育てた人工林(スギやヒノキ)と呼ばれる森林であることを知っていましたか。
(あてはまる番号1つだけに○をつけてください。)

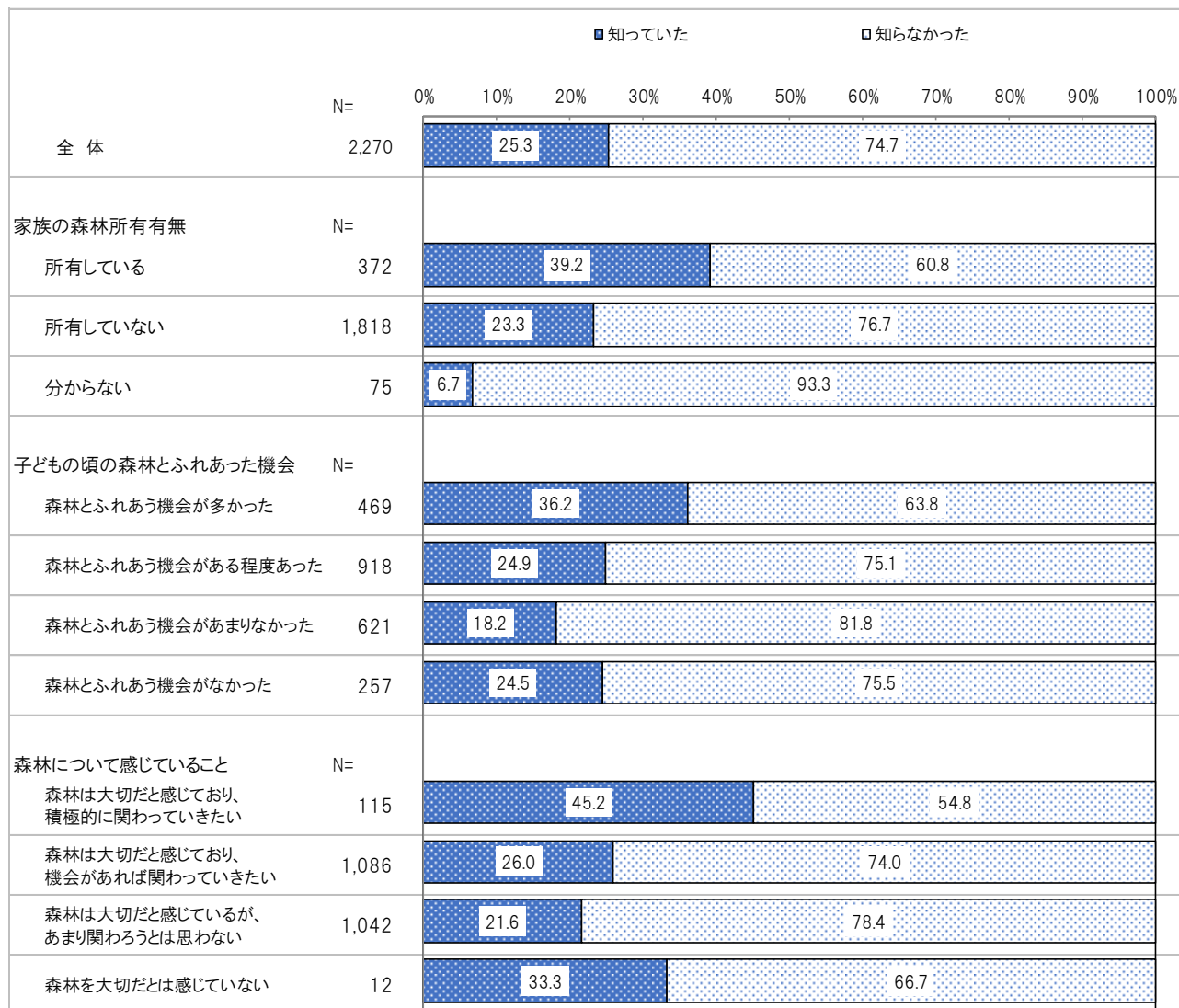
「知っていた」は 25.3%、「知らなかった」は 74.7%であった。



森林率地域区分別で見ると、森林率が高くなるにつれて「知っていた」の割合が高くなっている。年齢別でも、年代が高くなるにつれて「知っていた」が概ね高くなる傾向がみられる。また、職業別で見ると、「農林水産業」は「知っている」が4割半ばと、他の職業に比べて高い。



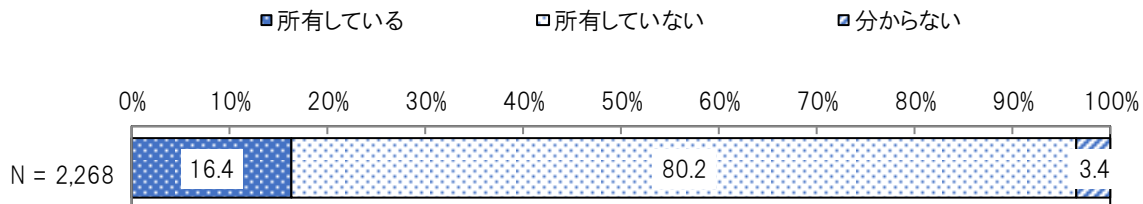
家族の森林所有有無別にみると、「所有している」では「知っていた」の割合が「所有していない」「分からない」に比べて高くなっている。また、森林について感じていること別でみると、「森林は大切だと感じており、積極的に関わっていききたい」では「知っていた」が4割半ばと、他の項目に比べて高くなっている。



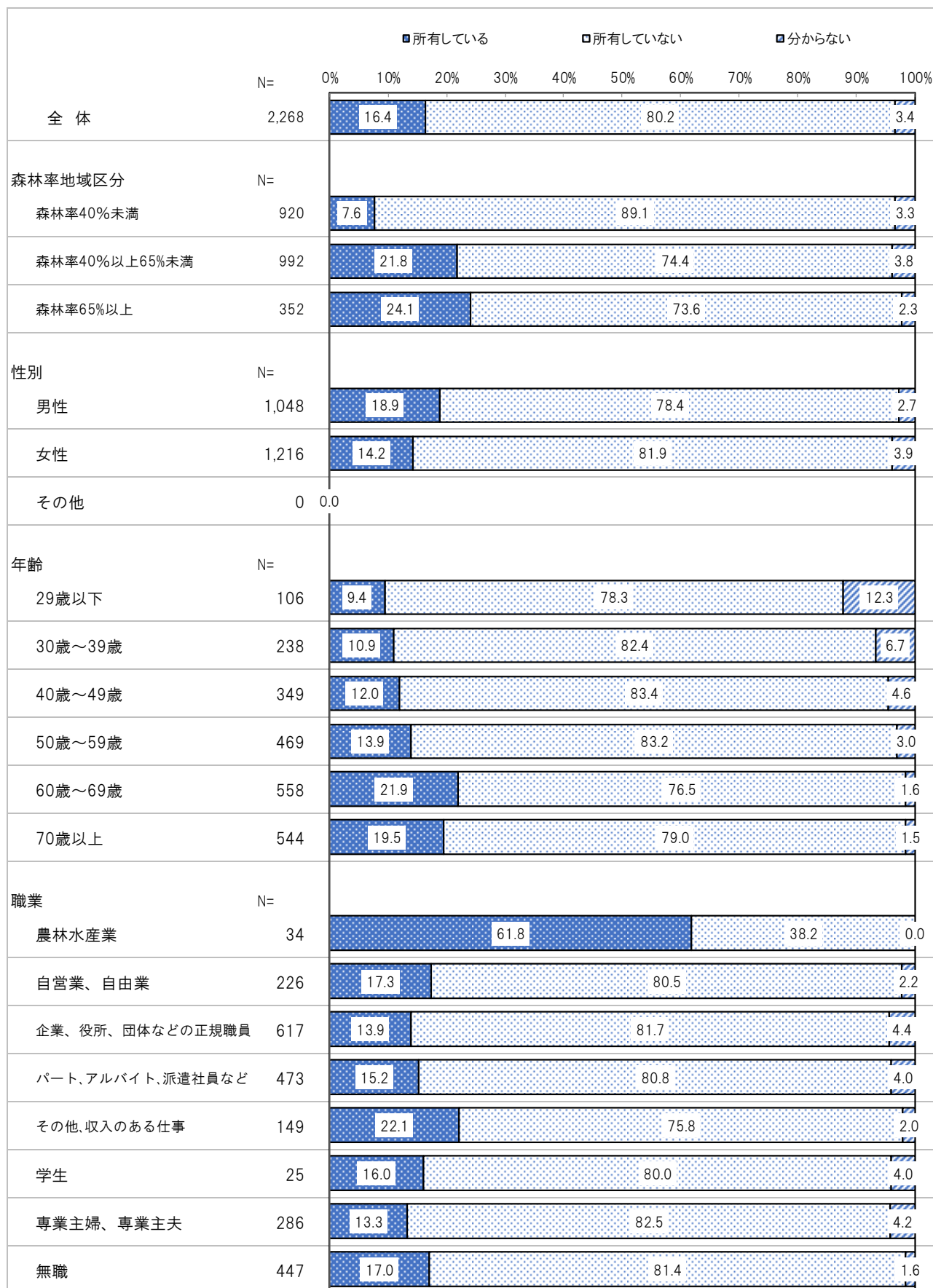
(2) 家族の森林所有有無

問6: あなた、もしくはあなたの家族(同居されている家族に限定)は、森林を所有していますか。
(あてはまる番号1つだけに○をつけてください。)

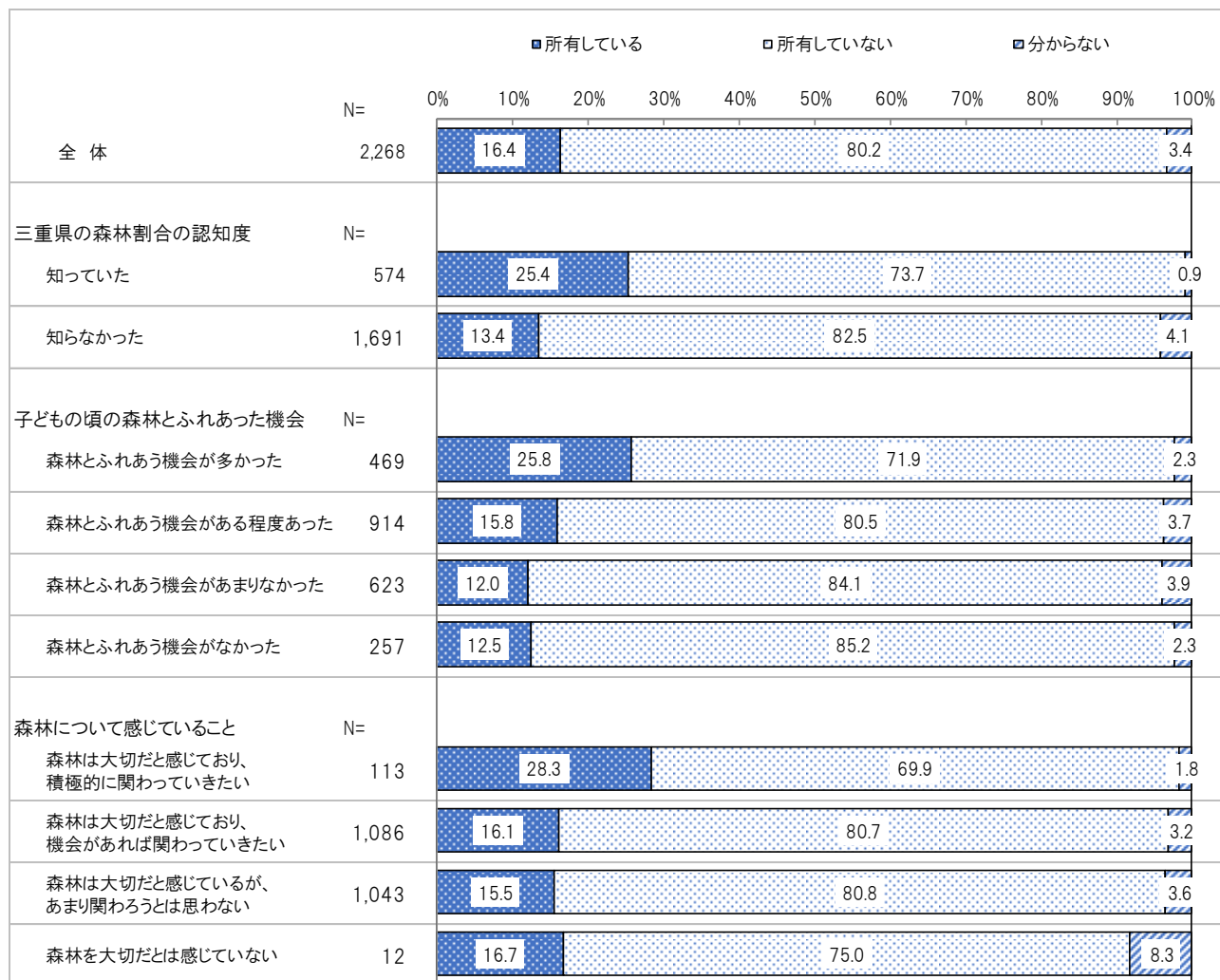
「所有していない」が 80.2%、「所有している」が 16.4%、「分からない」が 3.4%となっている。



森林率地域区別にみると、森林率が高くなるにつれて「所有している」の割合も高くなっている。職業別にみると、「農林水産業」では「所有している」が6割を超え、他の項目に比べて特に高くなっている。



森林について感じていること別にみると、「森林は大切だと感じており、積極的に関わっていききたい」では「所有している」が3割弱と、それぞれ他の項目に比べて高くなっている。



(3) 子どもの頃の森林とふれあった機会の程度

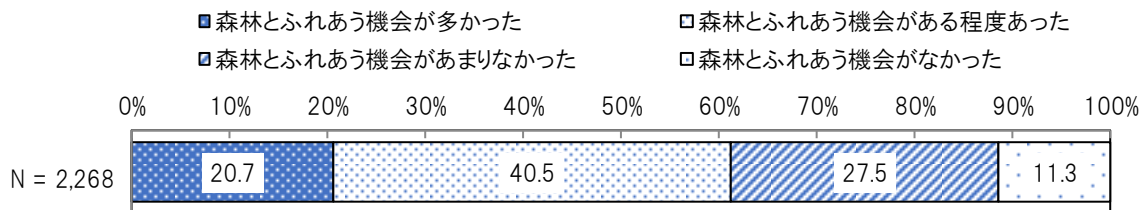
問7:あなたが子どもの時、森林とふれあう機会はどの程度ありましたか。

(あてはまる番号1つだけに○をつけてください。)

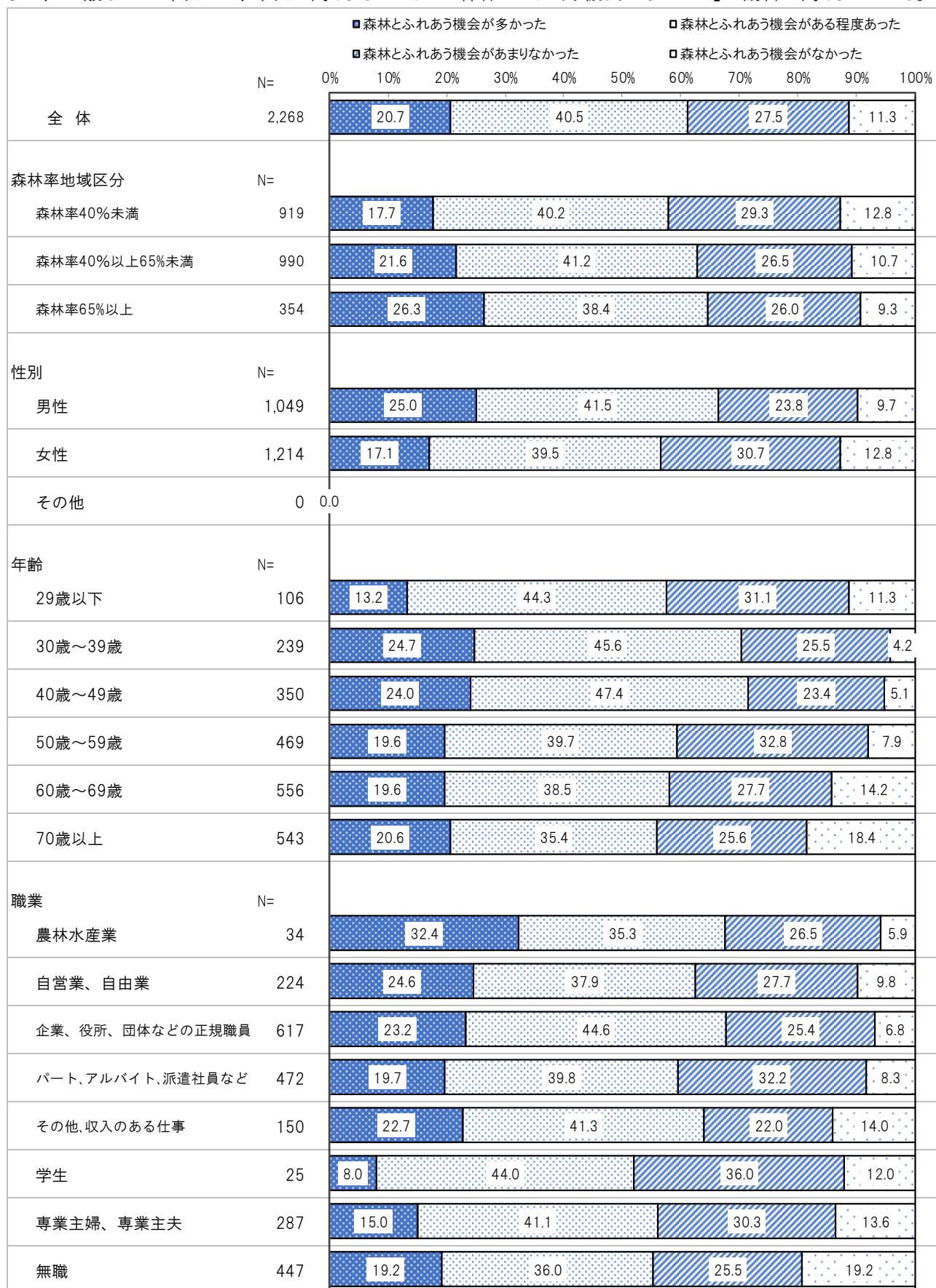
※森林とふれあう機会は、森林をフィールドとした遊び、学び、地域活動など、以下の例を参考に幅広く捉えてください。

(例)森林散策、虫取り、登山、キャンプ、野外体験保育、森林体験学習、植樹活動など

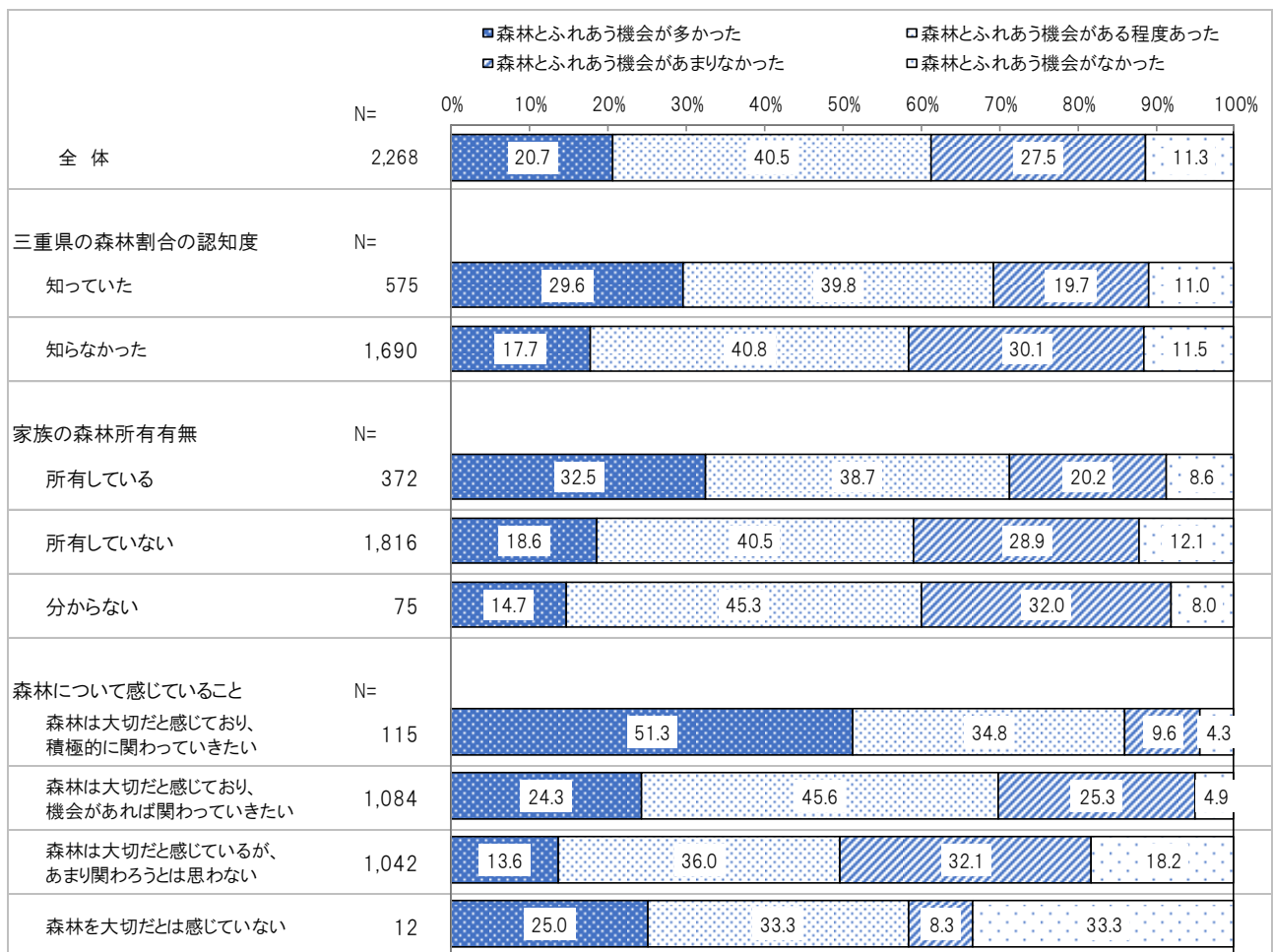
「森林とふれあう機会がある程度あった」が 40.5%と最も高く、次いで「森林とふれあう機会があまりなかった」が 27.5%、「森林とふれあう機会が多かった」が 20.7%となっている。



森林率地域区別にみると、森林率が高くなるにつれて「ふれあう機会が多かった」の割合が高くなっている。年代別でみると、「29歳以下」では「森林とふれあう機会が多かった」が13.2%と、他の年代に比べて低くなっている。また、30歳以上の年代では、年代が高くなるにつれて「森林とふれあう機会がなかった」の割合が高くなっている。



森林について感じていること別にみると、「森林は大切だと感じており、積極的に関わっていきたい」では「森林とふれあう機会が多かった」が5割を超え、他の項目に比べて20ポイント以上高くなっている。

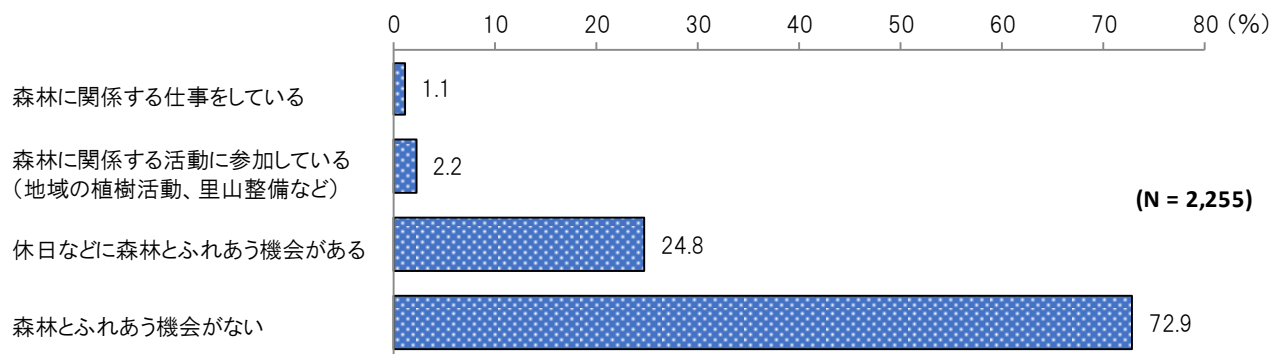


(4) 森林との現在の関わり

問8: あなたと森林の現在の関わりについて教えてください。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください。複数回答可)

「森林とふれあう機会がない」が 72.9%と最も高く、次いで「休日などに森林とふれあう機会がある」が 24.8%、「森林に関係する活動に参加している(地域の植樹活動、里山整備など)」が 2.2%となっている。



どの項目でも、「森林とふれあう機会がない」が最も高くなっているが、性別で見ると、「森林とふれあう機会がない」の割合は「女性」の方が高い。

(上段:件数、下段:%)

		全 体	仕森 事林 をに し関 て係 いる する	里(に森 山地参 整備域 備のし など植 樹いて 活動る 、活 動)	ふ休 れ日 あな うど 機に 会森 があ とる	機森 会林 がと ない ふれ あう
全体		2,255 100.0	25 1.1	49 2.2	559 24.8	1,644 72.9
森林 率地 域区 分	森林率40%未満	914 100.0	9 1.0	14 1.5	200 21.9	697 76.3
	森林率40%以上65%未満	983 100.0	11 1.1	29 3.0	271 27.6	685 69.7
	森林率65%以上	351 100.0	5 1.4	5 1.4	87 24.8	257 73.2
性別	男性	1,037 100.0	23 2.2	38 3.7	314 30.3	676 65.2
	女性	1,211 100.0	2 0.2	10 0.8	243 20.1	964 79.6
	その他	- -	- -	- -	- -	- -
年齢	29歳以下	106 100.0	1 0.9	- -	19 17.9	86 81.1
	30歳～39歳	239 100.0	2 0.8	2 0.8	68 28.5	169 70.7
	40歳～49歳	348 100.0	4 1.1	8 2.3	97 27.9	240 69.0
	50歳～59歳	464 100.0	5 1.1	6 1.3	108 23.3	347 74.8
	60歳～69歳	557 100.0	6 1.1	13 2.3	138 24.8	406 72.9
	70歳以上	535 100.0	7 1.3	19 3.6	128 23.9	392 73.3
職業	農林水産業	33 100.0	2 6.1	6 18.2	11 33.3	18 54.5
	自営業、自由業	221 100.0	7 3.2	5 2.3	58 26.2	154 69.7
	企業、役所、団体などの正規職員	616 100.0	4 0.6	15 2.4	175 28.4	426 69.2
	パート、アルバイト、派遣社員など	473 100.0	4 0.8	7 1.5	99 20.9	369 78.0
	その他、収入のある仕事	149 100.0	4 2.7	2 1.3	36 24.2	107 71.8
	学生	25 100.0	- -	- -	3 12.0	22 88.0
	専業主婦、専業主夫	286 100.0	- -	- -	65 22.7	222 77.6
	無職	440 100.0	4 0.9	13 3.0	108 24.5	319 72.5

ほとんどの項目において、「森林とふれあう機会がない」が高くなっているが、森林について感じていること別にみると、「森林は大切だと感じており、積極的に関わっていきたい」では「休日などに森林とふれあう機会がある」が5割半ばと半数を超え、他の項目に比べて最も高くなっている。

(上段:件数、下段:%)

		全 体	仕 事 に 関 係 す る 森 林	里 山 地 の 整 備 な ど の 活 動 に 関 係 す る 森 林	休 日 な ど に 森 林 と ふ れ あ う 機 会 が あ る	機 会 が な い 森 林 と ふ れ あ う
全 体		2,255 100.0	25 1.1	49 2.2	559 24.8	1,644 72.9
の 森 三 認 林 重 知 割 県 度 合 の	知っていた	562 100.0	20 3.6	31 5.5	176 31.3	350 62.3
	知らなかった	1,687 100.0	5 0.3	18 1.1	382 22.6	1,289 76.4
家 族 の 森 林 所 有	所有している	369 100.0	9 2.4	26 7.0	119 32.2	229 62.1
	所有していない	1,803 100.0	15 0.8	23 1.3	421 23.3	1,352 75.0
	分からない	76 100.0	1 1.3	-	17 22.4	58 76.3
子 ど も の あ ら ま の 森 林 と 機 会	森林とふれあう機会が多かった	465 100.0	13 2.8	21 4.5	190 40.9	251 54.0
	森林とふれあう機会がある程度あった	910 100.0	9 1.0	24 2.6	269 29.6	619 68.0
	森林とふれあう機会があまりなかった	620 100.0	2 0.3	3 0.5	87 14.0	529 85.3
	森林とふれあう機会がなかった	252 100.0	1 0.4	1 0.4	12 4.8	238 94.4
感 じ て い る 森 林 に つ い て	森林は大切だと感じており、積極的に関わっていきたい	114 100.0	10 8.8	19 16.7	63 55.3	29 25.4
	森林は大切だと感じており、機会があれば関わっていきたい	1,086 100.0	11 1.0	28 2.6	379 34.9	682 62.8
	森林は大切だと感じているが、あまり関わろうとは思わない	1,040 100.0	4 0.4	2 0.2	113 10.9	922 88.7
	森林を大切だとは思っていない	12 100.0	-	-	3 25.0	9 75.0

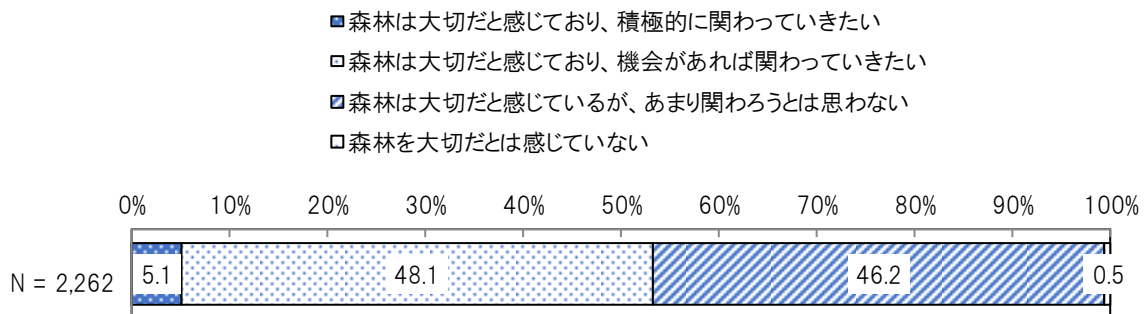
(5) 森林について感じていること

問9: あなたは森林についてどのように感じていますか。

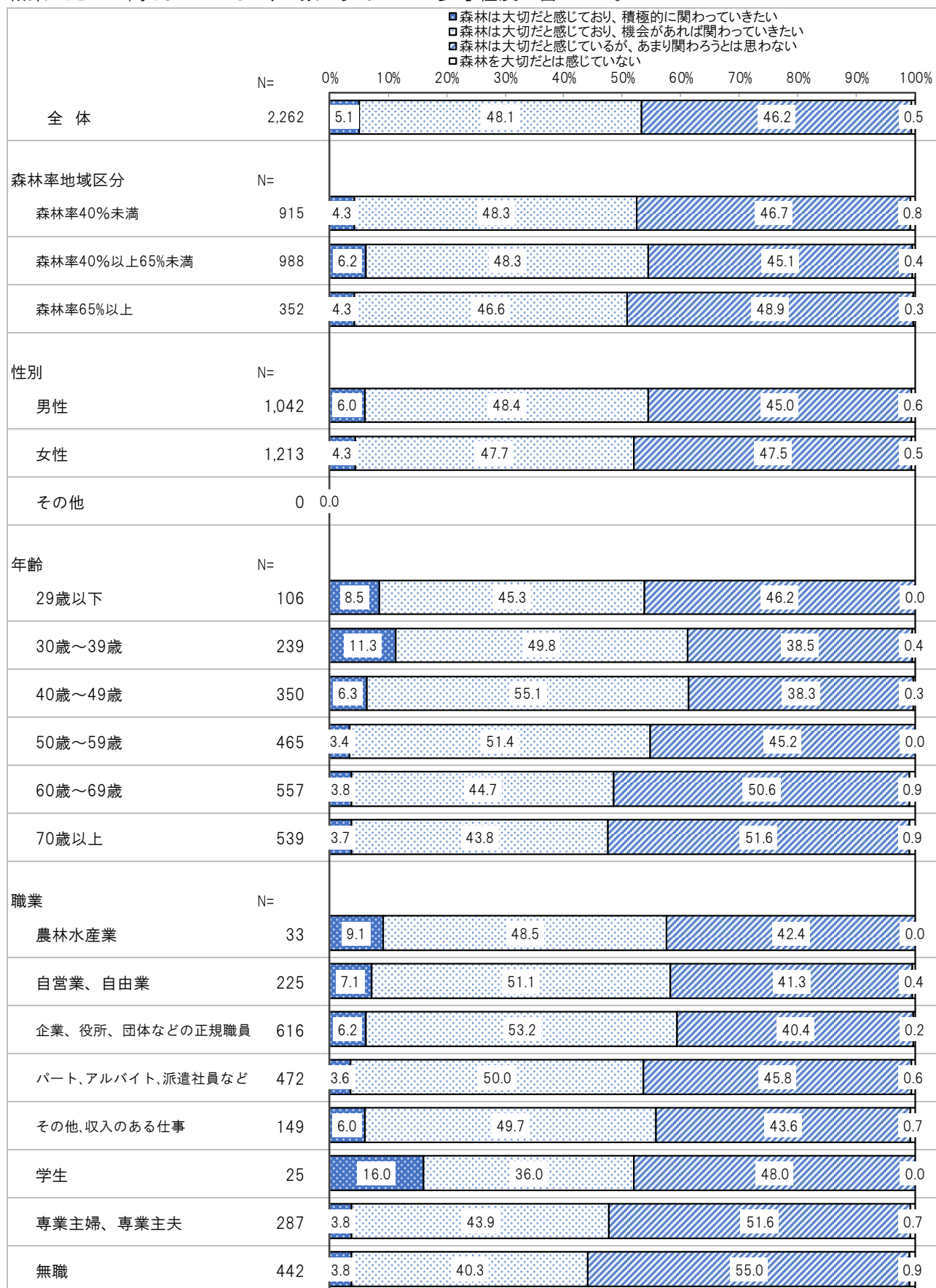
(あてはまる番号1つだけに○をつけてください。)

※森林との関わりについては、森林に関係する仕事や活動(植樹活動や里山整備など)だけでなく、森林とふれあう機会も含めて、今後どのように感じているかお答えください。

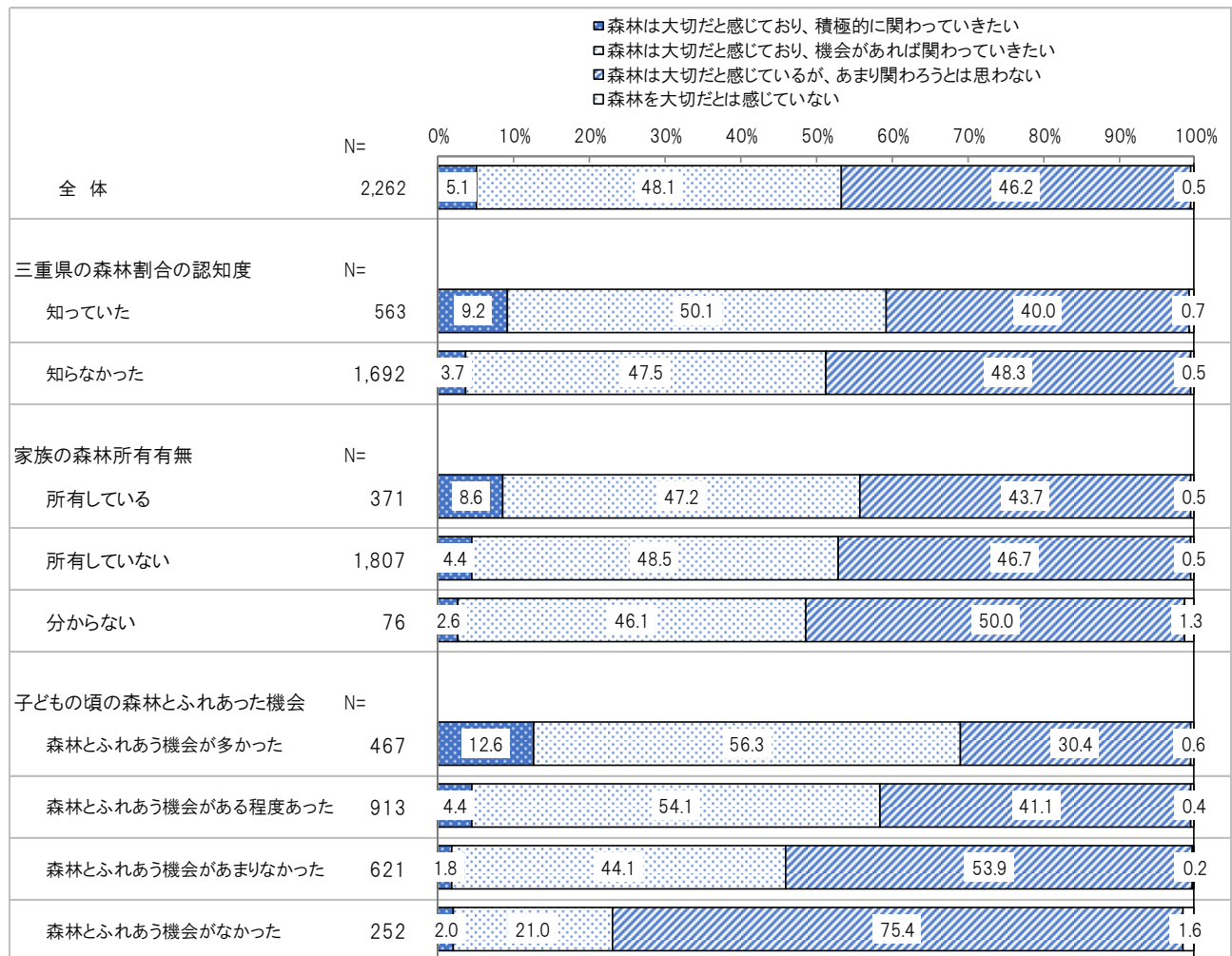
「森林は大切だと感じており、機会があれば関わっていききたい」が 48.1%と最も高く、次いで「森林は大切だと感じているが、あまり関わろうとは思わない」が 46.2%、「森林は大切だと感じており、積極的に関わっていききたい」が 5.1%となっている。『森林と関わっていききたい』(「森林は大切だと感じており、積極的に関わっていききたい」と「森林は大切だと感じており、機会があれば関わっていききたい」の合計)と回答した割合は、53.2%と半数程度となっている。



年齢別にみると、40歳以上では年代が高くなるにつれて『森林と関わっていききたい』の割合が低くなっている。職業別でみると、「学生」では「森林は大切だと感じており、積極的に関わっていききたい」が16.0%と、他の職業に比べて高くなっているが、N数が少ないため参考程度に留めたい。



子どもの頃の森林とふれあった機会別にみると、機会が多くなるにつれて、『森林と関わっていききたい』の割合も高くなっている。

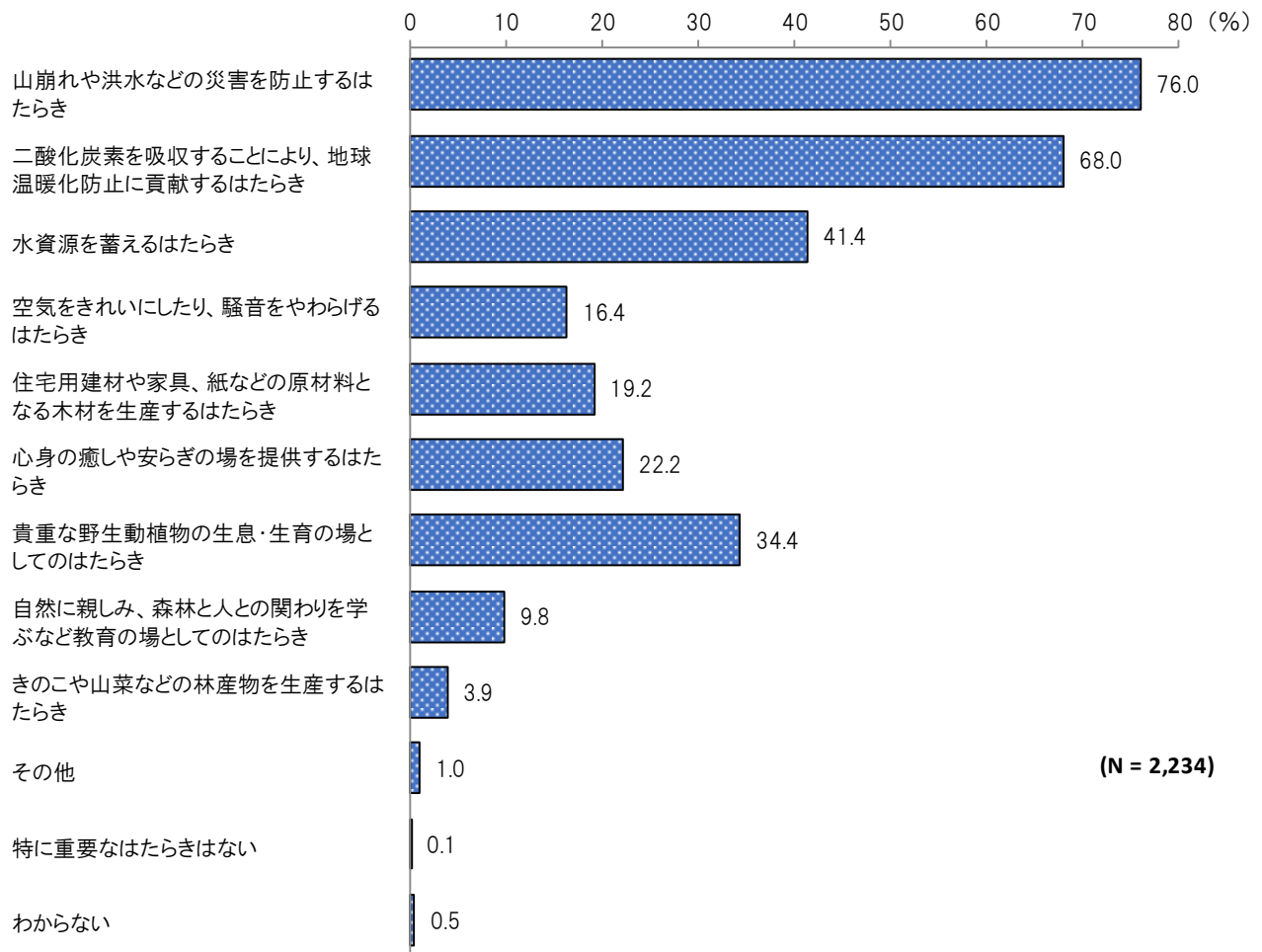


3. 森林の多面的機能について

(1) 森林のはたらきのうち、重要と考える機能

問10-1: 森林には、木材等の資源の供給のほか、土砂災害の防止、水源のかん養、地球温暖化防止、生物多様性の保全、保健・休養など、様々なはたらきがあり、私たちはこの森林の「恵み」を享受しています。これらの森林のはたらきは「森林の有する多面的機能」と呼ばれています。あなたは次の森林のはたらきのうち、重要であると考えられるものは何ですか。(あてはまる番号に3つまで○をつけてください。複数回答可)

「山崩れや洪水などの災害を防止するはたらき」が 76.0%と最も高く、次いで「二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献するはたらき」が 68.0%、「水資源を蓄えるはたらき」が 41.4%となっている。



【その他回答】（抜粋）

- (1) 伊勢湾や熊野灘へ栄養に富んだ自然水が流れることにより、水産資源が豊かになる環境に戻すことができる。
- (2) 土砂の流出(局厚 $h_d=1.0m$)移動の防止効果については、木の揺動に依る(風雨時)土砂すべりの誘因も有るが、常時は根張り効果も有り、CO₂吸収面も含み、(+)、(-)は(+)の方が大と考える。
- (3) 森林をまもることにより海が美しくなりさかなや貝漁業資源が守られる。水が山から川へ流れ最後は海へ流れてくるから。
- (4) 水産資源を豊に保つ働きの為にもきちんとした森林は必要だと思う。
- (5) 二酸化炭素を吸収し大気中の二酸化炭素量をコントロールするはたらき。(地球温暖化防止に貢献するものではない。)そもそも二酸化炭素を減らしても温暖化が止まらないのは多くの科学者が指摘している。
- (6) 山があり川になり里を潤し海に注ぐ。山に木や森や林があることで水は循環できる。地域だけでなく日本には、そのバランスがあるからこそ、生活が成り立つ。森や林は、野生鳥獣たちを養い、人が手を加えて里山を残して維持していかないと、人の安全で豊かな暮らしが侵されて、人と野生鳥獣たちの関係は悪化してしまう。森や林を育てて守り維持することは、この日本に人が暮らす上で最重要課題である。
- (7) 河川を流れ、海に栄養のある水を運ぶ事による、海産物、魚貝類に与える影響。建材、材木利用の針葉樹メインの植林ではダメだと思うが。

ほとんどの項目において、「山崩れや洪水などの災害を防止するはたらき」が最も高くなっている。年齢別にみると、「20歳以下」及び「30歳～39歳」では「二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献するはたらき」が約7割と、他の項目に比べて最も高くなっている。また、職業別にみると、「学生」でも「二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献するはたらき」が76.0%と、他の項目に比べて20ポイント以上高くなっている。

(上段:件数、下段:%)

		全 体	山崩れや洪水などの災害を防止するはたらき	二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献するはたらき	水資源を蓄えるはたらき	空気をきれいにするはたらき	騒音をやわらげるはたらき	住宅用建材や家具、紙などの原材料となる木材を生産するはたらき	心身の癒しや安らぎの場を提供するはたらき	貴重な野生動物の生息・生育の場としてのはたらき	自然に親しみ、森林と人間の関わりを学ぶなど教育の場としてのはたらき	きのこや山菜などの林産物を生産するはたらき	その他	特に重要なはたらきはない	わからない
全体		2,234 100.0	1,697 76.0	1,519 68.0	924 41.4	366 16.4	428 19.2	495 22.2	768 34.4	218 9.8	88 3.9	23 1.0	2 0.1	12 0.5	
森林率地域区分	森林率40%未満	906 100.0	672 74.2	642 70.9	361 39.8	154 17.0	152 16.8	207 22.8	325 35.9	91 10.0	29 3.2	8 0.9	2 0.2	7 0.8	
	森林率40%以上65%未満	972 100.0	746 76.7	633 65.1	424 43.6	163 16.8	187 19.2	216 22.2	328 33.7	93 9.6	41 4.2	10 1.0	-	4 0.4	
	森林率65%以上	350 100.0	274 78.3	240 68.6	138 39.4	48 13.7	85 24.3	70 20.0	115 32.9	34 9.7	18 5.1	5 1.4	-	1 0.3	
性別	男性	1,034 100.0	794 76.8	694 67.1	496 48.0	176 17.0	218 21.1	198 19.1	313 30.3	87 8.4	39 3.8	18 1.7	1 0.1	2 0.2	
	女性	1,194 100.0	898 75.2	820 68.7	428 35.8	189 15.8	207 17.3	295 24.7	455 38.1	130 10.9	49 4.1	5 0.4	1 0.1	10 0.8	
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢	29歳以下	103 100.0	60 58.3	75 72.8	28 27.2	31 30.1	24 23.3	23 22.3	42 40.8	12 11.7	5 4.9	1 1.0	-	-	
	30歳～39歳	238 100.0	157 66.0	160 67.2	67 28.2	50 21.0	49 20.6	62 26.1	101 42.4	35 14.7	9 3.8	2 0.8	-	2 0.8	
	40歳～49歳	344 100.0	251 73.0	243 70.6	116 33.7	69 20.1	53 15.4	91 26.5	140 40.7	38 11.0	6 1.7	2 0.6	1 0.3	-	
	50歳～59歳	464 100.0	359 77.4	328 70.7	182 39.2	72 15.5	76 16.4	110 23.7	169 36.4	37 8.0	10 2.2	5 1.1	-	6 1.3	
	60歳～69歳	551 100.0	433 78.6	374 67.9	249 45.2	73 13.2	104 18.9	106 19.2	201 36.5	47 8.5	23 4.2	11 2.0	1 0.2	1 0.2	
	70歳以上	529 100.0	433 81.9	335 63.3	282 53.3	70 13.2	119 22.5	101 19.1	115 21.7	49 9.3	35 6.6	2 0.4	-	3 0.6	
職業	農林水産業	33 100.0	27 81.8	22 66.7	19 57.6	2 6.1	12 36.4	7 21.2	2 6.1	3 9.1	2 6.1	1 3.0	-	-	
	自営業、自由業	223 100.0	170 76.2	153 68.6	97 43.5	38 17.0	46 20.6	45 20.2	81 36.3	17 7.6	12 5.4	6 2.7	-	-	
	企業、役所、団体などの正規職員	609 100.0	464 76.2	433 71.1	232 38.1	102 16.7	111 18.2	126 20.7	229 37.6	61 10.0	15 2.5	8 1.3	1 0.2	3 0.5	
	パート、アルバイト、派遣社員など	466 100.0	342 73.4	328 70.4	158 33.9	76 16.3	73 15.7	123 26.4	185 39.7	57 12.2	15 3.2	3 0.6	-	3 0.6	
	その他、収入のある仕事	145 100.0	110 75.9	92 63.4	56 38.6	29 20.0	26 17.9	31 21.4	57 39.3	16 11.0	6 4.1	1 0.7	-	1 0.7	
	学生	25 100.0	14 56.0	19 76.0	6 24.0	9 36.0	4 16.0	7 28.0	9 36.0	1 4.0	1 4.0	1 4.0	-	-	
	専業主婦、専業主夫	283 100.0	227 80.2	191 67.5	127 44.9	39 13.8	59 20.8	59 20.8	91 32.2	24 8.5	8 2.8	-	1 0.4	1 0.4	
	無職	438 100.0	335 76.5	271 61.9	225 51.4	69 15.8	93 21.2	93 21.2	112 25.6	39 8.9	29 6.6	3 0.7	-	4 0.9	

ほとんどの項目において、「山崩れや洪水などの災害を防止するはたらき」が最も高くなっているが、森林について感じていること別にみると、「森林は大切だと感じており、積極的に関わっていきたい」では「二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献するはたらき」が 64.3%と、他の項目に比べて高くなっている。

(上段:件数、下段:%)

		全 体	山崩れや洪水などの災害を防止するはたらき	二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献するはたらき	水資源を蓄えるはたらき	空気をきれいにするはたらき	騒音をやわらげるはたらき	住宅用建材や家具、紙などを作るはたらき	提供の癒しや安らぎの場を創出するはたらき	貴重な野生動物の生息・生育の場としてのはたらき	自然の親しみ、森林と人間の関わりを学ぶなど教育の場としてのはたらき	きのこや山菜などの林産物を生産するはたらき	その他	特に重要なはたらきはない	わからない
全体		2,234 100.0	1,697 76.0	1,519 68.0	924 41.4	366 16.4	428 19.2	495 22.2	768 34.4	218 9.8	88 3.9	23 1.0	2 0.1	12 0.5	
の森三 認林重 知割県 度のの	知っていた	561 100.0	436 77.7	346 61.7	292 52.0	79 14.1	126 22.5	101 18.0	174 31.0	52 9.3	34 6.1	9 1.6	-	-	
	知らなかった	1,667 100.0	1,257 75.4	1,168 70.1	629 37.7	286 17.2	301 18.1	393 23.6	592 35.5	166 10.0	54 3.2	14 0.8	2 0.1	12 0.7	
家族の 森林 所有	所有している	366 100.0	296 80.9	241 65.8	175 47.8	46 12.6	83 22.7	69 18.9	113 30.9	33 9.0	15 4.1	3 0.8	-	1 0.3	
	所有していない	1,786 100.0	1,341 75.1	1,222 68.4	721 40.4	301 16.9	335 18.8	412 23.1	624 34.9	180 10.1	71 4.0	18 1.0	2 0.1	10 0.6	
	分からない	75 100.0	56 74.7	51 68.0	27 36.0	16 21.3	10 13.3	12 16.0	29 38.7	5 6.7	2 2.7	1 1.3	-	1 1.3	
子 ふれ れあ あつ った 機会 と森 林	森林とふれあう機会が多かった	461 100.0	339 73.5	307 66.6	191 41.4	78 16.9	82 17.8	108 23.4	177 38.4	52 11.3	19 4.1	7 1.5	-	-	
	森林とふれあう機会がある程度あった	905 100.0	696 76.9	609 67.3	379 41.9	156 17.2	173 19.1	210 23.2	306 33.8	90 9.9	38 4.2	7 0.8	-	2 0.2	
	森林とふれあう機会があまりなかった	616 100.0	478 77.6	445 72.2	243 39.4	96 15.6	117 19.0	136 22.1	210 34.1	58 9.4	18 2.9	6 1.0	1 0.2	2 0.3	
	森林とふれあう機会がなかった	244 100.0	178 73.0	152 62.3	108 44.3	35 14.3	56 23.0	40 16.4	73 29.9	17 7.0	13 5.3	3 1.2	1 0.4	7 2.9	
感 じ て い る こ と 森 林 に つ い て	森林は大切だと感じており、積極的に関わっていきたい	115 100.0	71 61.7	74 64.3	45 39.1	26 22.6	16 13.9	35 30.4	51 44.3	13 11.3	5 4.3	2 1.7	-	-	
	森林は大切だと感じており、機会があれば関わっていきたい	1,068 100.0	806 75.5	738 69.1	456 42.7	165 15.4	185 17.3	257 24.1	383 35.9	124 11.6	37 3.5	15 1.4	-	1 0.1	
	森林は大切だと感じているが、あまり関わりようとは思わない	1,034 100.0	812 78.5	701 67.8	417 40.3	172 16.6	224 21.7	202 19.5	330 31.9	80 7.7	45 4.4	4 0.4	-	10 1.0	
	森林を大切だとは思っていない	12 100.0	5 41.7	3 25.0	4 33.3	3 25.0	3 25.0	1 8.3	4 33.3	-	1 8.3	1 8.3	2 16.7	1 8.3	

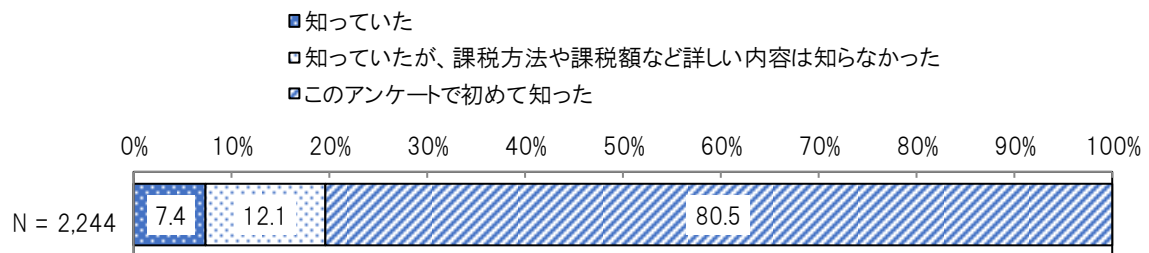
4. みえ森と緑の県民税について

(1)「みえ森と緑の県民税」の認知度

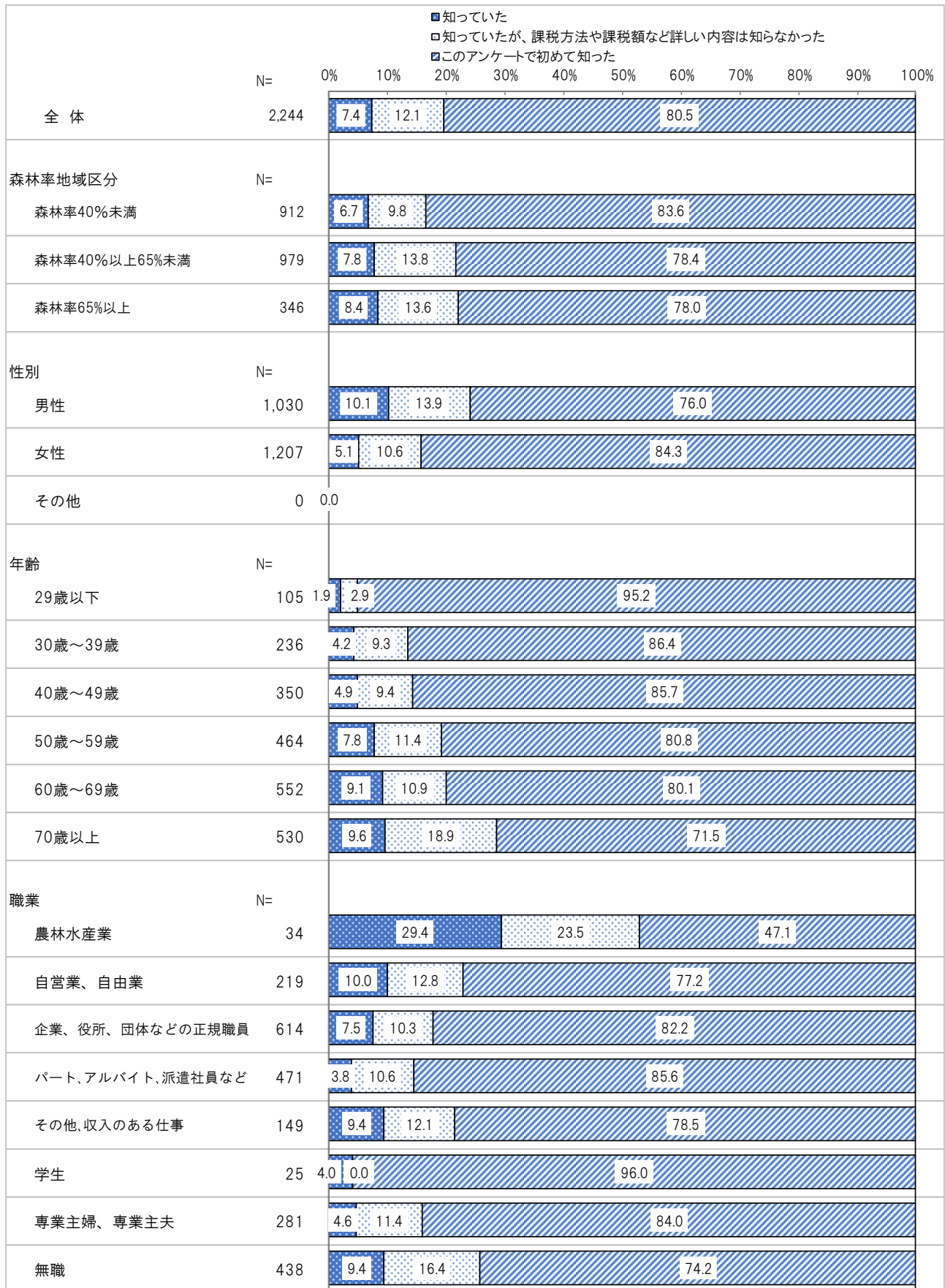
問11:あなたは、「みえ森と緑の県民税」を知っていましたか。

(あてはまる番号1つだけに○をつけてください。)

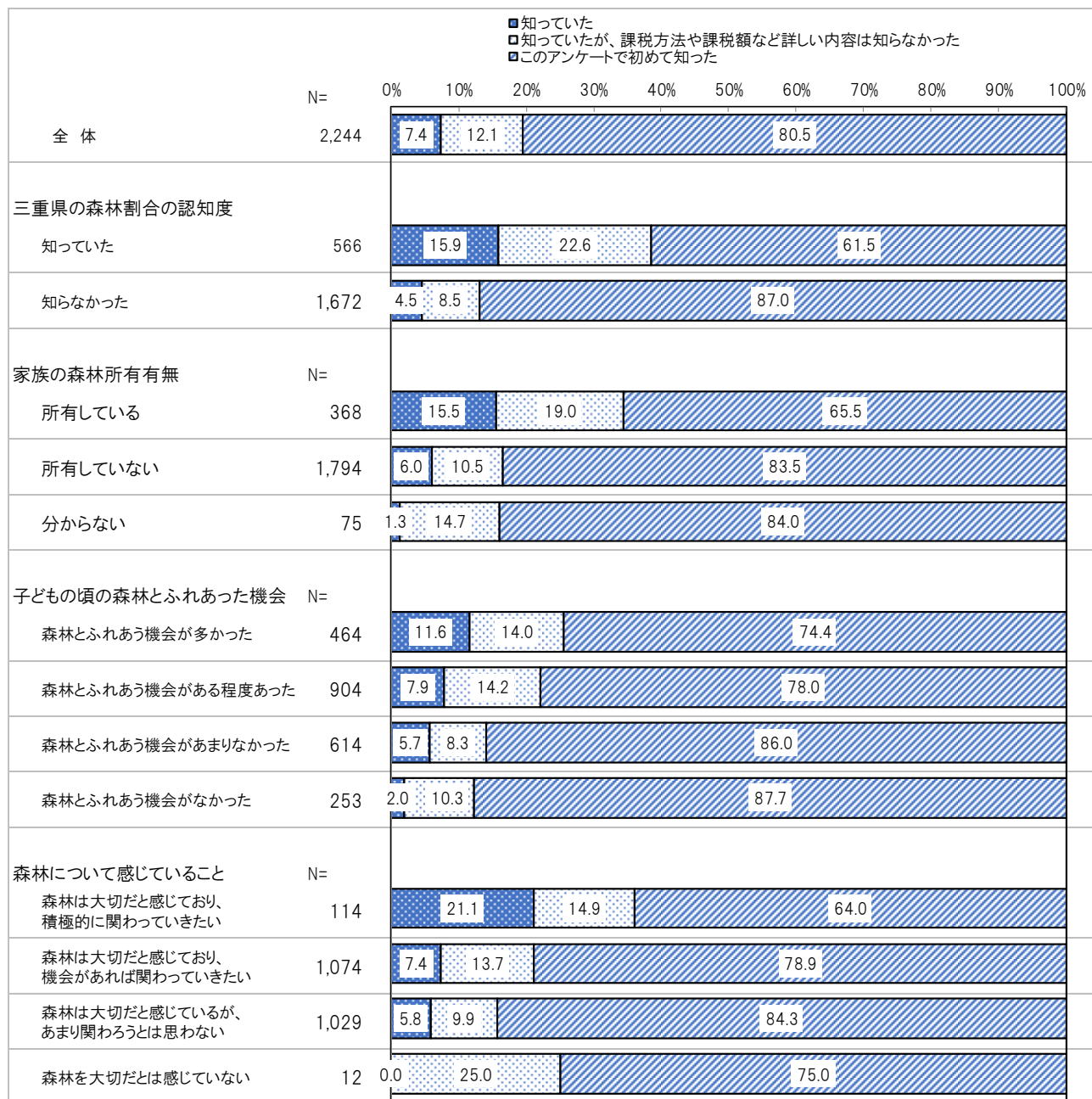
「このアンケートで初めて知った」が80.5%と最も高く、次いで「知っていたが、課税方法や課税額など詳しい内容は知らなかった」が12.1%、「知っていた」が7.4%となっている。



森林率地域区分別にみると、森林率が高くなるにつれて「知っていた」の割合が高くなっている。また年齢別にみても、年代が高くなるにつれて「知っていた」の割合が高くなっている。



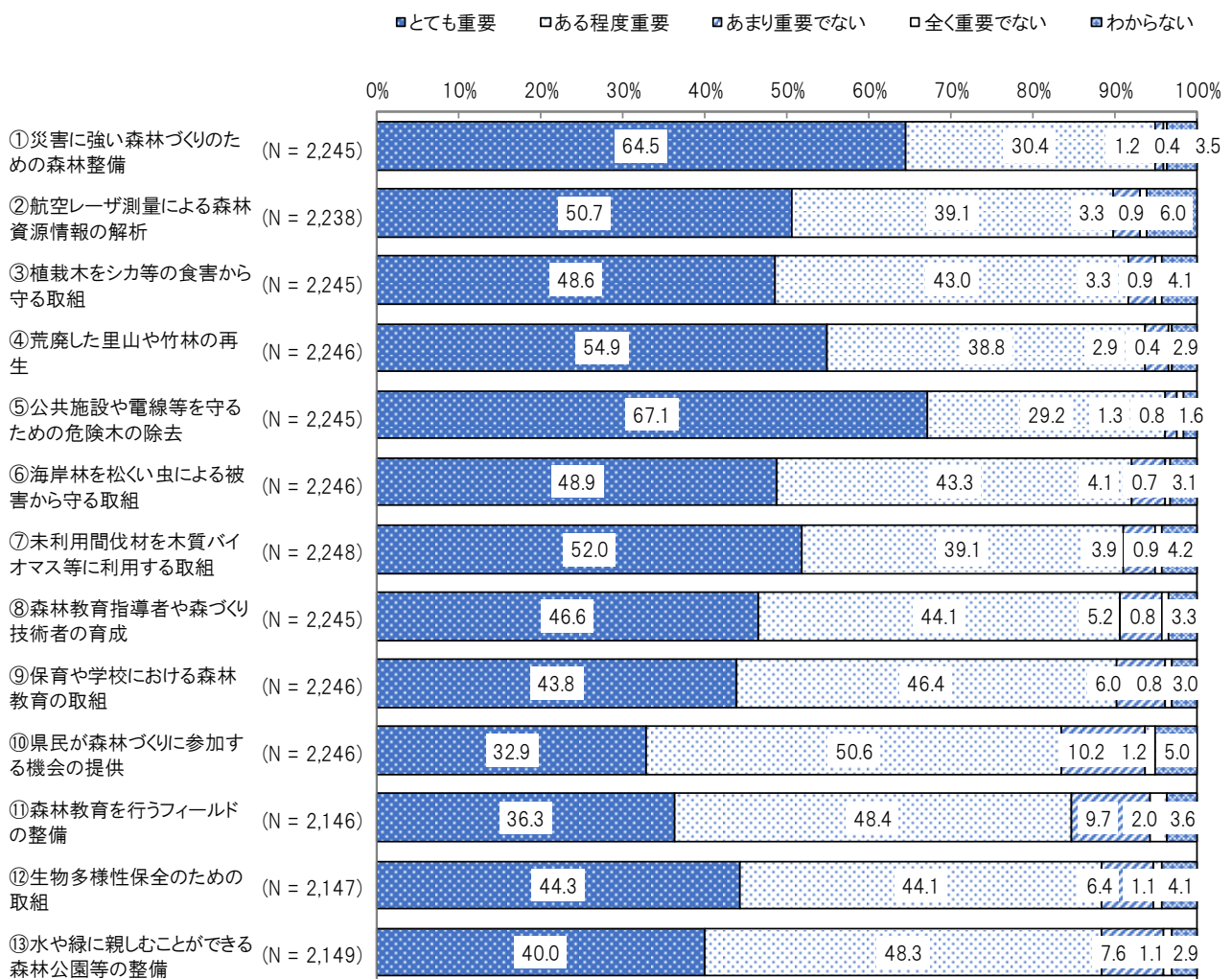
三重県の森林割合の認知度別にみると、森林割合を認知している人ほど「みえ森と緑の県民税」についても「知っていた」と回答した割合が高く、「知っていたが、課税方法や課税額など詳しい内容は知らなかった」とあわせると4割弱となっている。家族の森林所有有無別でも、「所有している」では「所有していない」、「分からない」に比べて「知っていた」と回答した割合が高くなっている。また、子どもの頃の森林とふれあった機会別にみると、ふれあった機会が多くなるにつれて「知っていた」の割合が高くなっている。



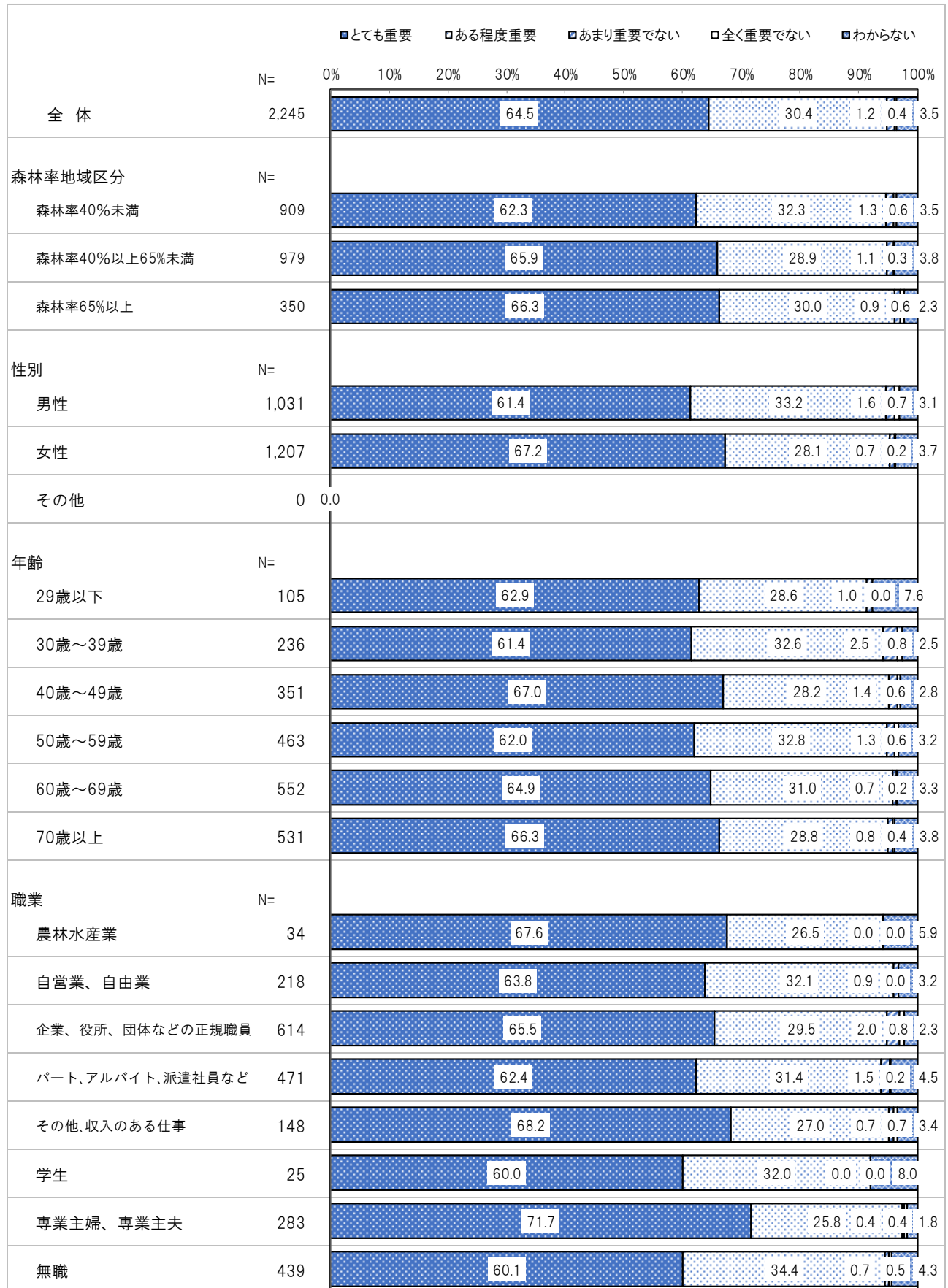
(2) みえ森と緑の県民税を活用した各種取組の重要性の認識

問12: 県では、「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるため、「みえ森と緑の県民税」を活用し、市町とともに次の①～⑬のような取組を実施しています。こうした取組の重要性について、どのように思いますか。(それぞれあてはまる番号1つだけに○をつけてください。)

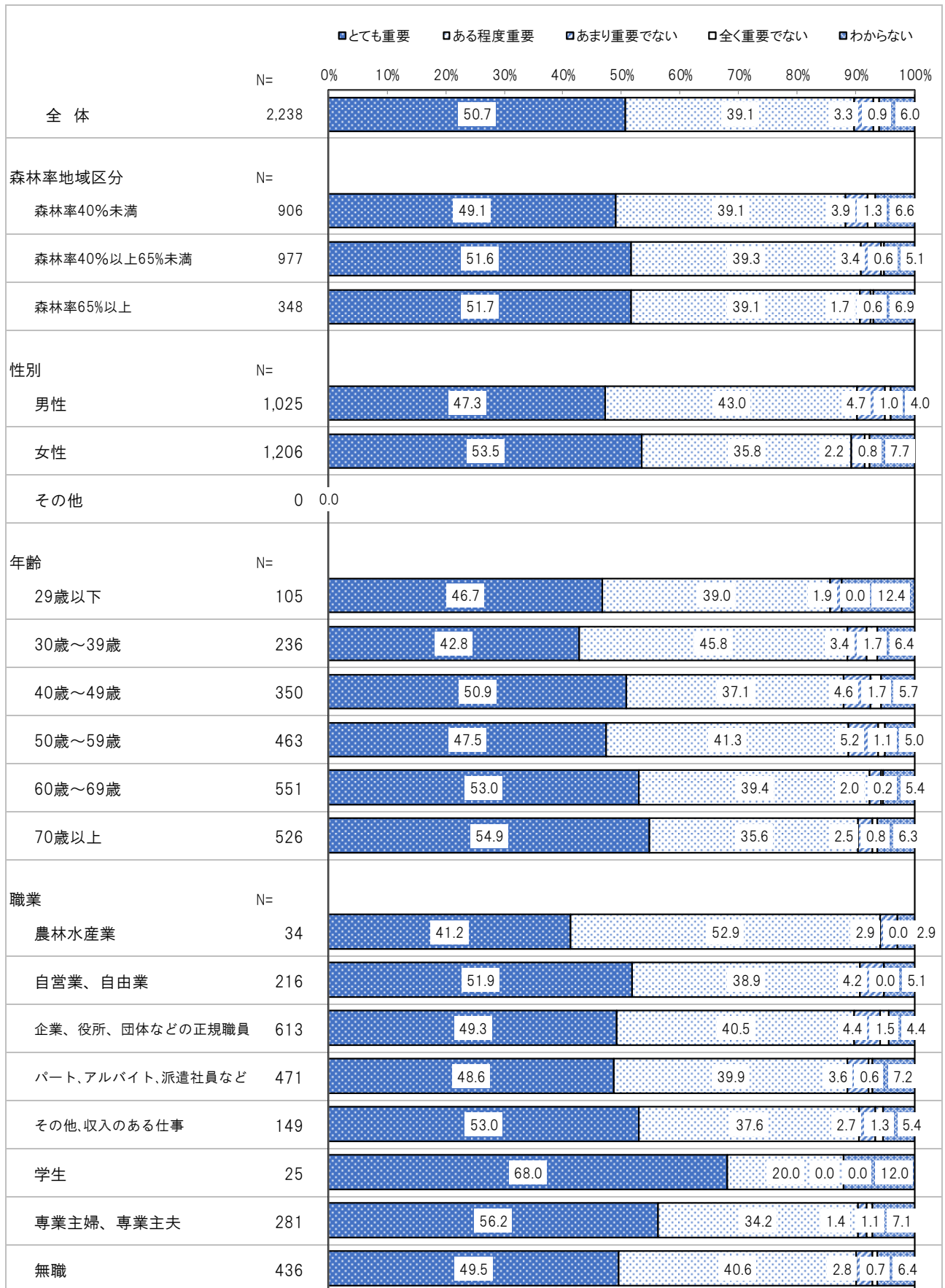
取組の重要性において、「とても重要」では「⑤公共施設や電線等を守るための危険木の除去」が67.1%と最も高く、次いで「①災害に強い森林づくりのための森林整備」が64.5%、「④荒廃した里山や竹林の再生」が54.9%となっている。また、「⑩県民が森林づくりに参加する機会の提供」及び「⑪森林教育を行うフィールドの整備」では「とても重要」が3割強に留まっている。



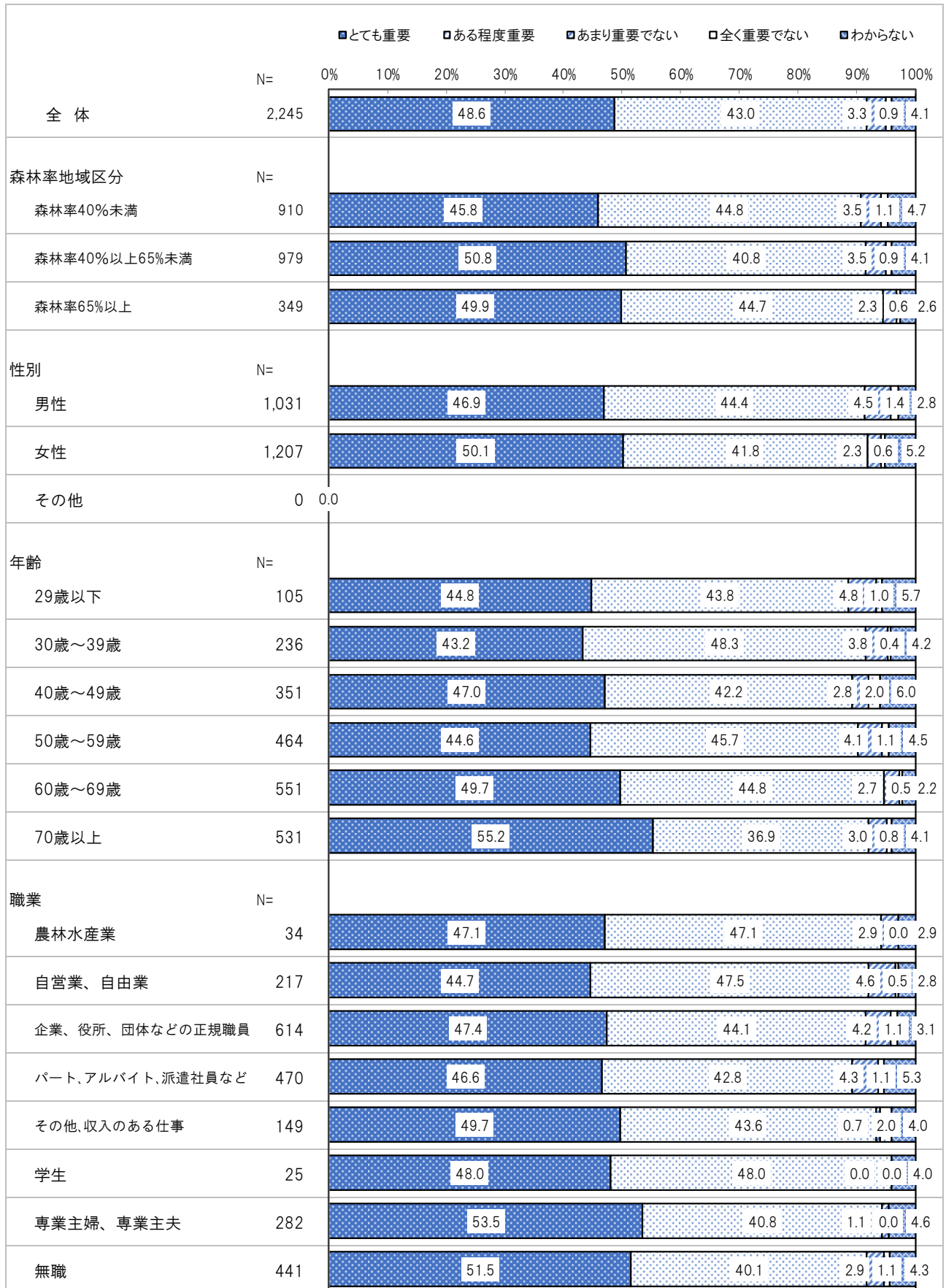
①災害に強い森林づくりのための森林整備は、すべての項目において、「とても重要」が最も高くなっており、「とても重要」と「ある程度重要」を合わせた『重要』ではすべての項目で9割を超えている。職業別にみると「専業主婦、専業主夫」では「とても重要」が71.7%と、7割を超え、他の職業に比べて高くなっている。



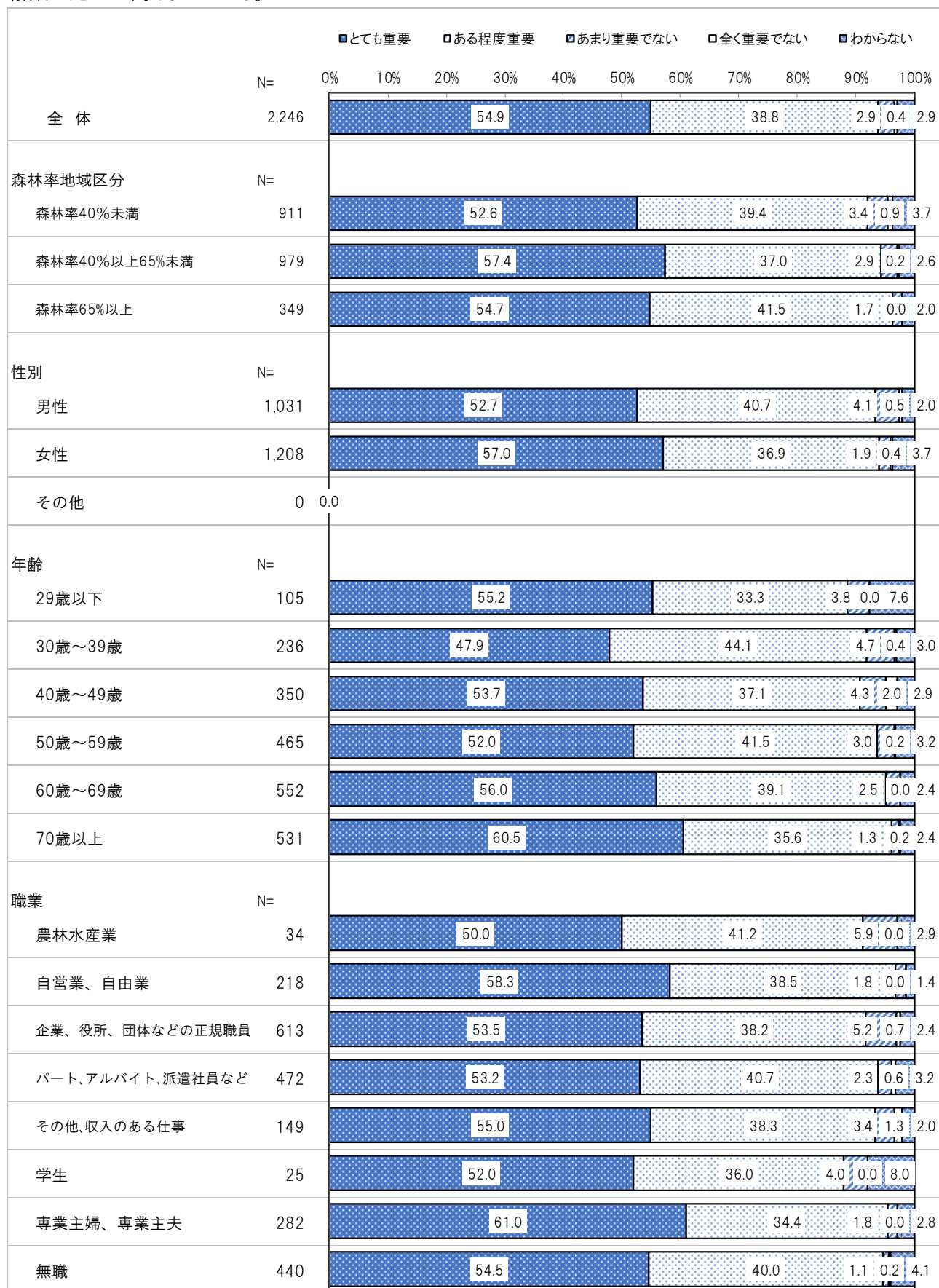
②航空レーザ測量による森林資源情報の解析は、ほとんどの項目において、「とても重要」が最も高くなっている。森林率地域区別にみると、「とても重要」では森林率が高くなるにつれて割合が高くなっている。



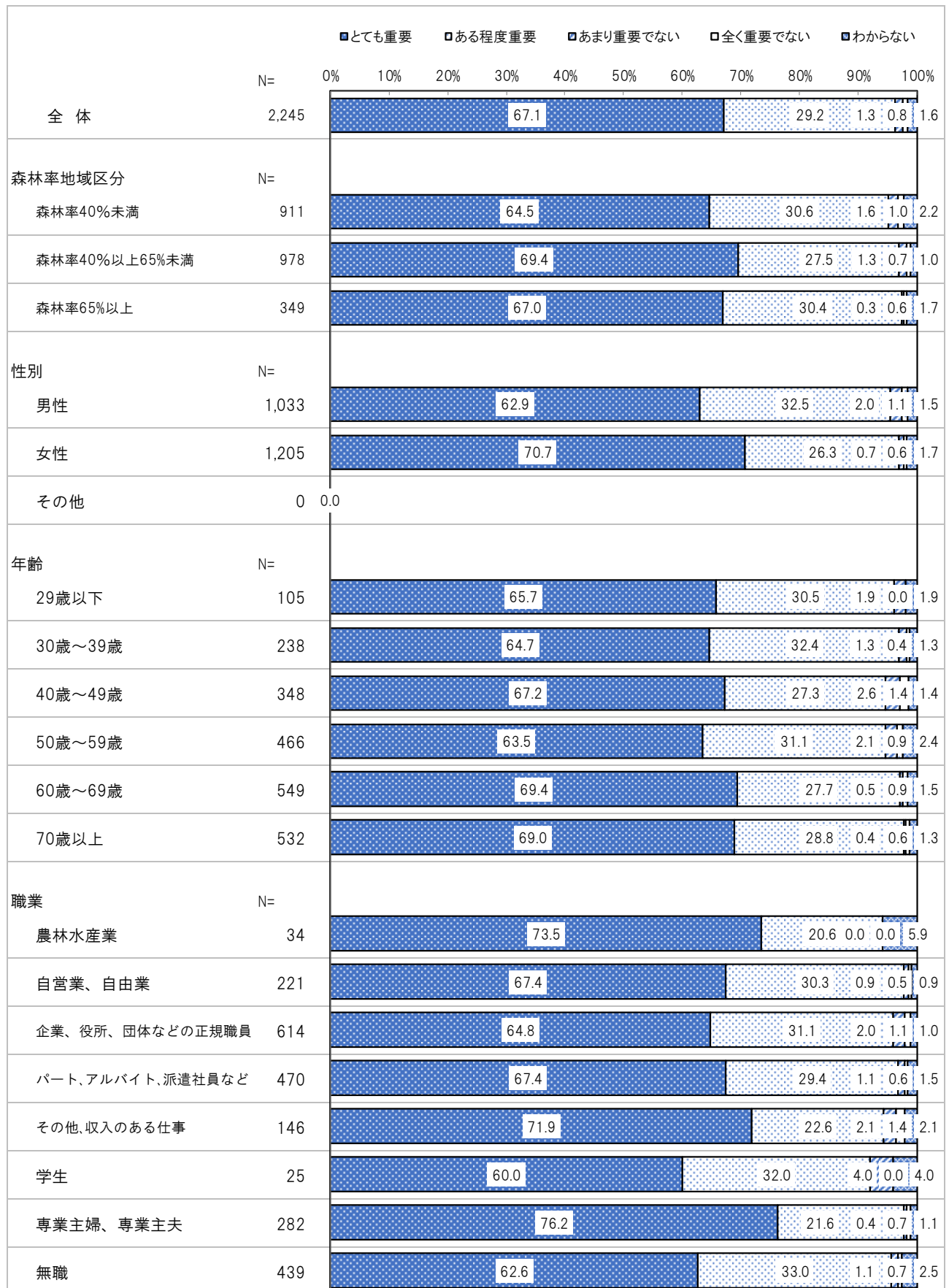
③植栽木をシカ等の食害から守る取組において、森林率地域区別にみると、「とても重要」と「ある程度重要」を合わせた『重要』が、森林率が高くなるにつれて割合が高くなっている。また、年齢別にみると「70歳以上」では「とても重要」が55.2%と半数を超え、他の年代に比べて高くなっている。



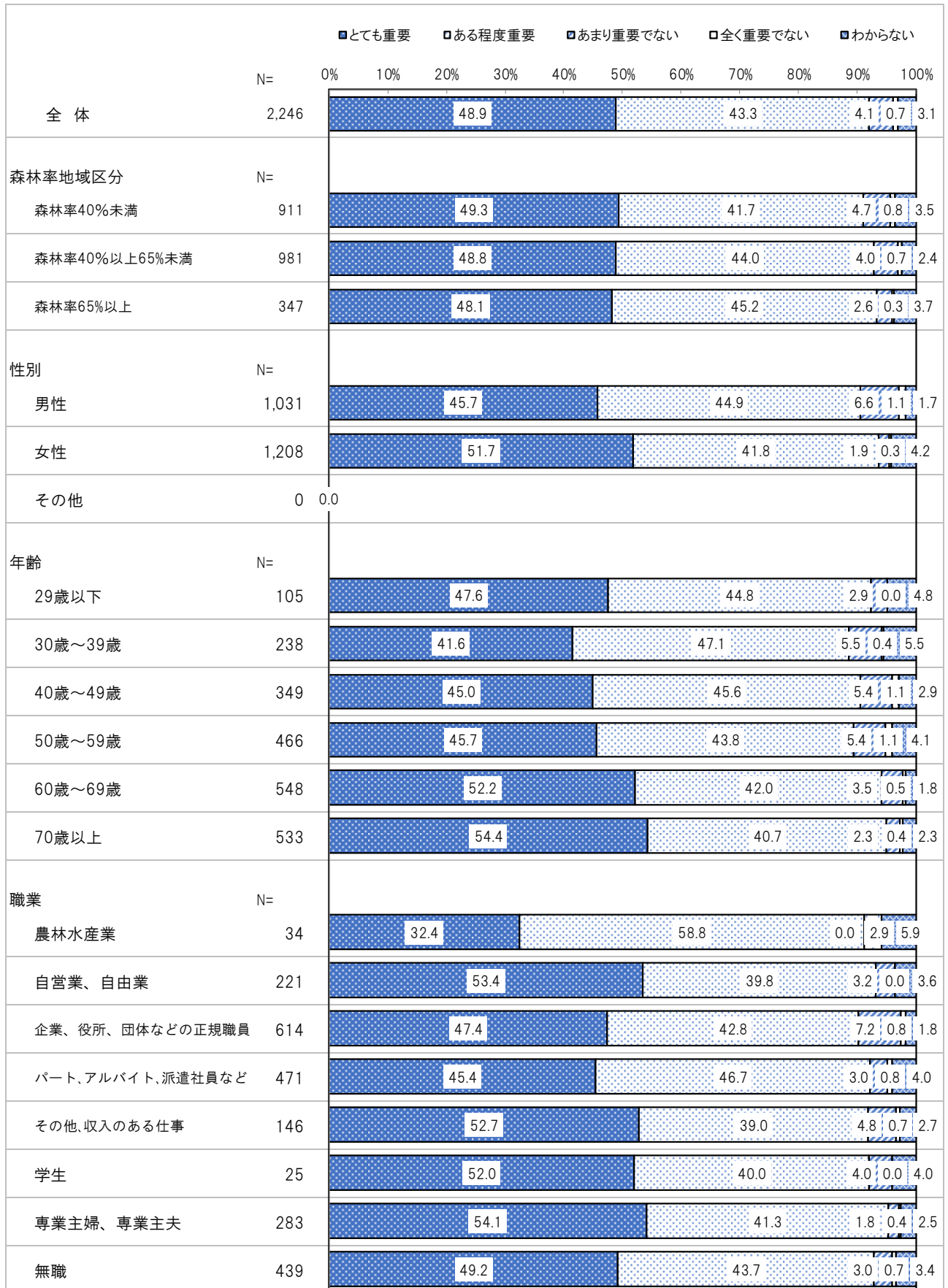
④荒廃した里山や竹林の再生において、年齢別にみると「70歳以上」では「とても重要」が60.5%、職業別にみると「専業主婦、専業主夫」では「とても重要」が61.0%とそれぞれ6割を超え、他の年代及び他の職業に比べて高くなっている。



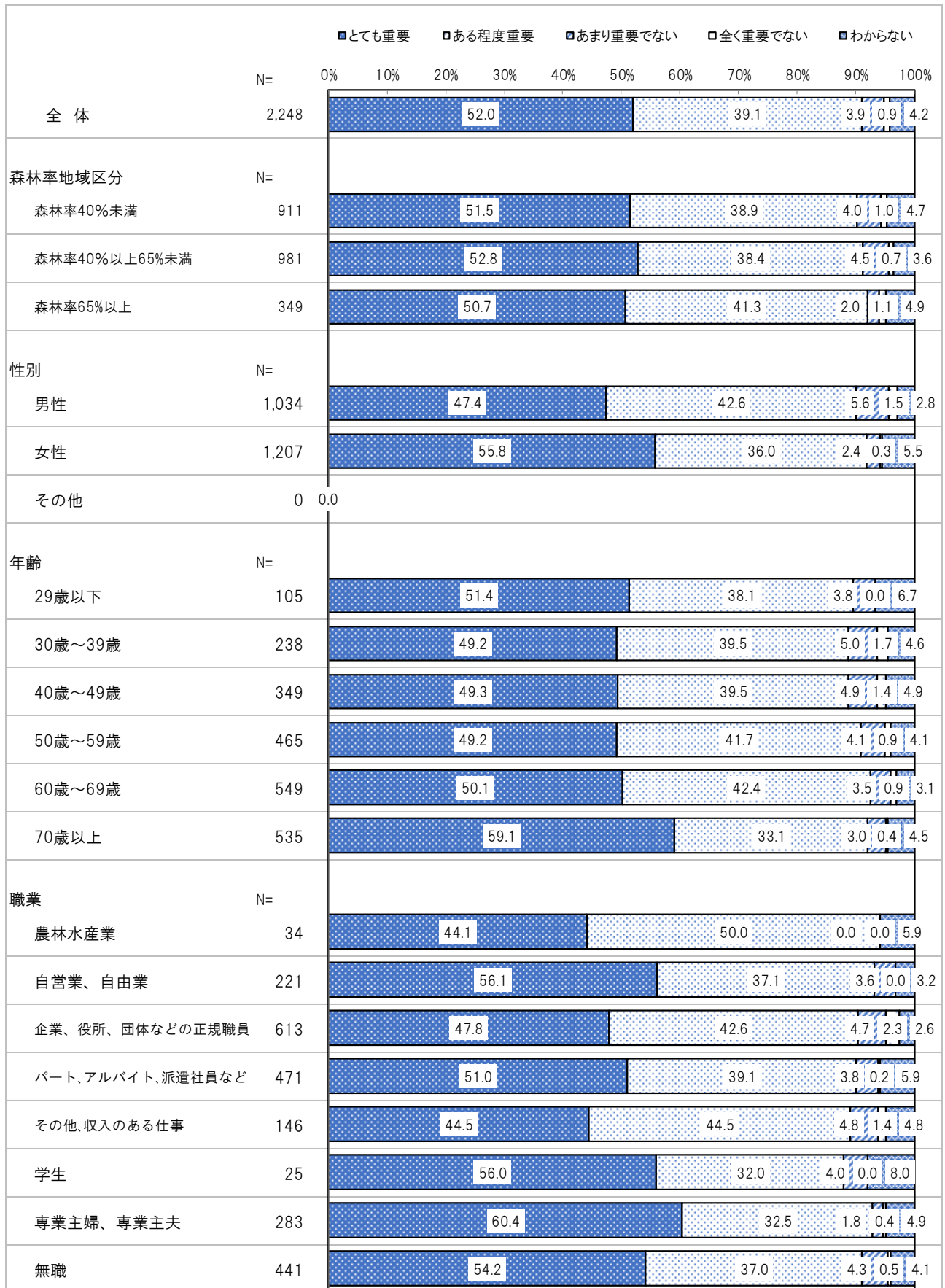
⑤ 公共施設や電線等を守るための危険木の除去では、すべての項目において「とても重要」が最も高くなっており、性別にみると、「女性」は「とても重要」が70.7%と、男性に比べて約8ポイント高くなっている。また、「とても重要」と「ある程度重要」を合わせた『重要』ではすべての項目で9割を超えている。



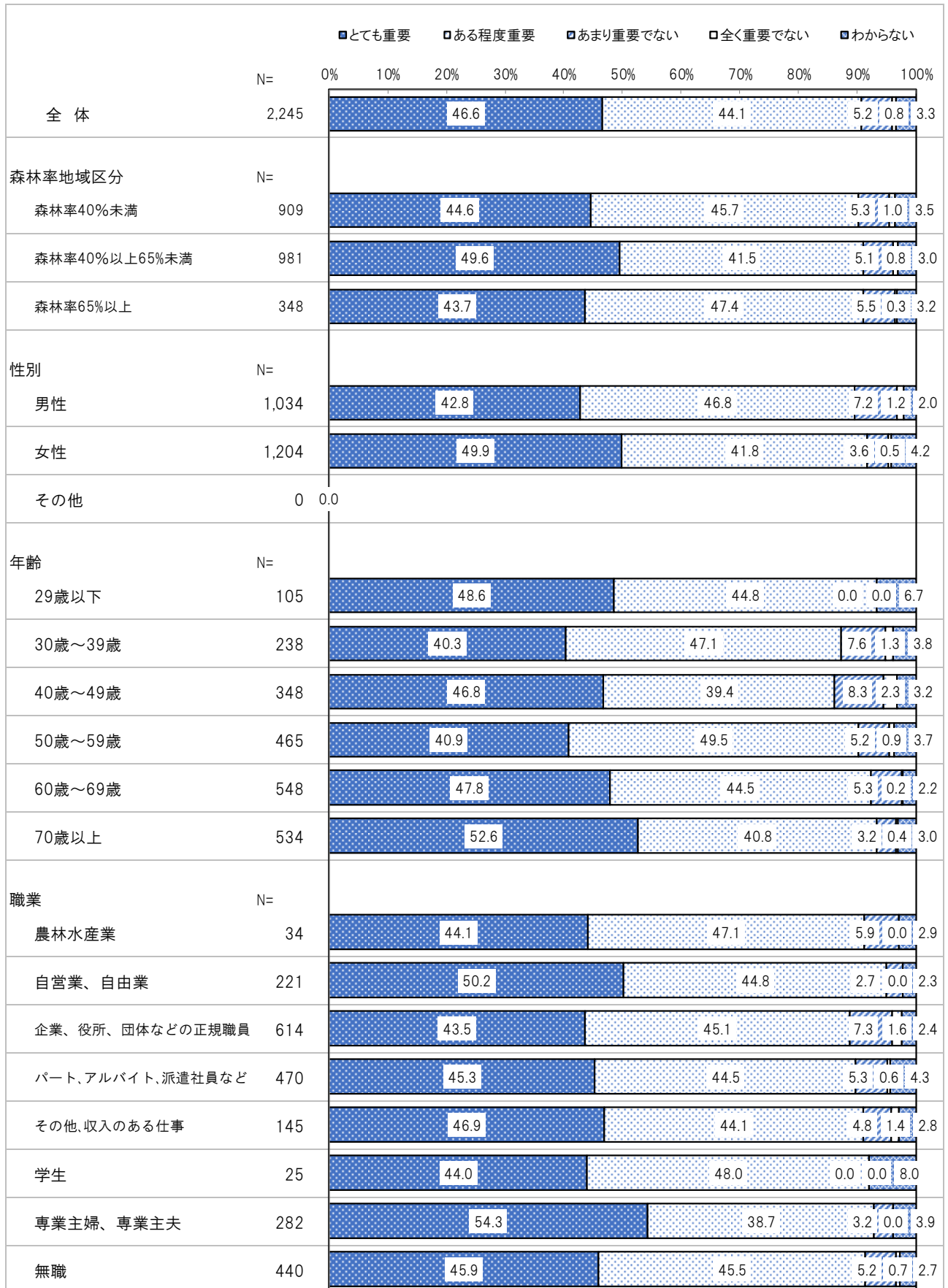
⑥海岸林を松くい虫による被害から守る取組において、年齢別にみると 30 歳以上の年代では、「とても重要」は年代が高くなるにつれて割合が高くなっている。また、職業別にみると「農林水産業」では「とても重要」が 32.4%と、他の職業に比べて 10 ポイント以上低くなっている。



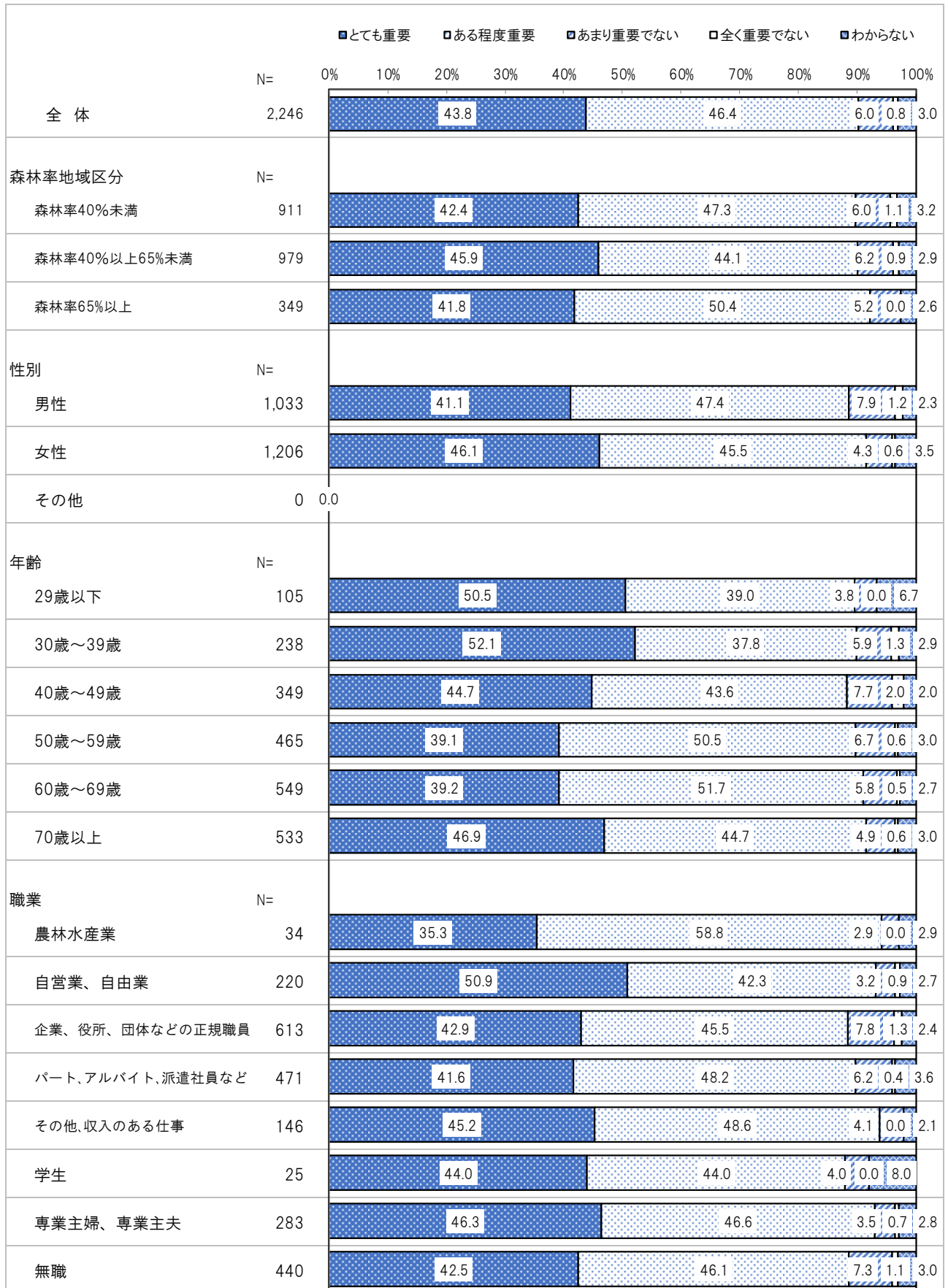
⑦未利用間伐材を木質バイオマス等に利用する取組では、年代別にみると「70歳以上」では、「とても重要」が約6割と、他の年代に比べて高くなっている。



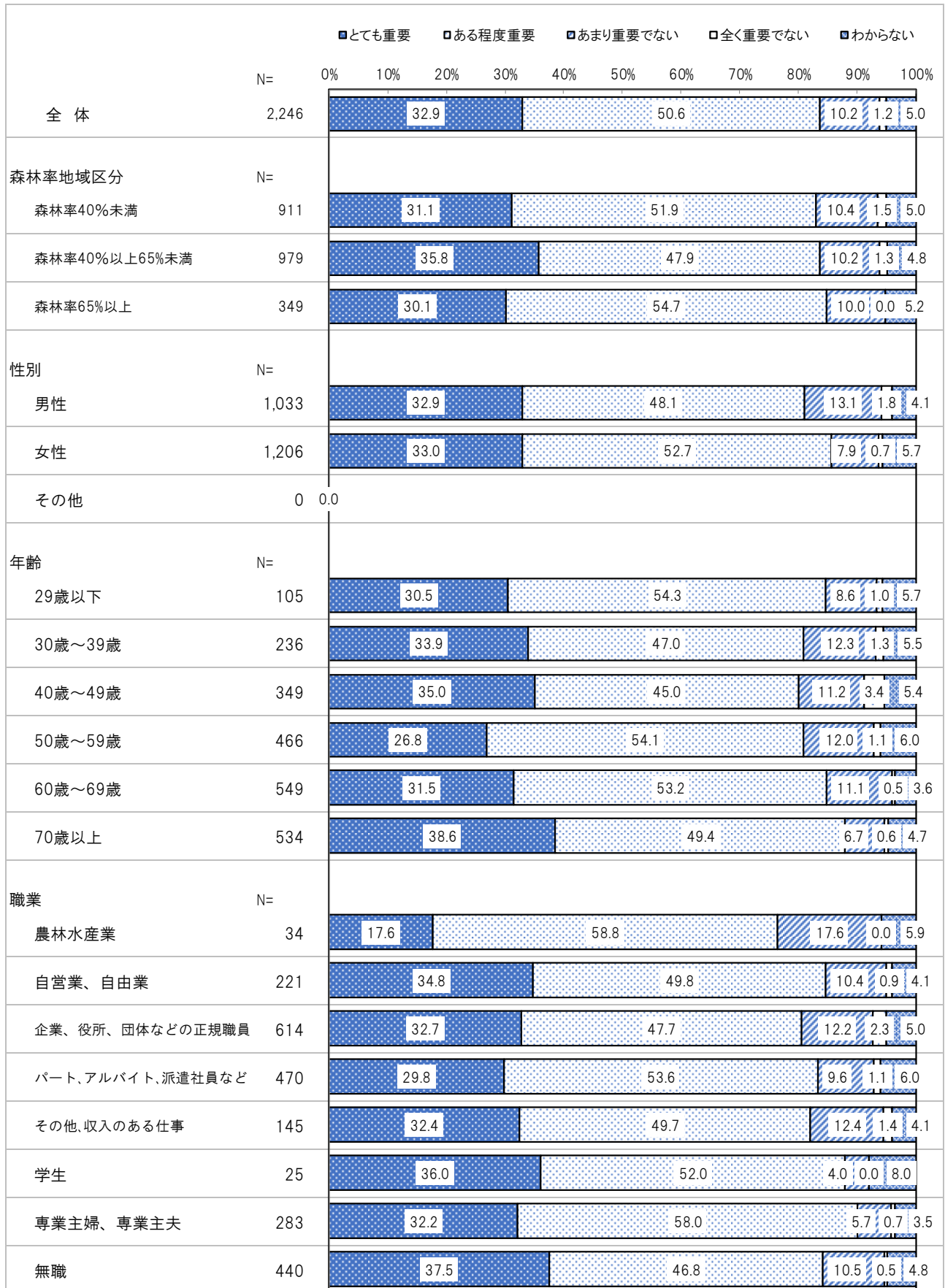
⑧森林教育指導者や森づくり技術者の育成において、職業別にみると「とても重要」が「専業主婦、専業主夫」では 54.3%、「自営業、自由業」では 50.2%と、ともに半数を超え、他の職業に比べて高くなっている。



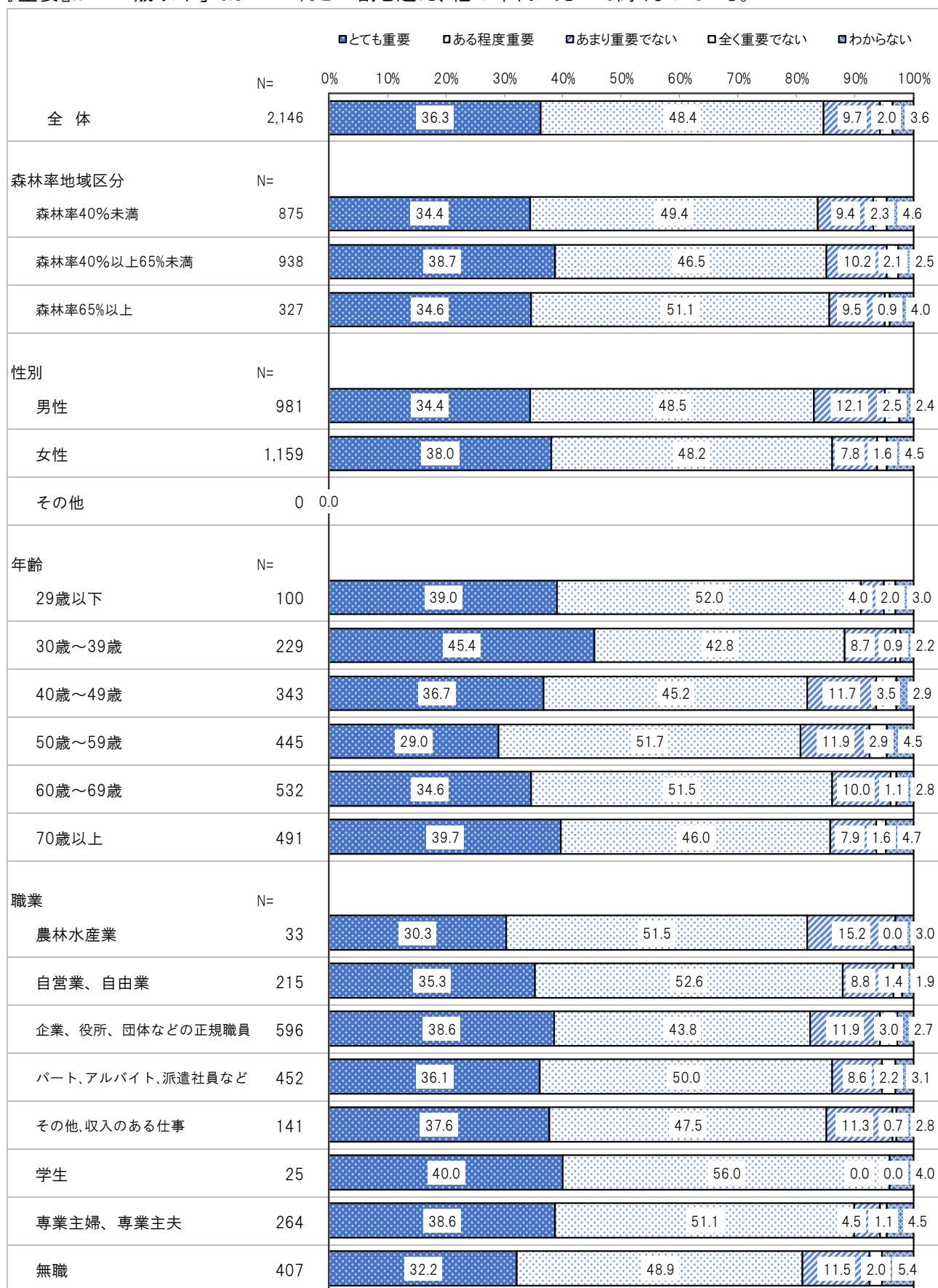
⑨保育や学校における森林教育の取組において、年齢別にみると「とても重要」が「29歳以下」では50.5%、「30歳～39歳」では52.1%と半数を超え、他の年代に比べて高くなっている。職業別にみると「自営業、自由業」では「とても重要」が50.9%と、他の職業に比べて高くなっている。



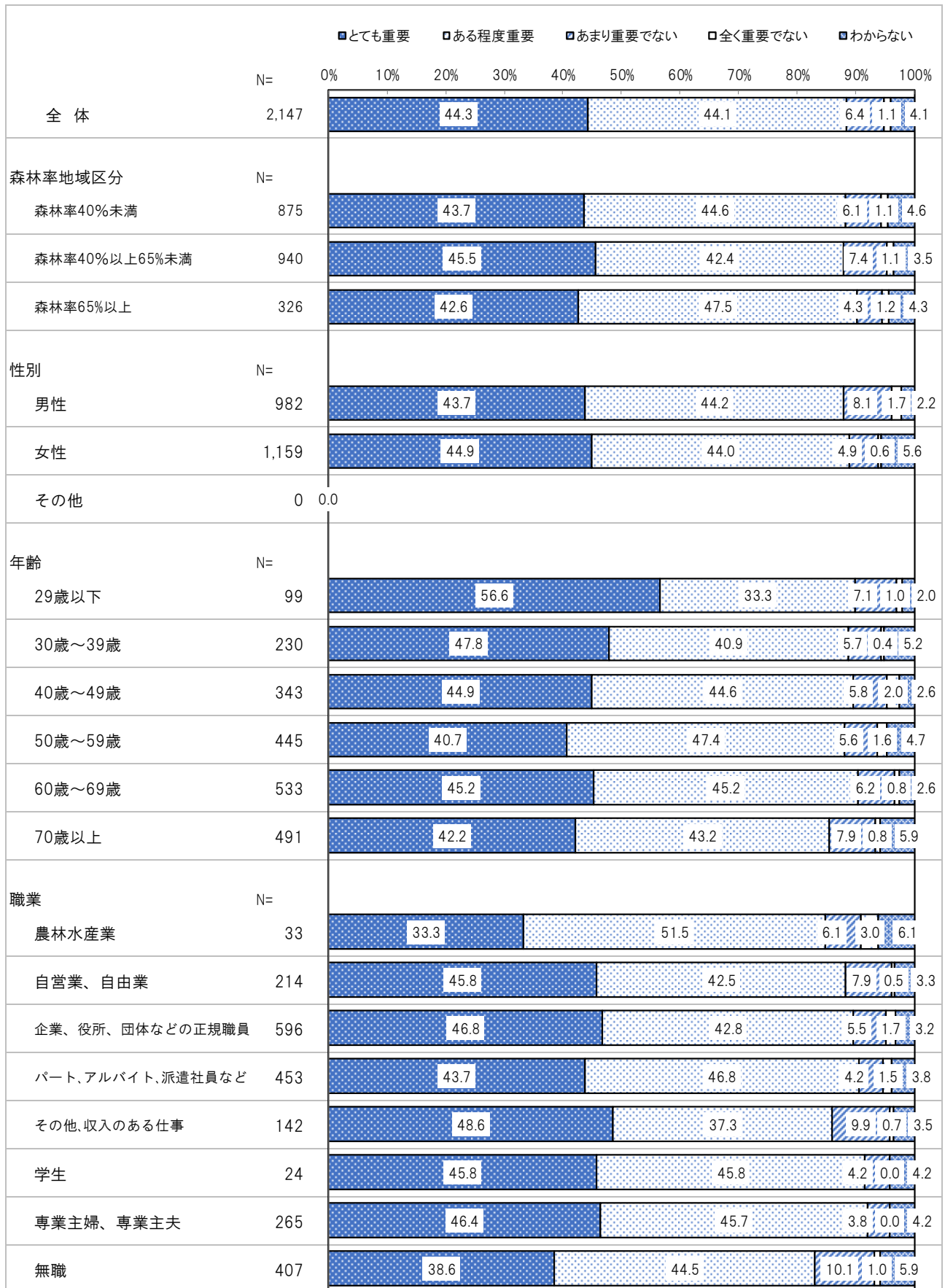
⑩県民が森林づくりに参加する機会の提供では、すべての項目において「ある程度重要」が最も高くなっている。また、職業別にみると、「専業主婦、専業主夫」では「とても重要」と「ある程度重要」を合わせた『重要』が90.2%と、他の職業に比べて高くなっている。



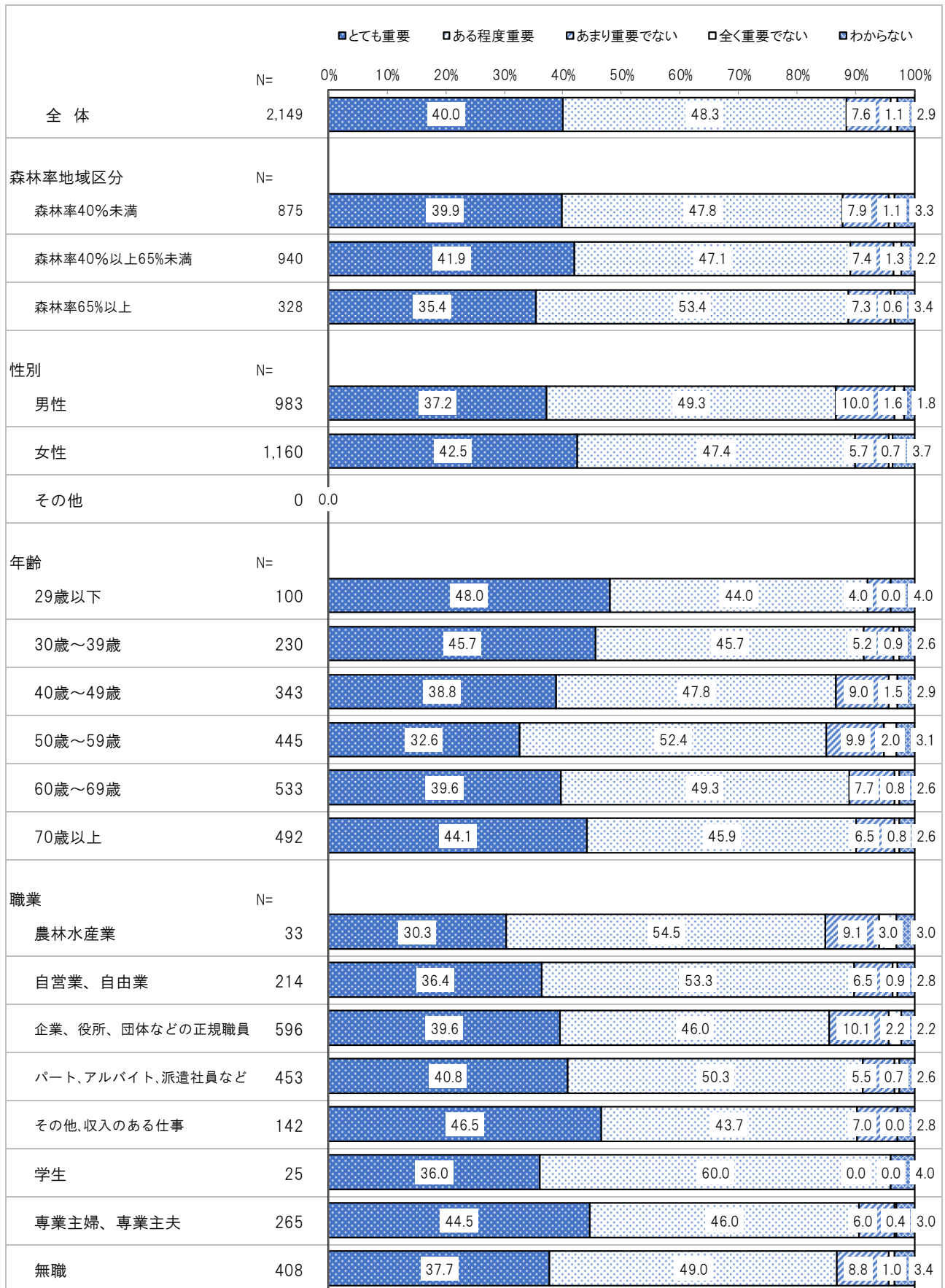
①森林教育を行うフィールドの整備において、年齢別にみると「とても重要」と「ある程度重要」を合わせた『重要』が「29歳以下」では91.0%と9割を超え、他の年代に比べて高くなっている。



⑫生物多様性保全のための取組において、年齢別にみると「29歳以下」では「とても重要」が56.6%と、他の年代に比べて特に高くなっている。



⑬水や緑に親しむことができる森林公園等の整備では、ほとんどの項目において「ある程度重要」が最も高くなっている。年齢別にみると、60歳未満の年代では年代が低くなるにつれて、割合が高くなっている。

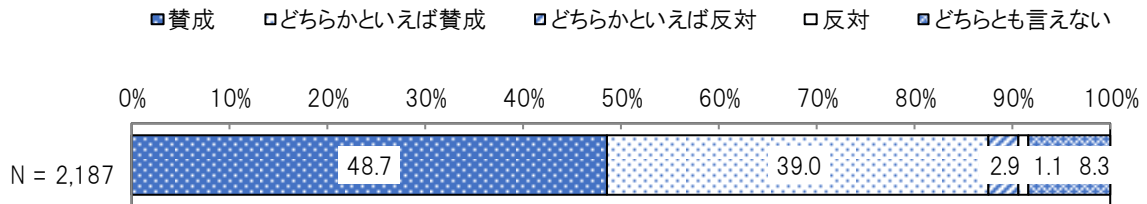


(3)第3期の「みえ森と緑の県民税」継続への賛否

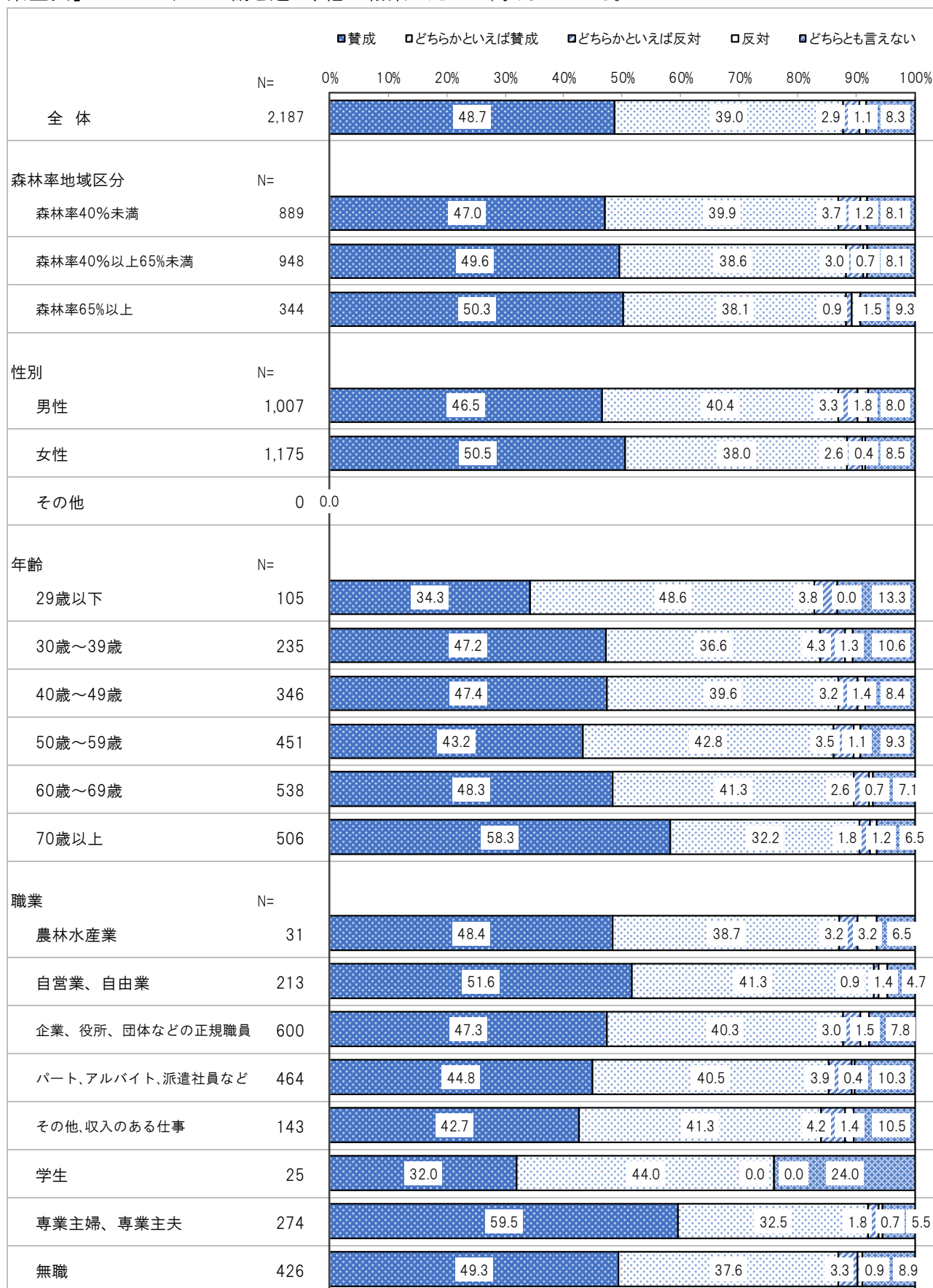
問13:「みえ森と緑の県民税」の制度については、毎年度、「みえ森と緑の県民税評価委員会」により評価・検証を行い、必要に応じておおむね5年ごとに見直すこととしています。平成26年度に導入した「みえ森と緑の県民税」は、現在、第2期(令和元年度～令和5年度)の取組を実施しているところであり、第3期(令和6年度～令和10年度)に向けて、今後、制度の見直し議論を進めていく予定です。

第3期も、「みえ森と緑の県民税」を活用し、問12のような取組を通じて「災害に強い森林づくり(①～⑦の取組)」と「県民全体で森林を支える社会づくり(⑧～⑬の取組)」を進めることについて、あなたはどのように思いますか。(あてはまる番号1つだけに○をつけてください。)

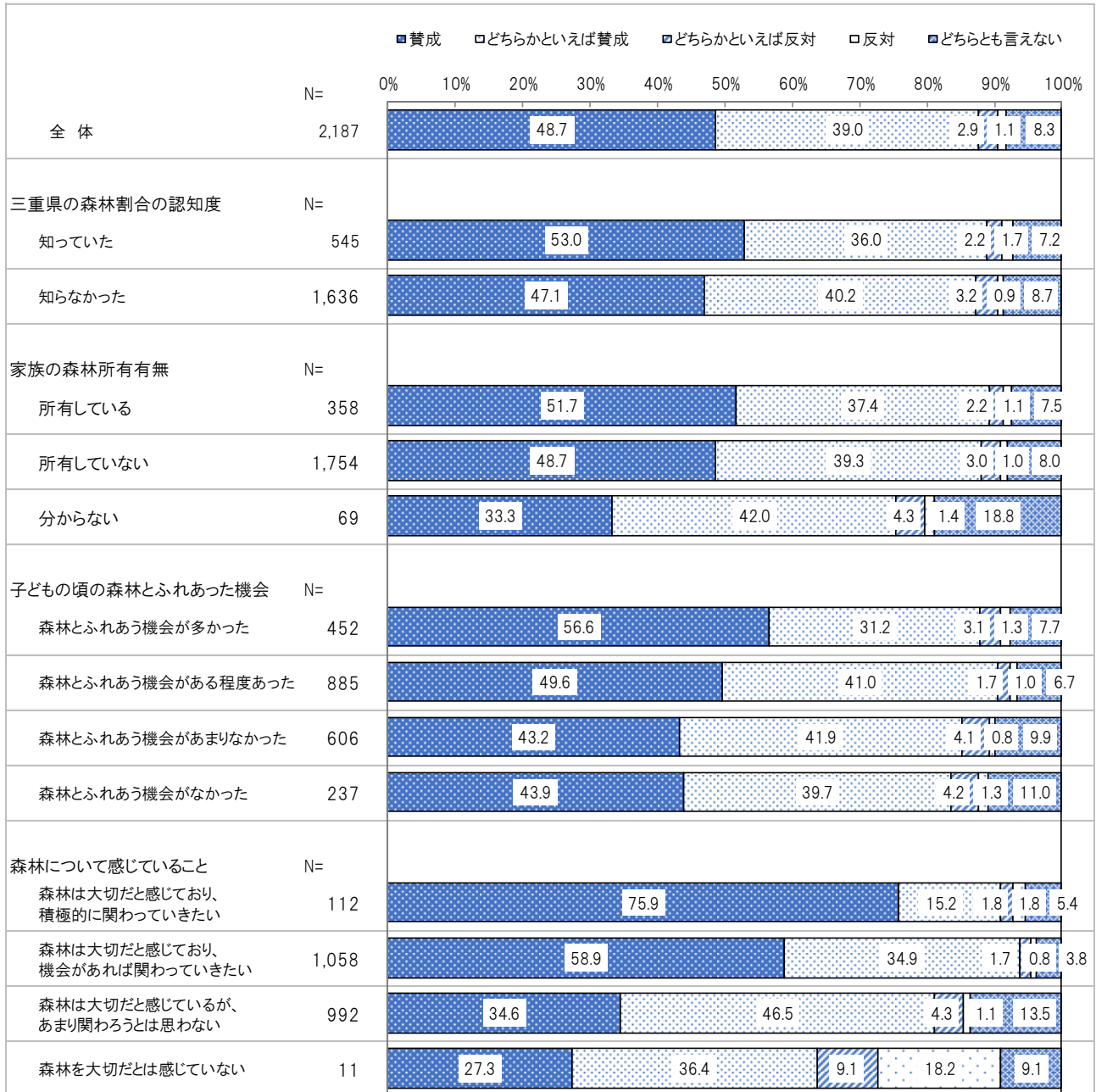
「賛成」が48.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」が39.0%、「どちらとも言えない」が8.3%となっている。



年齢別にみると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』が、年代が高くなるにつれて概ね高くなる傾向がみられる。また、職業別にみると「自営業、自由業」では『賛成』が 92.9%、「専業主婦、専業主夫」では 92.0%と 9 割を超え、他の職業に比べて高くなっている。



子どもの頃の森林とふれあった機会別にみると、「森林とふれあう機会が多かった」では「賛成」が 56.6%と半数を超え、他の項目に比べて高くなっている。森林について感じていること別にみると、「森林は大切だと感じており、積極的に関わっていききたい」では「賛成」が 75.9%と特に高くなっている。また、関わっていききたいと感じている割合が高くなるにつれて、「賛成」が高くなっている。

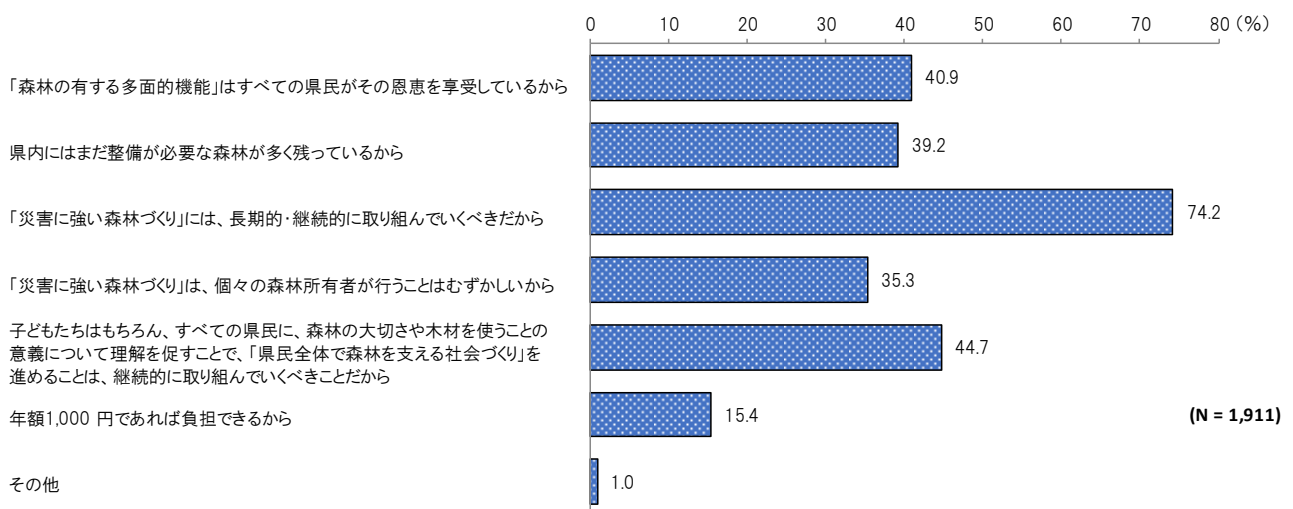


(4) 取組継続に『賛成』の理由

問14: 問13で「1: 賛成」または「2: どちらかといえば賛成」を選ばれた理由を教えてください。

(あてはまる番号に3つまで○をつけてください。複数回答可)

「災害に強い森林づくり」には、長期的・継続的に取り組んでいくべきだから」が74.2%と最も高く、次いで「子どもたちはもちろん、すべての県民に、森林の大切さや木材を使うことの意義について理解を促すことで、「県民全体で森林を支える社会づくりを進めることは、継続的に取り組んでいくべきこと」が44.7%、「森林の有する多面的機能」はすべての県民がその恩恵を享受しているから」が40.9%となっている。



【その他回答】（抜粋）

- (1) 他国に依存せず、資源として活用できるようにすべきだから。
- (2) 県税ではあるが広く考えれば地球温暖化。資源の利用など、県民だけに限らず次代の子供達にとって広く有意義な事になりえるであろうと考える。
- (3) フェスタがあることも知りませんでした。もっとふれあえるイベント(参加型)で知らせる事は大切だと思います。体験することで身近に感じられるので。また、子供が小学生の頃知らずにたまたま行った加太で丸太切りや竹で作った鉄ぼう・まとあて等、参加して遊ばせていただきました。もう30すぎになっていますが今でも思い出として大切にしています。孫達にも遊ばせてやりたい。ゲームして遊ぶのではなく体を使った遊びは忘れないと思います。
- (4) 私有林の管理がむずかしく、収益が望めないため。太陽光ソーラーパネル設置に替わっていく森林が多く見られる。県民税で森を守ってほしい。
- (5) 登山が大好きなので森林はとても大切。
- (6) 森林所有者にも負担させる事も大事。
- (7) 観光資源にもつながると思うから。
- (8) もし、杉を植えるなら無花粉スギにしてほしい。
- (9) 必要性が高く賛成であるが自身も知らなかったように知らない県民が多いと思うのでどのように啓発していくか検討をお願いしたい。
- (10) 森林を通して、人と人との関わりが出来ると有用だから。
- (11) 未来に自然を残したい。
- (12) 個人所有の森林にも県民税が使われるのはどうかと思いますが…個々でできないのであれば、県の所有として税金を使ってほしい。個々で管理するよう制限をかけるなどして、できていない(調査等)のであれば、所有する権利を放棄するような規律・法律等をつくってほしい。所有しているのであれば、所有者の責務を果たしてほしい。それができて、所有することができることにしなければ、不満が生じる。
- (13) 森林が減りメガソーラーが増えている。森林を大切にしていきたい。野性動物の生態系もくずれてしまう。
- (14) 災害に強い森林づくりは、大変重要で積極的に取りくむべきだと思いますが、「みえ森と緑の県民税」¥1000は県民負担なしで国の補助金を利用しておこなってほしいです。

すべての項目において、「「災害に強い森林づくり」には、長期的・継続的に取り組んでいくべきだから」が最も高くなっている。年齢別にみると、「子どもたちはもちろん、すべての県民に、森林の大切さや木材を使うことの意義について理解を促すことで、「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めることは、継続的に取り組んでいくべきこと」では、「30歳～39歳」及び「40歳～49歳」で半数を超えている。

(上段:件数、下段:%)

	全 体	享は す 森 林 の 有 す る か ら そ の 恩 恵 を	森 林 内 に は 多 く 残 つ て い る か ら	ん は 、 災 害 に 強 い 森 林 づ き り に	こ は 、 災 害 に 強 い 森 林 づ き 	継 続 的 に 取 り 組 む こ と を 進 め る こ と は	負 担 で き る か ら	そ の 他	
全 体	1,911 100.0	781 40.9	750 39.2	1,418 74.2	675 35.3	855 44.7	295 15.4	19 1.0	
森 林 率 地 域 区 分	森林率40%未満	769 100.0	314 40.8	268 34.9	585 76.1	246 32.0	361 46.9	7 0.9	
	森林率40%以上65%未満	832 100.0	344 41.3	352 42.3	606 72.8	313 37.6	366 44.0	8 1.0	
	森林率65%以上	304 100.0	122 40.1	128 42.1	222 73.0	113 37.2	127 41.8	4 1.3	
性 別	男性	871 100.0	374 42.9	362 41.6	630 72.3	304 34.9	354 40.6	7 0.8	
	女性	1,035 100.0	406 39.2	387 37.4	784 75.7	368 35.6	500 48.3	12 1.2	
	その他	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
年 齢	29歳以下	86 100.0	31 36.0	28 32.6	57 66.3	29 33.7	36 41.9	12 14.0	- -
	30歳～39歳	197 100.0	94 47.7	49 24.9	144 73.1	61 31.0	102 51.8	36 18.3	4 2.0
	40歳～49歳	301 100.0	123 40.9	102 33.9	223 74.1	93 30.9	152 50.5	51 16.9	4 1.3
	50歳～59歳	387 100.0	150 38.8	163 42.1	301 77.8	139 35.9	147 38.0	51 13.2	3 0.8
	60歳～69歳	481 100.0	191 39.7	216 44.9	362 75.3	185 38.5	208 43.2	81 16.8	6 1.2
	70歳以上	453 100.0	191 42.2	191 42.2	326 72.0	165 36.4	209 46.1	62 13.7	2 0.4
職 業	農林水産業	27 100.0	12 44.4	11 40.7	21 77.8	9 33.3	7 25.9	5 18.5	- -
	自営業、自由業	198 100.0	79 39.9	72 36.4	141 71.2	79 39.9	84 42.4	33 16.7	1 0.5
	企業、役所、団体などの正規職員	525 100.0	233 44.4	193 36.8	395 75.2	173 33.0	226 43.0	94 17.9	9 1.7
	パート、アルバイト、派遣社員など	394 100.0	147 37.3	159 40.4	304 77.2	127 32.2	189 48.0	51 12.9	4 1.0
	その他、収入のある仕事	119 100.0	38 31.9	55 46.2	91 76.5	47 39.5	53 44.5	24 20.2	1 0.8
	学生	19 100.0	9 47.4	3 15.8	14 73.7	10 52.6	6 31.6	3 15.8	- -
	専業主婦、専業主夫	250 100.0	100 40.0	107 42.8	186 74.4	86 34.4	130 52.0	28 11.2	3 1.2
	無職	368 100.0	158 42.9	148 40.2	260 70.7	140 38.0	157 42.7	54 14.7	1 0.3

すべての項目において、「「災害に強い森林づくり」には、長期的・継続的に取り組んでいくべきだから」が最も高くなっている。また、森林について感じていること別にみると、「森林は大切だと感じており、積極的に関わっていききたい」では「森林の有する多面的機能」はすべての県民がその恩恵を享受しているから」が55.9%と、他の項目に比べて高くなっている。

(上段:件数、下段:%)

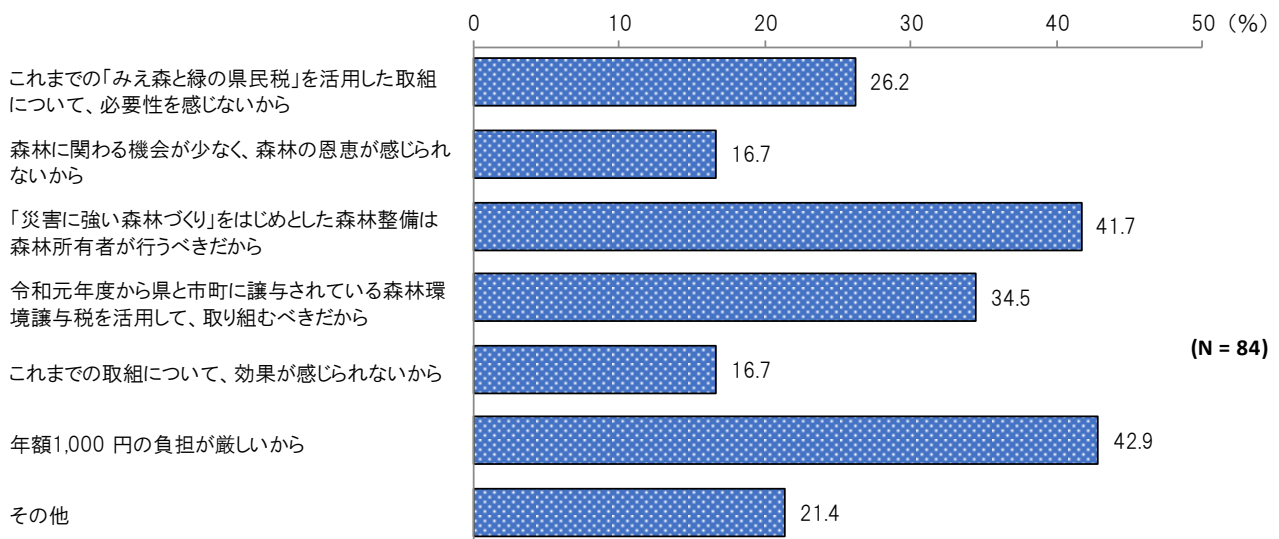
	全 体	享は す べ て の 有 す る か ら そ の 恩 恵 を	森 林 に は 多 く 残 っ て い る か ら 整 備 が 必 要 な	んは 、 長 期 に 強 い 森 林 づ く り に 組 み 込 め る べ き だ か ら	こ は 、 個 々 の 森 林 づ く り に 関 与 す る 者 が 行 う	継 続 的 に 取 り 組 む べ き だ か ら 進 め る べ き こ と は	こ の 意 義 を 全 体 で 理 解 を 促 す べ き こ と は	子 ど も に も ち ら ん 、 す べ て の 材 木 を 使 う べ き こ と は	負 担 で き る か ら 1 、 0 0 0 0 円 で あ れ ば	そ の 他
全 体	1,911 100.0	781 40.9	750 39.2	1,418 74.2	675 35.3	855 44.7	295 15.4	19 1.0		
森三 認林 知割 度合 の	知っていた	482 100.0	198 41.1	239 49.6	342 71.0	184 38.2	213 44.2	63 13.1	3 0.6	
	知らなかった	1,423 100.0	582 40.9	509 35.8	1,072 75.3	489 34.4	638 44.8	231 16.2	16 1.1	
家 族 の 森 林 所 有	所有している	317 100.0	133 42.0	142 44.8	217 68.5	182 57.4	121 38.2	46 14.5	1 0.3	
	所有していない	1,537 100.0	630 41.0	586 38.1	1,164 75.7	465 30.3	714 46.5	233 15.2	17 1.1	
	分からない	52 100.0	18 34.6	20 38.5	33 63.5	26 50.0	19 36.5	14 26.9	- -	
子 ふ れ あ う 機 会 と	森林とふれあう機会が多かった	396 100.0	161 40.7	175 44.2	273 68.9	153 38.6	182 46.0	55 13.9	3 0.8	
	森林とふれあう機会がある程度あった	801 100.0	348 43.4	308 38.5	593 74.0	271 33.8	378 47.2	136 17.0	9 1.1	
	森林とふれあう機会があまりなかった	512 100.0	197 38.5	200 39.1	403 78.7	178 34.8	218 42.6	72 14.1	5 1.0	
	森林とふれあう機会がなかった	196 100.0	74 37.8	65 33.2	144 73.5	70 35.7	74 37.8	30 15.3	2 1.0	
感 じ て い る こ と	森林は大切だと感じており、積極的に関わっていききたい	102 100.0	57 55.9	39 38.2	79 77.5	34 33.3	51 50.0	12 11.8	1 1.0	
	森林は大切だと感じており、機会があれば関わっていききたい	988 100.0	420 42.5	388 39.3	746 75.5	329 33.3	497 50.3	148 15.0	12 1.2	
	森林は大切だと感じているが、あまり関わろうとは思わない	800 100.0	299 37.4	313 39.1	577 72.1	309 38.6	301 37.6	129 16.1	6 0.8	
	森林を大切だとは思っていない	7 100.0	2 28.6	4 57.1	5 71.4	1 14.3	1 14.3	1 14.3	- -	

(5) 取組継続に『反対』の理由

問15: 問13で「3: どちらかといえば反対」または「4: 反対」を選ばれた理由を教えてください。

(あてはまる番号に3つまで○をつけてください。複数回答可)

「年額 1,000 円の負担が厳しいから」が 42.9%と最も高く、次いで「災害に強い森林づくりをはじめとした森林整備は森林所有者が行うべきだから」が 41.7%、「令和元年度から県と市町に譲与されている森林環境譲与税を活用して、取り組むべきだから」が 34.5%となっている。



【その他回答】（抜粋）

- (1) 一般の予算から出せば良い。予算の組替えをお願いします。
- (2) 特別な税金を徴収せずに一般の税金の枠組の中でとりこんでほしい。なお原則的には所有者がとくむべきと考える。
- (3) みんなの生活が楽になってから。代議員等が寄付を出して行うなら賛成。
- (4) 森林に興味・関心ある方が動いてほしい。
- (5) 大切だと理解するが、今の経済を考えたときに「確約された安全」か「コスト的恩恵」が見えない限り、負担する意義を感じない。幅広く取り組もうと伺えるが本質的な目標が分からない。
- (6) 既在の所得税、住民税の中で、取り組みれば良い。新たな税金の徴収はやめていただきたい。
- (7) 費用対効果がわからない。検証報告がない。
- (8) 森林の保全を声高に訴える一方大規模なソーラー開発を認めていては全くの徒営・無益な行いだと思うため。
- (9) 活動自体に対して反対ではなく、財源を県民負担としているところに問題があります。森林の保全については、国土保全の観点から国全体の課題として取り扱うべき事案であり、国庫補助により進めるべきです。目下デフレ経済においては少しでも国民・県民の可処分所得の妨げになる税負担の軽減に注力すべきです。
- (10) 税金の使われ方に対して懐疑的であるから。みえ森と緑の県民税の収支報告を必ずすること。

性別でみると、「男性」では「年額 1,000 円の負担が厳しいから」が 44.0%で最も高く、「女性」では「災害に強い森林づくりをはじめとした森林整備は森林所有者が行うべきだから」が 47.1%で最も高くなっている。年齢別にみると「災害に強い森林づくりをはじめとした森林整備は森林所有者が行うべきだから」は年代が高くなるにつれて、概ね割合が高くなっているが、N 数が少ないため参考程度に留めたい。

(上段:件数、下段:%)

		全 体	て民こ 必「を 性活 を感 じた ない 組と かに 緑の つ の 県	か森森 ら林林 のに 恩関 わら る機 会が 少な く、	森は「 林災 所有害 者がに 行た う森 べき林 だ整 は備 かり を	かを与 ら活され 用れて いる 、取 り森 組林 む境 む市 べ譲 き与 だ税譲	効こ 果れ が感 じら れな い から	厳年 し額 い1 から 0 0 0 円 の 負 担 が	そ の 他
全 体		84 100.0	22 26.2	14 16.7	35 41.7	29 34.5	14 16.7	36 42.9	18 21.4
森 林 率 地 域 区 分	森林率40%未満	42 100.0	10 23.8	3 7.1	20 47.6	15 35.7	6 14.3	18 42.9	9 21.4
	森林率40%以上65%未満	34 100.0	9 26.5	11 32.4	11 32.4	12 35.3	7 20.6	13 38.2	6 17.6
	森林率65%以上	8 100.0	3 37.5	- -	4 50.0	2 25.0	1 12.5	5 62.5	3 37.5
性 別	男性	50 100.0	14 28.0	6 12.0	19 38.0	14 28.0	7 14.0	22 44.0	13 26.0
	女性	34 100.0	8 23.5	8 23.5	16 47.1	15 44.1	7 20.6	14 41.2	5 14.7
	その他	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
年 齢	29歳以下	4 100.0	- -	- -	1 25.0	1 25.0	- -	3 75.0	- -
	30歳～39歳	12 100.0	1 8.3	2 16.7	2 16.7	2 16.7	2 16.7	7 58.3	2 16.7
	40歳～49歳	16 100.0	5 31.3	2 12.5	4 25.0	5 31.3	3 18.8	6 37.5	4 25.0
	50歳～59歳	19 100.0	6 31.6	4 21.1	9 47.4	9 47.4	2 10.5	8 42.1	5 26.3
	60歳～69歳	18 100.0	3 16.7	5 27.8	9 50.0	10 55.6	4 22.2	5 27.8	4 22.2
	70歳以上	15 100.0	7 46.7	1 6.7	10 66.7	2 13.3	3 20.0	7 46.7	3 20.0
職 業	農林水産業	2 100.0	- -	- -	1 50.0	- -	1 50.0	- -	- -
	自営業、自由業	5 100.0	1 20.0	- -	2 40.0	1 20.0	- -	2 40.0	3 60.0
	企業、役所、団体などの正規職員	27 100.0	6 22.2	3 11.1	8 29.6	8 29.6	- -	13 48.1	9 33.3
	パート、アルバイト、派遣社員など	19 100.0	6 31.6	7 36.8	5 26.3	10 52.6	5 26.3	6 31.6	1 5.3
	その他、収入のある仕事	6 100.0	1 16.7	1 16.7	3 50.0	2 33.3	3 50.0	2 33.3	1 16.7
	学生	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	専業主婦、専業主夫	7 100.0	2 28.6	- -	4 57.1	4 57.1	2 28.6	3 42.9	2 28.6
	無職	18 100.0	6 33.3	3 16.7	12 66.7	4 22.2	3 16.7	10 55.6	2 11.1

家族の森林所有別にみると、「所有している」では「これまで「みえ森と緑の県民税」を活用した取組について、必要性を感じないから」が 45.5%と最も高く、一方「所有していない」では「災害に強い森林づくりをはじめとした森林整備は森林所有者が行うべきだから」と「年額 1,000 円の負担が厳しいから」がそれぞれ 44.1%と最も高くなっている。

(上段:件数、下段:%)

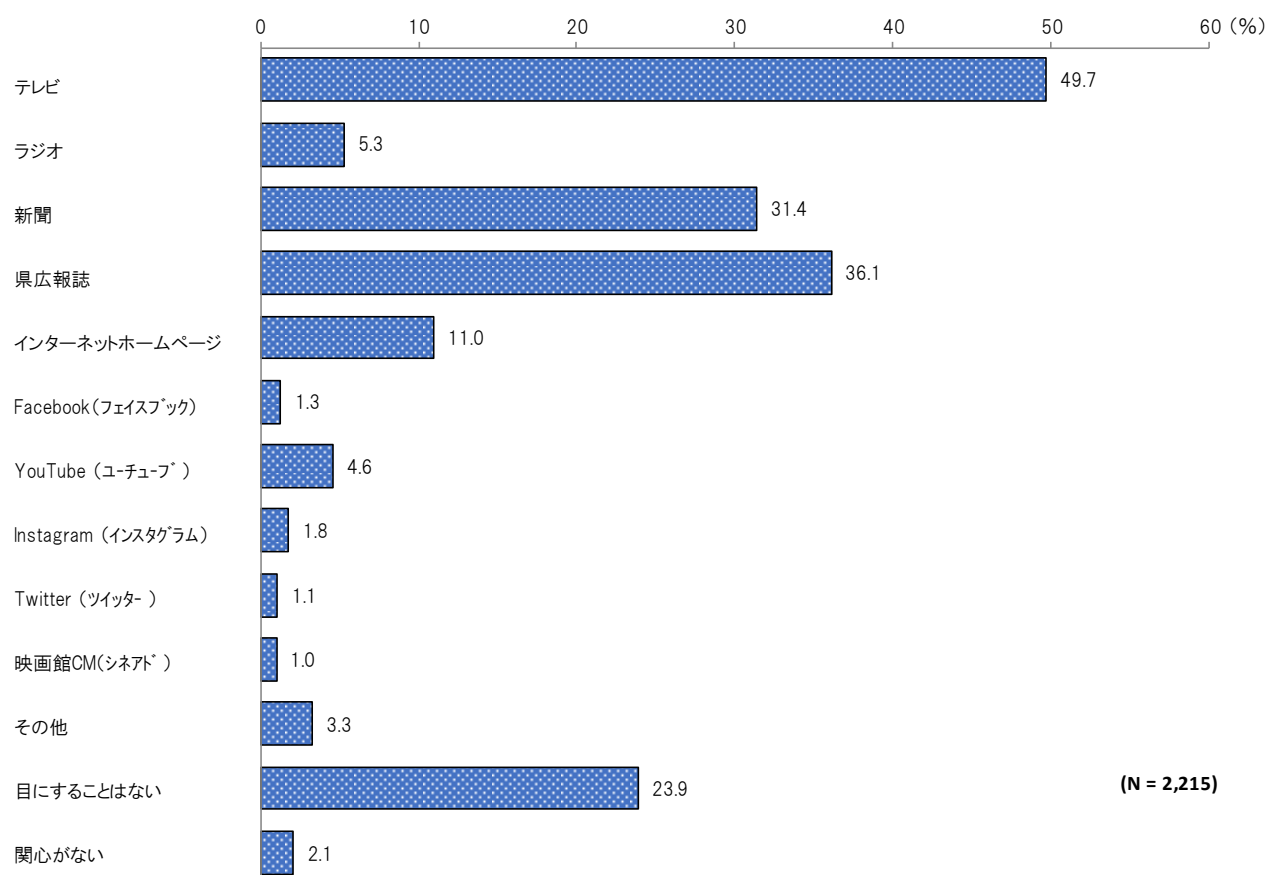
		全 体	て民こ 税れ をま 必要 性を 活用 した 「み え森 と緑 の県 民税」 を 活用 した 取組 につ いて 必要 性を 感じ ない から	か森森 ら林林 のの 恩恩 恵わ がる 感じ が少 なく 、	森は 林は 所有 者と 強い 「災 害に 強い 森林 づく り」 を	かを ら活 され てい る取 組む べき だ税 譲	令和 元元 年度 から 県と 市町 譲	効こ 果れ がま 感じ られ ない から	厳年 し額 い1 から 00 00 円 の 負 担 が	そ の 他
全 体		84 100.0	22 26.2	14 16.7	35 41.7	29 34.5	14 16.7	36 42.9	18 21.4	
の森三 認林重 知割県 度合の	知っていた	20 100.0	6 30.0	4 20.0	10 50.0	8 40.0	3 15.0	10 50.0	7 35.0	
	知らなかった	64 100.0	16 25.0	10 15.6	25 39.1	21 32.8	11 17.2	26 40.6	11 17.2	
家 族 の 森 林 所 有	所有している	11 100.0	5 45.5	2 18.2	4 36.4	1 9.1	4 36.4	4 36.4	2 18.2	
	所有していない	68 100.0	15 22.1	10 14.7	30 44.1	27 39.7	7 10.3	30 44.1	16 23.5	
	分からない	4 100.0	2 50.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	2 50.0	-	
子 ふ れ あ う の 頃 に 森 林 と 機 会	森林とふれあう機会が多かった	20 100.0	6 30.0	4 20.0	9 45.0	6 30.0	6 30.0	7 35.0	8 40.0	
	森林とふれあう機会がある程度あった	23 100.0	7 30.4	2 8.7	6 26.1	9 39.1	3 13.0	10 43.5	6 26.1	
	森林とふれあう機会があまりなかった	29 100.0	6 20.7	4 13.8	13 44.8	11 37.9	3 10.3	15 51.7	3 10.3	
	森林とふれあう機会がなかった	12 100.0	3 25.0	4 33.3	7 58.3	3 25.0	2 16.7	4 33.3	1 8.3	
感 じ て い る こ と	森林は大切だと感じており、積極的に関わっていききたい	4 100.0	1 25.0	-	-	1 25.0	2 50.0	1 25.0	2 50.0	
	森林は大切だと感じており、機会があれば関わっていききたい	26 100.0	6 23.1	4 15.4	6 23.1	9 34.6	5 19.2	12 46.2	8 30.8	
	森林は大切だと感じているが、あまり関わろうとは思わない	51 100.0	15 29.4	9 17.6	27 52.9	18 35.3	6 11.8	22 43.1	7 13.7	
	森林を大切だとは感じていない	3 100.0	-	1 33.3	2 66.7	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	

5. 森林づくりに関する情報について

(1) 森林づくりに関する情報を目にする媒体

問16-1:あなたは、森林づくりに関する情報を、どのような媒体で目にしますか。
(あてはまる番号すべてに○をつけてください。複数回答可)

「テレビ」が49.7%と最も高く、次いで「県広報誌」が36.1%、「新聞」が31.4%となっている。



【その他回答】（抜粋）

- (1) みえ森と緑の県民税は今回のアンケートで始めて知った。県広報誌等では見逃していた。
- (2) 漁業関連のリーフレット。
- (3) 社内にて環境問題等研修が有る。
- (4) トレッキングなどを行っている時々に休み処などに置いてあるパンフレットを見たりする事があります。
- (5) 博物館展示など。
- (6) 小学生の子どもの社会の授業や教科書などで。
- (7) 森林の主、材木業の友人。
- (8) 地域で森林に関する勉強会をたまに開催してくれているので、そこで森林の使い道などを教えてもらっている。
- (9) ある県会議員の活動報告で知ったことがある。
- (10) 労働組合の会議で、議題に時々上る事がある。
- (11) 知り合いが林業の仕事をしていて、話を聞くことがある。
- (12) 森林は山を持つてる人からよく聞きます。
- (13) 会社の広報や興味のある人からの伝聞。
- (14) 自分も山を持っており、昔森林づくりのサークルに入っていたから、感心がある。
- (15) 農林事務所の森林・林業で働いて知っていた。
- (16) 生態学や保全に関する本や教科書。
- (17) 森林づくりにたずさわっている人から直接エピソードなどを雑談中にきく。
- (18) 森林組合員の雑誌。
- (19) みえ森づくりの冊子等で、知り情報を得ました。
- (20) 登山アプリ。
- (21) 今回の意識調査で初めて知りました。
- (22) YAMAP
- (23) 砂防、造林、伐木事業に関わっていた。
- (24) 地域の情報発信ステーション(三重県民の森自然学習展示館等)
- (25) 防災センター。
- (26) 知り合いが取り組んでいるから。
- (27) 現地で見聞きする情報に比し、各媒体から得る情報はほとんど無いと感ずる。
- (28) 森林教育ステーションや県民の森など。
- (29) 森林組合報。
- (30) カブトムシ、クワガタムシの専門月刊誌。
- (31) 住民税の資料に載っていた。

すべての項目において「テレビ」が最も高くなっている。年齢別にみると「70歳以上」では「新聞」が51.1%、「県広報誌」が50.2%と半数を超え、他の年代に比べて特に高くなっている。

(上段:件数、下段:%)

		全 体	テ レ ビ	ラ ジ オ	新 聞	県 広 報 誌	ホ ー ム タ ー ネ ッ ト	F a c e b o o k (フ ェ イ ス ブ ッ ク)	Y o u T u b e (ユ ー チ ュ ー ブ)	I n s t a g r a m (イ ン ス タ グ ラ ム)	T w i t t e r (ツ イ ッ タ ー)	映 画 館 C M (シ ネ マ ド)	そ の 他	目 に す る こ と は な い	関 心 が な い
全 体		2,215 100.0	1,101 49.7	117 5.3	696 31.4	799 36.1	244 11.0	28 1.3	101 4.6	39 1.8	24 1.1	22 1.0	73 3.3	529 23.9	47 2.1
森 林 率 地 域 区 分	森林率40%未満	901 100.0	434 48.2	47 5.2	274 30.4	284 31.5	86 9.5	10 1.1	31 3.4	10 1.1	11 1.2	9 1.0	30 3.3	243 27.0	21 2.3
	森林率40%以上65%未満	967 100.0	484 50.1	51 5.3	303 31.3	396 41.0	116 12.0	12 1.2	54 5.6	20 2.1	10 1.0	12 1.2	32 3.3	207 21.4	18 1.9
	森林率65%以上	343 100.0	182 53.1	19 5.5	119 34.7	118 34.4	42 12.2	6 1.7	16 4.7	9 2.6	3 0.9	1 0.3	11 3.2	77 22.4	8 2.3
性 別	男性	1,020 100.0	474 46.5	51 5.0	310 30.4	368 36.1	142 13.9	18 1.8	55 5.4	16 1.6	9 0.9	8 0.8	38 3.7	240 23.5	24 2.4
	女性	1,190 100.0	625 52.5	66 5.5	385 32.4	429 36.1	101 8.5	10 0.8	46 3.9	23 1.9	15 1.3	14 1.2	35 2.9	287 24.1	23 1.9
	その他	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
年 齢	29歳以下	102 100.0	47 46.1	2 2.0	14 13.7	18 17.6	10 9.8	- -	7 6.9	7 6.9	6 5.9	1 1.0	3 2.9	32 31.4	6 5.9
	30歳～39歳	235 100.0	96 40.9	8 3.4	27 11.5	57 24.3	31 13.2	7 3.0	23 9.8	12 5.1	4 1.7	5 2.1	3 1.3	81 34.5	8 3.4
	40歳～49歳	348 100.0	139 39.9	17 4.9	60 17.2	96 27.6	43 12.4	4 1.1	20 5.7	7 2.0	4 1.1	6 1.7	13 3.7	113 32.5	9 2.6
	50歳～59歳	459 100.0	222 48.4	28 6.1	133 29.0	143 31.2	59 12.9	5 1.1	19 4.1	5 1.1	8 1.7	3 0.7	15 3.3	108 23.5	10 2.2
	60歳～69歳	540 100.0	284 52.6	26 4.8	193 35.7	220 40.7	72 13.3	11 2.0	17 3.1	5 0.9	1 0.2	4 0.7	21 3.9	117 21.7	8 1.5
	70歳以上	526 100.0	312 59.3	36 6.8	269 51.1	264 50.2	29 5.5	1 0.2	15 2.9	3 0.6	1 0.2	3 0.6	18 3.4	75 14.3	6 1.1
職 業	農林水産業	32 100.0	17 53.1	5 15.6	10 31.3	15 46.9	4 12.5	1 3.1	- -	1 3.1	- -	- -	2 6.3	8 25.0	- -
	自営業、自由業	217 100.0	103 47.5	11 5.1	68 31.3	84 38.7	30 13.8	7 3.2	14 6.5	4 1.8	3 1.4	4 1.8	11 5.1	47 21.7	1 0.5
	企業、役所、団体などの正規職員	610 100.0	261 42.8	33 5.4	138 22.6	172 28.2	85 13.9	4 0.7	32 5.2	12 2.0	7 1.1	9 1.5	19 3.1	181 29.7	19 3.1
	パート、アルバイト、派遣社員など	460 100.0	240 52.2	27 5.9	134 29.1	148 32.2	50 10.9	6 1.3	26 5.7	9 2.0	5 1.1	2 0.4	11 2.4	113 24.6	7 1.5
	その他、収入のある仕事	146 100.0	69 47.3	8 5.5	39 26.7	58 39.7	20 13.7	4 2.7	5 3.4	5 3.4	3 2.1	- -	2 1.4	40 27.4	4 2.7
	学生	24 100.0	12 50.0	- -	1 4.2	4 16.7	2 8.3	- -	2 8.3	3 12.5	1 4.2	1 4.2	- -	6 25.0	2 8.3
	専業主婦、専業主夫	284 100.0	163 57.4	12 4.2	113 39.8	132 46.5	17 6.0	2 0.7	11 3.9	3 1.1	3 1.1	2 0.7	9 3.2	47 16.5	5 1.8
	無職	431 100.0	231 53.6	21 4.9	192 44.5	182 42.2	34 7.9	4 0.9	10 2.3	2 0.5	1 0.2	4 0.9	18 4.2	84 19.5	9 2.1

すべての項目において「テレビ」が最も高くなっている。(森林について感じていること別にみると、「森林を大切だとは感じていない」では「新聞」も同率で最も高い。)子どもの頃に森林とふれあった機会別にみると、機会が少ないほど「目にすることはない」の割合が高い傾向にある。

(上段:件数、下段:%)

		全 体	テ レ ビ	ラ ジ オ	新 聞	県 広 報 誌	イ ン タ ー ネ ッ ト ホ ー ム ペ ー ジ	F a c e b o o k (フ ェ イ ス ブ ッ ク)	Y o u T u b e (ユ ー チ ュ ー ブ)	I n s t a g r a m (イ ン ス タ グ ラ ム)	T w i t t e r (ツ イ ッ タ ー)	映 画 館 C M (シ ネ ア ド)	そ の 他	目 に す る こ と は な い	関 心 が な い
全 体		2,215 100.0	1,101 49.7	117 5.3	696 31.4	799 36.1	244 11.0	28 1.3	101 4.6	39 1.8	24 1.1	22 1.0	73 3.3	529 23.9	47 2.1
森三 重 知 割 度 の	知っていた	557 100.0	298 53.5	46 8.3	230 41.3	267 47.9	79 14.2	7 1.3	30 5.4	11 2.0	7 1.3	8 1.4	28 5.0	84 15.1	7 1.3
	知らなかった	1,652 100.0	801 48.5	71 4.3	463 28.0	528 32.0	164 9.9	21 1.3	71 4.3	28 1.7	17 1.0	14 0.8	45 2.7	444 26.9	40 2.4
家 族 の 森 林 所 有	所有している	366 100.0	204 55.7	18 4.9	129 35.2	146 39.9	45 12.3	6 1.6	21 5.7	7 1.9	1 0.3	3 0.8	18 4.9	74 20.2	6 1.6
	所有していない	1,769 100.0	863 48.8	95 5.4	551 31.1	631 35.7	193 10.9	22 1.2	78 4.4	32 1.8	21 1.2	18 1.0	54 3.1	433 24.5	33 1.9
	分からない	72 100.0	31 43.1	4 5.6	14 19.4	20 27.8	5 6.9	- -	2 2.8	- -	2 2.8	- -	1 1.4	20 27.8	8 11.1
子 ふ れ も あ っ た 頃 に 機 会 と	森林とふれあう機会が多かった	457 100.0	234 51.2	35 7.7	154 33.7	171 37.4	66 14.4	6 1.3	38 8.3	11 2.4	4 0.9	9 2.0	24 5.3	96 21.0	6 1.3
	森林とふれあう機会がある程度あった	895 100.0	464 51.8	43 4.8	290 32.4	343 38.3	108 12.1	13 1.5	40 4.5	19 2.1	13 1.5	8 0.9	30 3.4	195 21.8	18 2.0
	森林とふれあう機会があまりなかった	613 100.0	291 47.5	28 4.6	175 28.5	199 32.5	55 9.0	8 1.3	19 3.1	7 1.1	4 0.7	5 0.8	17 2.8	166 27.1	13 2.1
	森林とふれあう機会がなかった	243 100.0	110 45.3	10 4.1	73 30.0	82 33.7	14 5.8	1 0.4	4 1.6	2 0.8	3 1.2	- -	2 0.8	71 29.2	10 4.1
感 じ て い る こ と	森林は大切だと感じており、積極的に関わっていききたい	114 100.0	56 49.1	10 8.8	41 36.0	53 46.5	24 21.1	3 2.6	13 11.4	5 4.4	4 3.5	5 4.4	8 7.0	18 15.8	1 0.9
	森林は大切だと感じており、機会があれば関わっていききたい	1,058 100.0	559 52.8	65 6.1	377 35.6	407 38.5	148 14.0	21 2.0	59 5.6	26 2.5	11 1.0	9 0.9	47 4.4	206 19.5	8 0.8
	森林は大切だと感じているが、あまり関わろうとは思わない	1,019 100.0	472 46.3	41 4.0	267 26.2	330 32.4	70 6.9	4 0.4	29 2.8	8 0.8	9 0.9	8 0.8	17 1.7	304 29.8	34 3.3
	森林を大切だとは感じていない	12 100.0	6 50.0	- -	6 50.0	3 25.0	1 8.3	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

6. 森林づくりに関するご意見・ご要望

(1) 県の森林・林業行政についてのご意見・ご要望

問17: 県の森林・林業行政について、ご意見・ご要望などございましたらご記入ください。(自由記載)

【ご意見・ご要望】(抜粋)

- (1) 森林は県民の財産、財産である森林を上手く活用していけたら県民の宝となると思います。
- (2) 軽視できないと思うので、頑張ってください。
- (3) 環境保全へのご尽力ありがとうございます。
- (4) 森の重要性は分かっているつもりだったが、自分とは関係ないという感覚でした。これからはもう少しきちんと目を向けて行こうと思います。
- (5) 森林はなくてはならない重要なものと考えていますが、手入れをしないと自然の脅威となるものでもあると思います。緑の県民税で必要な手入れや森林保全ができるのでしたらとても良いと思います。以前は四日市市に住んでいましたが、緑豊かな公園が多く子育てにはとても良い環境だと感じました。今は菰野に住んでいますが、自然が多くとても気持ち良いです。森林教育ステーションにも遊びに行き、子どもも大喜びでした。三重の豊かな自然を守り次世代に継承することはとても大事だと考えています。
- (6) 最近会社でもCO2排出0を目指して、様々な取り組みを始めていますが、まだ実感として、何をやるのが明確ではないのが実情です。カーボンニュートラルに対して、森林はとても重要な役割がある事は認識しています。子供の頃と比べると、森林も大分減ってきており、又、土砂災害もその為が、増えてきている感じます。三重県の森林を守る為の森林環境税は賛成です。
- (7) 過疎化していく農村地帯の森林を守っていく上で重要な取り組みだと思います。
- (8) 普段は余り意識することもなく、また、誰もがあまり積極的に関わろうとはしない分野だとは思いますが、従事される方々の苦勞が偲べれます。地道な活動をお続けいただきたいと思います。
- (9) これからますます整備の叶わない山林が増えていくことと思います。行政の手により少しでも未来へと活用いただければと思います。国の政策と共に、林業の復活・推進も併せて進めていただきたい。
- (10) いつも森林を守ってくれてありがとうございます。これからもよろしくお願いします。
- (11) 第一次産業としてよろしく願いいたします。
- (12) 森林は、自然の一部として、教育の一環として、必要不可欠なものだと考えます。これからも取り組みよろしくお願いします。
- (13) 県営の無料キャンプ場を作って頂けると、ありがたい。また、森や山で遊ぶ知識を得る講座や木材を使ったワークショップに興味があります。
- (14) 林業が企業活動としても充分成り立ち、国産木材の利用が広がるための環境作りが大切だと思います。
- (15) 自然環境や人材育成は一度無くすと取り戻すには、時間や労力や資金が多分に必要になってくるので、継続的な取組が必要。
- (16) 森林の整備をもっとすればいいのにと前から思っていました。
- (17) 小さい頃から山で遊んだりキャンプをしたりしていたので、次の世代の子供たちにも山の楽しさを知ってもらいたいです。今必要な整備の後でいいので、是非そうした機会・場所を作ってあげてください。

- (18) 「森林」という言葉から「人の手が入らない自然なもの」をイメージしてしまいました。しかし現実には何もなければ荒れて衰退してってしまうものなのだと改めて考えさせられました。実際に動いていただいている方々の労力は大変なものとは思いますが、とても重要なことだと思います。あまり詳しくないので新たな意見などは無くて申し訳ありませんが、三重県の価値、魅力のひとつとして、もっとクローズアップされ、テーマパークに匹敵するくらいの特別感を持たせることができ、多くの人が森林を楽しみながらも実はそれが貢献にもなっていた、というような仕組みができたとしたらすごいと思います。自分が見えていないところで活躍していただいている皆様に感謝します。
- (19) 今回の三重の森林づくりに関する県民意識調査の依頼をいただくまで「みえ森と緑の県民税」のことを知らず、どのような取り組みがされているか知りませんでした。調査票で少しわかってよかったです。水源や防災、漁業への影響があり大切であることはわかっていましたが、さらに関心を持ち、できることを考えていきたいです。森林公園がもう少し整備されるとよいと思います。
- (20) 森林の管理、維持はその付近に限らず沢山の地域に豊富な資源をもたらすと思うので、これからも積極的に森林を守る施策を打ち立てて欲しい。
- (21) 森林に関しては、行政でしか守れない事が多いので、しっかりと意味のある取り組みを行って頂きたいです。
- (22) 森林の土地所有者、又は森林の高齢、又は相続により相続された者は現状、森林の活用やメンテナンスなどが難しい状況になっており、市町村、県、国などの行政が積極的に無償で土地、森林の所有者の手助けをすべき。例えば、森林の適当な伐採、境界の明確化、手続の代行、土地活用の仲介など。
- (23) 人が綺麗、心地よいという設備を整備するのではなく、100年、1000年においても自然が長く続くようにお金を活かしてほしい。
- (24) 環境問題について早期に実行すべきだと思う。(失敗してもいいと思う。)
- (25) 所有者不明や放置されている森林の管理は、どうされていますか？日本の木材が外国産の安い物に価格で負けて、木を植えても採算が取れない状態になってから随分となりました。エネルギー問題や昨年からのウッドショックで、日本の木材が見直されてきた今、もっと森林の多様性をアピールする機会を設け、活動につなげていただきたいと思います。
- (26) 国産の材木は高価でなかなか使用されないと聞きます。植林された杉、檜等もっと利用できるようにする対策(例えば補助金等)を充実させてはどうか。また今、現在植林されてない所に、保水効果の高い広葉樹を植林する計画はあるのでしょうか。なければ是非、計画をお願いしたい。
- (27) 山登りすると沢山の倒木を見かけます。倒木も資源として活用出来たら、山の景観も改善されますので、頑張って活動をお願いします。登山道の途中に五右衛門風呂とか？あれば嬉しいです。
- (28) ひばりが丘中央公園、ひばりが丘東公園の木を桜に植え替えてほしい。
- (29) 森林づくりは環境問題として大切だと思う一方、人工的に植樹された杉の木が成長して今、花粉症の患者が増えているという情報もあり、当時では想定できない事が起こっています。理想論ですが原生林を活かしつつ整備の必要な森林は人の手が加えられて、より良い森林環境づくりが可能であればと思いました。
- (30) 私の住む町は国立公園があり、緑の豊かな所ですが、整備されているようには感じられません。バスが通る路線等でも木が道路まで覆う箇所が沢山、見受けられます。その為、それらを避けて通る車が多く運転に非常に気を使います。そんな町の森林整備も忘れずに進めて欲しいです。

- (31) 森林管理が個人では金銭的に不可能なのでタダでも良いから手放そうと思っても誰も引き取ってくれない。国が費用を負担して市町村役場や森林組合に容易に譲渡できる制度を作らないと国土が海外に買われてしまう。
- (32) 植林を増やしすぎて自然環境を変えてしまったせいで、土砂災害や花粉症問題、放置林などの問題がある。人間の責任として、植林面積を見直し、ドングリや落葉樹を植えて本来の里山を蘇らせてほしい。合わせて、林業の見直し、木材の有効活用など長期的に取り組むことが必要だと思います。
- (33) 森林づくりに関わる人々の育成を積極的に進めてほしい。特に若者達に託したいと思います。また、関係者には日頃の活動に感謝します。これからもがんばってください。
- (34) 意識向上のために、小中学生の林業体験などを、広く進めてほしいと思います。
- (35) 子供たちへの教育だけではなく、親たち大人の意識も変えてほしいです。大切なことはわかっている、身近なことで出来ること等で、どんな行動をしたらいいのか具体的にわからないから、何も行動できないままになってるように思います。
- (36) 森林について学び、触れ合う時間を、子どもの頃から学校の授業などで設けると良いのではないかと思います。
- (37) 山が削られて猿が降りてくることが多い。子供が居るので対処が必要。
- (38) 可能な限り後世に残りえる、人々が関わりあえる環境の森林を維持してほしいです。また、森林維持には近年シカや猪などの獣の増えすぎなども問題なので森林業務従事者の育成以外にハンターの人材育成にも注力して頂きたいです。また活動の社会的アピールもして下さい。
- (39) 森林の伐採を行うことにより、鳥類の居場所がなくなるのか、住宅地へ飛んでくるようになります。今春は20年間何もなかった鳥の騒音や糞害に悩まされました。渡り鳥のようですが、伐採後の近隣環境もご確認いただければと思います。
- (40) 害獣被害を防止するのにお金をかけるなら、数を適正にするべく狩猟規制を緩め、お金を出して狩猟数を増やすほうが根本的な対策になるのでは。
- (41) 動物達の住みかを増やしてください。
- (42) 近年貴重になりつつある里山を適度に整備し保護をしてほしいと思う。人口増加に伴い里山を造成し宅地にする事は仕方のない事だが、それにより昆虫のオオクワガタが準絶滅危惧種になっている事、フクロウやミミズク鳥類の数が減少している事に目を向けてほしい。
- (43) 森林伐採し、ソーラーパネルを設置しているのを津市内でも見かける。一時的に利益が出るだけで、負の遺産となるだけなので防止したい。
- (44) 取り組みは素晴らしいと思いますが、ソーラーパネルで自然を破壊し、土砂崩れの危険性があるのを分かっているでどんどんソーラーパネル設置するのはどうでしょうか？それでまた壊れた森林を県民の税金で直すとか、意味ありますか？県民税からの財源でやるべきなのかと思う項目もありました。
- (45) 最近、再生可能エネルギーが注目をあびて、太陽光発電システムがあちこちに作られ、防災等で大事な三重県の森林がなくなろうとしています。もう少し、規制を強めて森林がなくならないようにしてほしいと思います。航空写真で見ると、涙が出そうになります。森林の範囲が虫食い状態にならないか心配です。
- (46) 子どもの頃に遊び回った里山が、住宅地になったり、工業団地になったり、人工的な公園になったりして寂しい気持ちです。開発と自然を守るということは難しい課題だと思います。
- (47) 太陽光発電のために森林を伐採するのは条例等で何らかの制限を設けるべきだと思う。

- (48) 過剰なメガソーラーの建設に規制を設けて欲しいです。子供の頃よく遊び親しんだ山にも大規模なメガソーラーが建設され、昔の面影も無く悲しい気持ちになりました。また、建設業者も県や市が許可を出した業者のみにするなど、対策を取って下さい。(重機搬入の道路使用許可も取らず、伐採した材木や不要な土砂を放置するなど悪質な業者がいます。私自身もトラブルに巻き込まれ損害が発生し、警察にも届けました。)個人の土地をどう使うかは自由ですが、自然豊かな三重の景色を大切にしたいと思います。
- (49) 私の住む町に隣接する山林に風力発電の計画がある。工事用道路を作り、山の尾根に多くの風車を設置する計画である。工事用道路など土砂を切り盛りする事により、災害がおきる危険性が増す。ブナ林などの自然林も破壊されてしまう。これは、森林づくりとは真逆の行為である。このような事業は絶対にやらせてはならない。
- (50) ここ数年、森林を伐採して太陽光パネルを設置しているのをよく目にする。そういう人たちに森林の大切さを理解する機会を与えるべきではと思う。
- (51) 風力発電、太陽光発電などで森林を破壊することはすべきではありません。行政がしっかり監視してほしいですし、許可してはいけません。伊賀市にもこれ以上増やさないでください。
- (52) 今回のアンケートで「みえ森と緑の県民税」について、初めて知りました。このような取り組みを実施しているのは、良いことと思います。もう少し広報を行い、認知度を上げて、森林に関わる機会を増やせると良いと思います。
- (53) 森林の重要性を発信し続けてください。
- (54) 子供が参加できる、清掃や体験、イベント情報を、もっと広く提示してほしいです。
- (55) 「みえ森と緑の県民税」の周知が全くできていないと感じる。周りの公務員でさえ知らない。また、小～高の各学校で森林に関する教育を定期的に行う必要がある。森林づくりの参加は本気で良くしたいと志す方の集まりならいいが、義理の寄せ集めならやめた方がいい。
- (56) 今回のアンケートで初めて知ったことがたくさんあります。正直言って、県民が、森林・林業の必要性、重要性を認識している割合はかなり低いのではないのでしょうか。どのように伝えるのが有効なのか、すごく難しいと思います。また、必要性、重要性を認識したとしても、積極的に関わろうとする気持ちにはならず、税負担で済むなら、納めさせていただきます、というのが、申し訳ないですが正直な気持ちです。
- (57) 大事な活動です。県民への活動内容が浸透不足ではないでしょうか。
- (58) 森林を守る事がどうして大切なのかを、分かりやすく広報する活動を継続し続けて欲しい。
- (59) テレビやインターネット、SNS(YouTube・Instagram・Facebook 等)での情報発信を積極的に行っていた方が良い。
- (60) 今日、明日では出来ない世代を超えて創っていかないといけない重要な事、温暖化やゼロカーボンみたく国がもっとアピールして周知していかないと次世代へ負債になる、水資源が豊富な日本だからこそもっと幅広く知っておくべき事柄だと思う。
- (61) 財源を税金からでなく、未利用間伐材などを産業廃棄物にすることなく、有効利用が出来るような新技術の開発などに注力していただきたい。財源を税金に頼らず、企業会計を目指す様に考え方を変わっていくという取り組みを三重県から実施して欲しい。
- (62) 森林環境税を徴収するに至った経緯を知りたい。他の支出を適正にし、捻出できないのか。
- (63) 税金の額を一定にするのではなく、所得に応じた額にしたほうが良いと思います。
- (64) 出来れば市民の税金ではなく、他の所から出資して頂きたいです。

- (65) 森の維持は大切なことで、子ども達にとっても自然を触れ合う大事な物だと思う。ただし必ず正しい税金の使い方をする事。みえ森と緑の県民税と言う名目の税はそれ以外には使用しないと約束は出来るのでしょうか？それが出来るのであれば進んで納税するが、それ以外の使用や、1 円の収支報告が出来ないのであれば反対である。私の働いた大事なお金を預かっているという、当たり前を理解をされているのか疑問である。税金とは、富の再分配である事を忘れないように。
- (66) 災害対策などは必要であると考えますが通常県民税とは別に森とみどりの県民税を負担してまでの必要があるのか疑問に思う。現在、円安、電気代の上昇、物価の上昇、コロナ禍による収入減少などで多くの人たちが大変は思いをしている状況においても絶対に必要なのか、予算のやりくりを上手くしてできないのか、また災害対策を言うのであれば海の津波対策は大丈夫なのかなぜ森林だけなのか、もちろん県議会は通過しているのですが、疑問に思う点が多い。
- (67) 問 12 で、県民税を活用して実施している項目についてどのように思うか、という項目がありましたが、実施内容だけでは何とも言えないものが多く感じました。実施してどのような結果になったのか、を踏まえると回答しやすいと思います。
- (68) 森林・林業行政は、日々の暮らしと直接関わりがなく、少し距離のあるテーマであるように感じます。

調査票

三重の森林づくりに関する県民意識調査

～ご協力のお願～

【調査目的】

このたび、この調査票をお受け取りいただいたあなたに、「三重の森林づくりに関する県民意識調査」へのご協力をお願いすることになりました。

この調査は、県内市町の選挙人名簿から18歳以上の県民の皆さん5,000人を実無作為に抽出し、皆さんの森林づくりに関する意識を把握して、今後の三重県の森林づくりの参考とすることを目的に行います。

森林は、土砂災害や洪水を防止する機能やきれいな水を蓄える機能など、私たちの暮らしに欠かすことのできない大切な働きを持っています。しかし、山村地域の過疎化や林業の低迷によって、手入れが行き届かず荒廃した森林が増えているほか、異常気象に伴う山崩れなどの自然災害が多く発生しています。

こうした中、県では、平成26年度から「みえ森と緑の県民税」を導入し、これを財源として、山崩れや洪水などの災害発生リスクを軽減するための「災害に強い森林づくり」と、そうした森林づくりを将来にわたって引き継いでいくための「県民全体で森林を支える社会づくり」に取り組んでいます。

加えて、温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図ることを目的に、令和元年度から全国の市町村や都道府県に対し、森林環境譲与税が国から譲与されており、本県では、「みえ森と緑の県民税」を活用した取組と棲み分けを行いながら、森林・林業に関する施策を進めているところです。

なお、当譲与税の財源として、令和6年度から、個人の方は森林環境税として年間1,000円をご負担いただくことになっています。

この調査は、今後、三重県が「みえ森と緑の県民税」を活用した森林づくりを適切に進めるにあたって、重要な基礎データとなるものです。お忙しいところ誠に恐れ入りますが、ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、回答は無記名式であり、集計した結果のみを使用しますので、個人情報が特定されることは一切ございません。また、ご回答いただいた内容は、森林づくりに関する県民意識の調査のみを目的に、個人を特定しない統計情報として利用するものです。

令和4年7月

三重県農林水産部

調査機関 (お問合せ先)	三重県農林水産部みどり共生推進課 みどり推進班 電話 059-224-2513 fax059-224-2070 e-mail : midori@pref.mie.lg.jp	
-----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------

～みえ森と緑の県民税に関するホームページ及び問い合わせ先～

○税の使いみちに関すること

右の QR コードからホームページにアクセスできます。

問い合わせ先：農林水産部みどり共生推進課

TEL 059-224-2513

e-mail：midori@pref.mie.lg.jp



○税のしくみに関すること

右の QR コードからホームページにアクセスできます。

問い合わせ先：総務部税収確保課

TEL 059-224-2128

e-mail：zeimu@pref.mie.lg.jp



～森林環境税及び森林環境譲与税について～

○森林環境税及び森林環境譲与税について、

詳しくは、林野庁のホームページをご覧ください。

右の QR コードからアクセスできます。



○三重県では、「森林環境譲与税活用についての基本

的な考え方」を市町と共有しながら、森林・林業に
関する施策を進めています。

詳しくは、三重県ホームページをご覧ください。

右の QR コードからアクセスできます。



【調査票】三重の森林づくりに関する県民意識調査

本アンケートは、紙（本紙）または、インターネットでご回答ください。
インターネットで回答される場合は、下記 URL を直接ご入力、または、
QR コードからアクセスいただけます。

<https://www.c-pass.jp/mie-forest>



ログイン画面が表示されましたら、以下に記載されている ID・パスワード
を入力し、ご回答ください。

ID	〇〇〇
パスワード	〇〇〇

～あなた自身について～

最初に、あなたご自身についてお尋ねします。それぞれあてはまる番号1つだけに○をつけてください。

問1 ご自宅のある市町は（○は1つだけ）

1：四日市市	2：桑名市	3：鈴鹿市	4：亀山市
5：いなべ市	6：木曽岬町	7：東員町	8：菰野町
9：朝日町	10：川越町	11：津市	12：松阪市
13：多気町	14：明和町	15：大台町	16：伊勢市
17：鳥羽市	18：志摩市	19：玉城町	20：南伊勢町
21：度会町	22：大紀町	23：伊賀市	24：名張市
25：尾鷲市	26：紀北町	27：熊野市	28：御浜町
29：紀宝町			

問2 あなたの性別は（ご自身が認識する性でお答えください。）
（○は1つだけ）

1：男性	2：女性	3：（ ）
------	------	-------

問3 年齢は（○は1つだけ）

1：29歳以下	2：30歳～39歳	3：40歳～49歳
4：50歳～59歳	5：60歳～69歳	6：70歳以上

問4 職業は（○は1つだけ）

1：農林水産業 （家族従事者も含みます）	2：自営業、自由業 （家族従事者も含みます）
3：企業、役所、団体などの正規職員	4：パート、アルバイト、派遣社員など
5：その他、収入のある仕事	6：学生 （アルバイトなどをしている方も含みます）
7：専業主婦、専業主夫	8：無職

～森林との関わりについて～

問5：三重県は県土の3分の2が森林です。そのうち、約6割は人が植え、育てた人工林（スギやヒノキ）と呼ばれる森林であることを知っていましたか。
（あてはまる番号1つだけに○をつけてください。）

（○は1つだけ）

- | |
|----------|
| 1：知っていた |
| 2：知らなかった |

問6：あなた、もしくはあなたの家族（同居されている家族に限定）は、森林を所有していますか。（あてはまる番号1つだけに○をつけてください。）

（○は1つだけ）

- | |
|-----------|
| 1：所有している |
| 2：所有していない |
| 3：分からない |

問7：あなたが子どもの時、森林とふれあう機会はどの程度ありましたか。
（あてはまる番号1つだけに○をつけてください。）

※森林とふれあう機会は、森林をフィールドとした遊び、学び、地域活動など、以下の例を参考に幅広く捉えてください。

（例）森林散策、虫取り、登山、キャンプ、野外体験保育、森林体験学習、植樹活動など

（○は1つだけ）

- | |
|---------------------|
| 1：森林とふれあう機会が多かった |
| 2：森林とふれあう機会がある程度あった |
| 3：森林とふれあう機会があまりなかった |
| 4：森林とふれあう機会がなかった |

問8：あなたと森林の現在の関わりについて教えてください。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください。複数回答可)

(○はいくつでも)

- | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none">1：森林に関係する仕事をしている2：森林に関係する活動に参加している（地域の植樹活動、里山整備など）3：休日などに森林とふれあう機会がある4：森林とふれあう機会がない |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

問9：あなたは森林についてどのように感じていますか。

(あてはまる番号1つだけに○をつけてください。)

※森林との関わりについては、森林に関係する仕事や活動（植樹活動や里山整備など）だけでなく、森林とふれあう機会も含めて、今後どのように感じているかお答えください。

(○は1つだけ)

- | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none">1：森林は大切だと感じており、積極的に関わっていきたい2：森林は大切だと感じており、機会があれば関わっていきたい3：森林は大切だと感じているが、あまり関わろうとは思わない4：森林を大切だとは感じていない |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

～森林の多面的機能について～

問10-1：森林には、木材等の資源の供給のほか、土砂災害の防止、水源のかん養、地球温暖化防止、生物多様性の保全、保健・休養など、様々なはたらきがあり、私たちはこの森林の「恵み」を享受しています。これらの森林のはたらきは「森林の有する多面的機能」と呼ばれています。

あなたは次の森林のはたらきのうち、重要であると考えられるものは何ですか。(あてはまる番号に3つまで○をつけてください。複数回答可)

(○は3つまで)

- 1：山崩れや洪水などの災害を防止するはたらき
- 2：二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献するはたらき
- 3：水資源を蓄えるはたらき
- 4：空気をきれいにしたり、騒音をやわらげるはたらき
- 5：住宅用建材や家具、紙などの原材料となる木材を生産するはたらき
- 6：心身の癒しや安らぎの場を提供するはたらき
- 7：貴重な野生動植物の生息・生育の場としてのはたらき
- 8：自然に親しみ、森林と人との関わりを学ぶなど教育の場としてのはたらき
- 9：きのこや山菜などの林産物を生産するはたらき
- 10：その他
- 11：特に重要なはたらきはない
- 12：わからない

問10-2：前問で「10：その他」を選択した方にお聞きします。あなたが重要であると考えられる「その他」の森林のはたらきを記載してください。

(自由記載)

～みえ森と緑の県民税～

問1 1：あなたは、「みえ森と緑の県民税」を知っていましたか。

(あてはまる番号1つだけに○をつけてください。)

「みえ森と緑の県民税」は、個人と法人の県民税均等割りに上乗せして納めていただいております。税額は、個人が年額1,000円、法人は資本金額に応じた県民税均等割りの10%相当額（年額2,000円～80,000円）です。

(○は1つだけ)

1：知っていた

2：知っていたが、課税方法や課税額など詳しい内容は知らなかった

3：このアンケートで初めて知った

問1 2：県では、「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるため、「みえ森と緑の県民税」を活用し、市町とともに次の①～⑬のような取組を実施しています。こうした取組の重要性について、どのように思いますか。(それぞれあてはまる番号1つだけに○をつけてください。)

① 災害に強い森林づくりのための森林整備



大雨の際に、流木や土砂の流出による災害発生の恐れがある溪流沿いの森林において、危険木や堆積した土砂の除去とともに、木を太らせ根を発達させることで、斜面を安定させることを目的とした調整伐（抜き切り）を実施

「みえ森と緑の県民税」を活用し、こうした取組を実施していますが、どのように思いますか。
(○は1つだけ)

1：とても重要

2：ある程度重要

3：あまり重要でない

4：全く重要でない

5：わからない

② 航空レーザ測量による森林資源情報の解析



詳細な森林資源情報（木の種類・本数や斜面の傾斜等）を調査し、災害発生の危険性の高い地域等を客観的に把握することなどを目的に、航空レーザ測量と森林資源情報の解析を実施

「みえ森と緑の県民税」を活用し、こうした取組を実施していますが、どのように思いますか。
(○は1つだけ)

- 1：とても重要
- 2：ある程度重要
- 3：あまり重要でない
- 4：全く重要でない
- 5：わからない

③ 植栽木をシカ等の食害から守る取組



植栽した苗木がニホンジカ等に食べられることにより、森が育たず、森林の持つ土砂流出防止などの機能が低下することを予防するため、獣害防止柵などの整備を実施

「みえ森と緑の県民税」を活用し、こうした取組を実施していますが、どのように思いますか。
(○は1つだけ)

- 1：とても重要
- 2：ある程度重要
- 3：あまり重要でない
- 4：全く重要でない
- 5：わからない

④ 荒廃した里山や竹林の再生



地域住民が主体となって取り組む、荒廃した里山や竹林の整備活動への支援

「みえ森と緑の県民税」を活用し、こうした取組を実施していますが、どのように思いますか。
(○は1つだけ)

- 1：とても重要
- 2：ある程度重要
- 3：あまり重要でない
- 4：全く重要でない
- 5：わからない

⑤ 公共施設や電線等を守るための危険木の除去



生活道路や電線、集落の周辺において、台風等により倒木となる恐れがある危険木の事前伐採などを実施

「みえ森と緑の県民税」を活用し、こうした取組を実施していますが、どのように思いますか。
(○は1つだけ)

- 1：とても重要
- 2：ある程度重要
- 3：あまり重要でない
- 4：全く重要でない
- 5：わからない

⑥ 海岸林を松くい虫による被害から守る取組



防風・防潮機能を有する海岸沿いの松林を松くい虫の被害から守るため、薬剤の地上散布（写真左）や樹幹注入（写真右）などの病虫害防除の取組を実施

「みえ森と緑の県民税」を活用し、こうした取組を実施していますが、どのように思いますか。
(○は1つだけ)

- 1：とても重要
- 2：ある程度重要
- 3：あまり重要でない
- 4：全く重要でない
- 5：わからない

⑦ 未利用間伐材を木質バイオマス等に利用する取組



里山などの整備で発生する、これまでは放置されていた間伐材を木質バイオマス（発電や熱利用の原料）などに利用する取組への支援

「みえ森と緑の県民税」を活用し、こうした取組を実施していますが、どのように思いますか。
(○は1つだけ)

- 1：とても重要
- 2：ある程度重要
- 3：あまり重要でない
- 4：全く重要でない
- 5：わからない

⑧ 森林教育指導者や森づくり技術者の育成



森林教育の指導者の育成(写真左)や森づくり活動を行うボランティア等の技術力向上のための各種講座(写真右)、学校において森林教育を進めるための教職員向け研修の実施

「みえ森と緑の県民税」を活用し、こうした取組を実施していますが、どのように思いますか。
(○は1つだけ)

- 1：とても重要
- 2：ある程度重要
- 3：あまり重要でない
- 4：全く重要でない
- 5：わからない

⑨ 保育所や学校における森林教育の取組



保育所の野外学習(写真左)や小中学校における出前授業(写真右)など、子どもたちが森林について学ぶための森林教育活動を実施

「みえ森と緑の県民税」を活用し、こうした取組を実施していますが、どのように思いますか。
(○は1つだけ)

- 1：とても重要
- 2：ある程度重要
- 3：あまり重要でない
- 4：全く重要でない
- 5：わからない

⑩ 県民が森林づくりに参加する機会の提供



「災害に強い森林づくり」への理解を深め、「県民全体で森林を支える社会づくり」を推進するため、気軽に森林とふれあえるイベント(写真左)や県民参加の植樹祭(写真右)など、森林づくりに参加する機会を提供

「みえ森と緑の県民税」を活用し、こうした取組を実施していますが、どのように思いますか。
(○は1つだけ)

- 1：とても重要
- 2：ある程度重要
- 3：あまり重要でない
- 4：全く重要でない
- 5：わからない

⑪ 森林教育を行うフィールドの整備



楽しみながら木に触れ、木のぬくもりや森のはたらきについて学べる森林教育ステーション(写真左上)などの施設整備や、学校林(写真右上)の整備、木製備品の導入(写真左下、右下)などを実施

「みえ森と緑の県民税」を活用し、こうした取組を実施していますが、どのように思いますか。

(○は1つだけ)

- 1：とても重要
- 2：ある程度重要
- 3：あまり重要でない
- 4：全く重要でない
- 5：わからない

⑫ 生物多様性保全のための取組



サンバ(写真左)等の希少野生動植物種の調査など、自然環境や生物多様性に関する情報収集やデータベース化とともに、生物多様性保全活動に対する支援(写真右)を実施

「みえ森と緑の県民税」を活用し、こうした取組を実施していますが、どのように思いますか。

(○は1つだけ)

- 1：とても重要
- 2：ある程度重要
- 3：あまり重要でない
- 4：全く重要でない
- 5：わからない

⑬ 水や緑に親しむことができる森林公園等の整備



森林浴など森林による癒しや健康増進のフィールドとなる森林公園等(写真左)において、遊歩道の設置(写真右)などの環境整備を実施

「みえ森と緑の県民税」を活用し、こうした取組を実施していますが、どのように思いますか。
(○は1つだけ)

- 1：とても重要
- 2：ある程度重要
- 3：あまり重要でない
- 4：全く重要でない
- 5：わからない

<参考>みえ森と緑の県民税事業成果報告書

毎年度、「みえ森と緑の県民税」を活用して実施した事業の成果報告書を作成しています。

詳細は、右のQRコードからホームページにアクセスしてご確認いただけます。



問 1 3 : 「みえ森と緑の県民税」の制度については、毎年度、「みえ森と緑の県民税評価委員会」により評価・検証を行い、必要に応じておおむね5年ごとに見直すこととしています。平成26年度に導入した「みえ森と緑の県民税」は、現在、第2期（令和元年度～令和5年度）の取組を実施しているところであり、第3期（令和6年度～令和10年度）に向けて、今後、制度の見直し議論を進めていく予定です。

第3期も、「みえ森と緑の県民税」を活用し、問12のような取組を通じて「災害に強い森林づくり（①～⑦の取組）」と「県民全体で森林を支える社会づくり（⑧～⑬の取組）」を進めることについて、あなたはどのように思いますか。（あてはまる番号1つだけに○をつけてください。）

（○は1つだけ）

- | | |
|--------------|-------|
| 1：賛成 | →問14へ |
| 2：どちらかといえば賛成 | →問14へ |
| 3：どちらかといえば反対 | →問15へ |
| 4：反対 | →問15へ |
| 5：どちらとも言えない | |

問 1 4 : 問 1 3 で 「 1 : 賛成 」 または 「 2 : どちらかといえば賛成 」 を選ばれた理由を教えてください。

（あてはまる番号に3つまで○をつけてください。複数回答可）

（○は3つまで）

- | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1：「森林の有する多面的機能」はすべての県民がその恩恵を享受しているから |
| 2：県内にはまだ整備が必要な森林が多く残っているから |
| 3：「災害に強い森林づくり」には、長期的・継続的に取り組んでいくべきだから |
| 4：「災害に強い森林づくり」は、個々の森林所有者が行うことはむずかしいから |
| 5：子どもたちはもちろん、すべての県民に、森林の大切さや木材を使うことの意義について理解を促すことで、「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めることは、継続的に取り組んでいくべきことだから |
| 6：年額1,000円であれば負担できるから |
| 7：その他【 】 |

問 1 6 - 1 へ

問15：問13で「3：どちらかといえば反対」または「4：反対」を選ばれた理由を教えてください。

(あてはまる番号に3つまで○をつけてください。複数回答可)

(○は3つまで)

- 1：これまでの「みえ森と緑の県民税」を活用した取組について、必要性を感じないから
- 2：森林に関わる機会が少なく、森林の恩恵が感じられないから
- 3：「災害に強い森林づくり」をはじめとした森林整備は森林所有者が行うべきだから
- 4：令和元年度から県と市町に譲与されている森林環境譲与税を活用して、取り組むべきだから
- 5：これまでの取組について、効果が感じられないから
- 6：年額1,000円の負担が厳しいから
- 7：その他【 】

<参考>みえ森と緑の県民税評価委員会による評価

「みえ森と緑の県民税」を活用して実施した事業は、第三者による「みえ森と緑の県民税評価委員会」により、毎年度、評価検証を行い、必要に応じて事業の見直しを行っています。

評価委員会の開催状況や評価結果の詳細は、右のQRコードからホームページにアクセスしてご確認いただけます。



～森林づくりに関する情報～

問16-1：あなたは、森林づくりに関する情報を、どのような媒体で目にしますか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください。複数回答可)

(○はいくつでも)

1：テレビ	2：ラジオ	3：新聞
4：県広報誌	5：インターネット ホームページ	6：Facebook (フェイスブック)
7：YouTube (ユーチューブ)	8：Instagram (インスタグラム)	9：Twitter (ツイッター)
10：映画館CM (シネアド)	11：その他	12：目にすることは ない
13：関心がない		

問16-2：前問で「11：その他」を選択した方にお伺いします。具体的にどのような媒体で情報を目にしますか。

～森林づくりに関するご意見・ご要望～

問17：県の森林・林業行政について、ご意見・ご要望などございましたらご記入ください。(自由記載)

★ご協力ありがとうございました。

7月29日(金)までに、同封の返信用封筒(切手不要)に入れてご投函ください。

三重県
三重の森林づくりに関する県民意識調査
結果報告書
令和4年10月

三重県農林水産部 みどり共生推進課
〒514-8570 津市広明町 13 番地
電話番号:059-224-2513
